

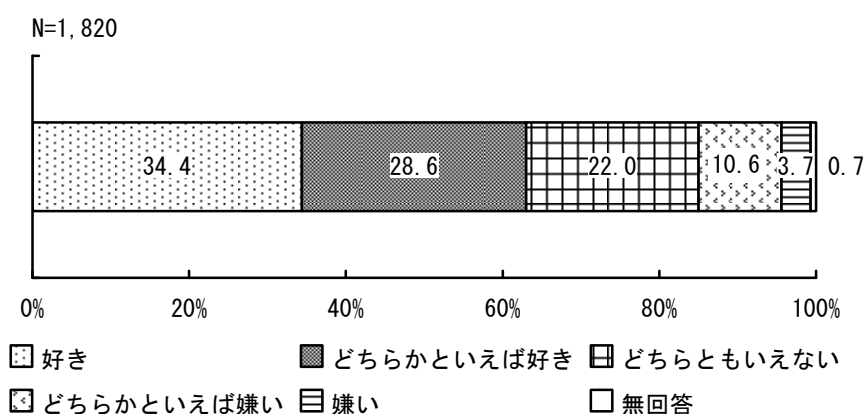
## IV

## 調査結果

## 「スポーツ」について

## (1) スポーツや運動の好き嫌い

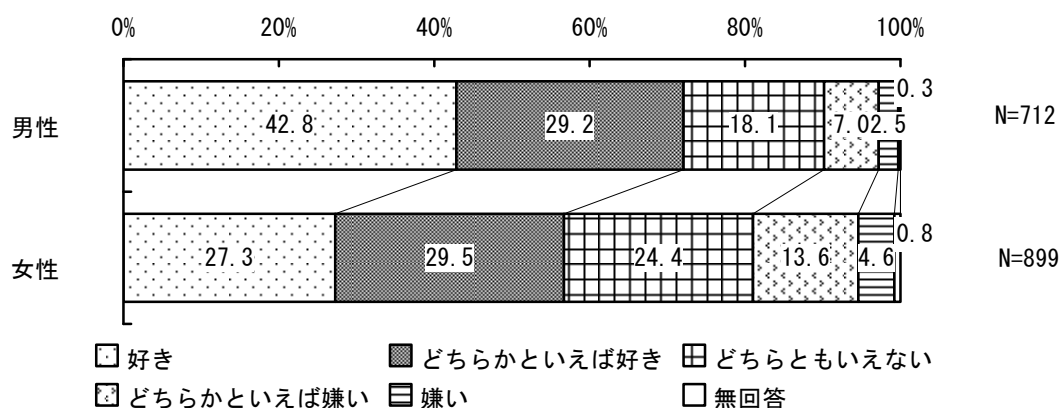
問1 あなたは、スポーツや運動をすることが好きですか。それとも嫌いですか。次の中から1つだけ選んでください。



スポーツや運動をすることが好きか嫌いか尋ねたところ、「好き」という人が最も多く34.4%、「どちらかといえば好き」という人も28.6%に達し、両者を合わせたスポーツや運動をすることが“好き”は63.0%でほぼ3人に2人となっている。

性別にみると、「好き」という人が男性に多く42.8%を占め、女性よりも15.5ポイント上回っている。また、「どちらかといえば好き」を合わせた“好き”においても男性が72.0%、女性が56.8%となっており、こちらも男性の方が多くなっている。

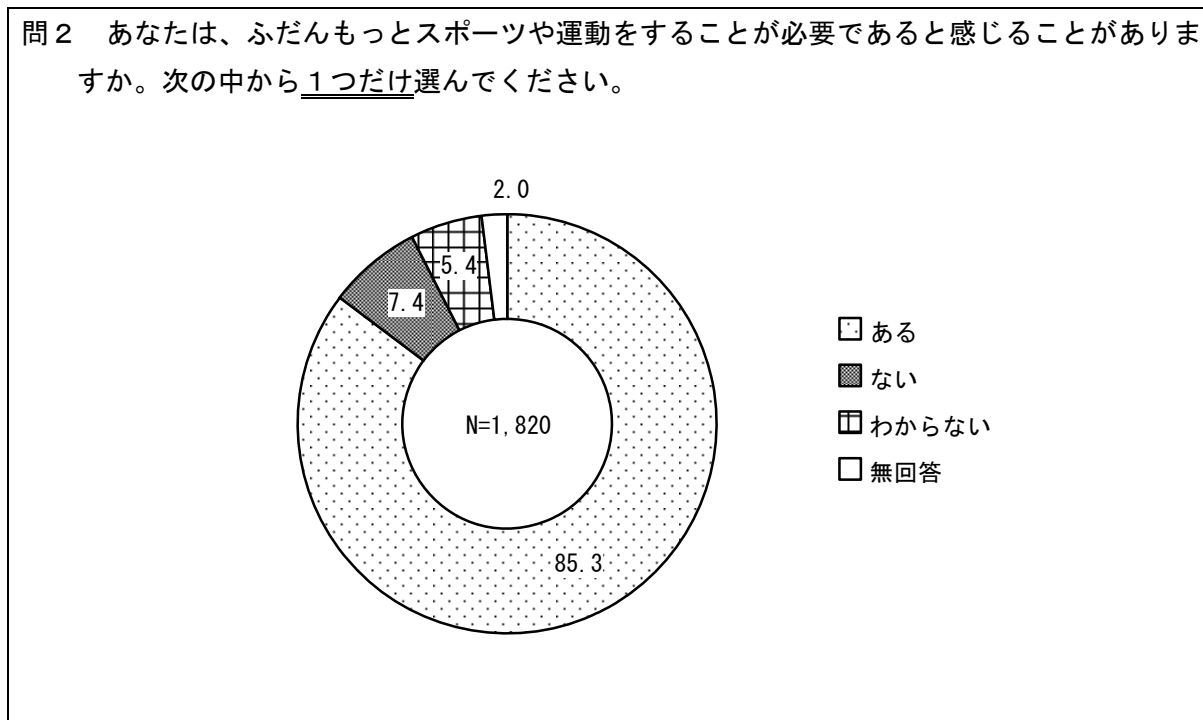
## 【性別】



IV. 調査結果

(2) スポーツや運動の必要性

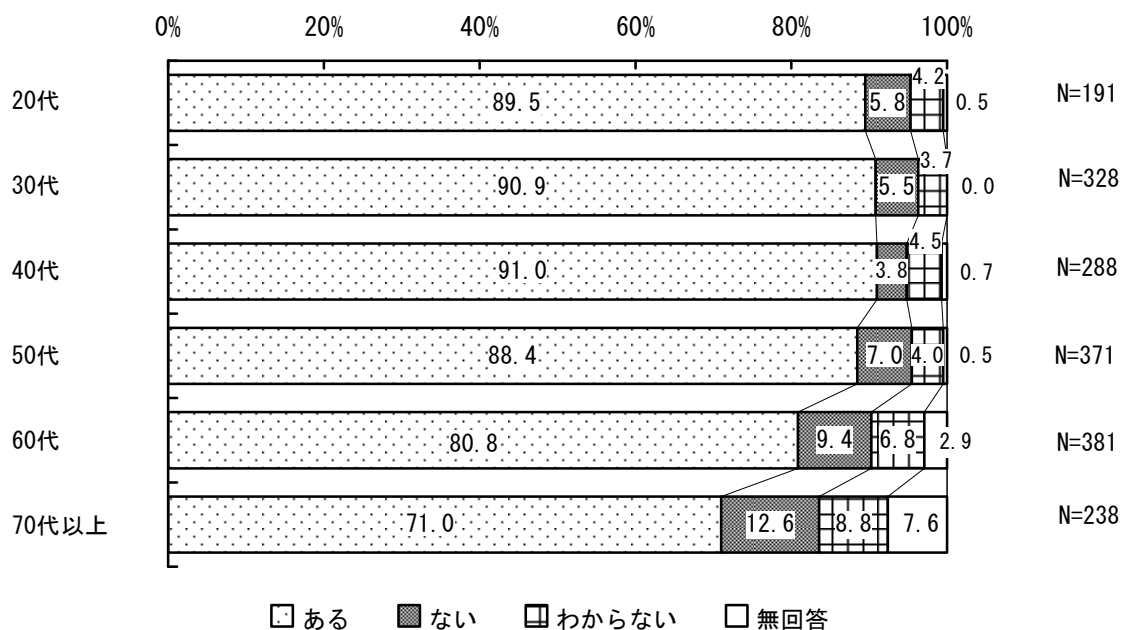
問2 あなたは、ふだんもっとスポーツや運動をすることが必要であると感じることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



スポーツや運動をすることが必要であると感じることがあるか尋ねたところ、「ある」と回答した人が85.3%と大半を占めている。一方、「ない」は7.4%、「わからない」は5.4%でいずれも1割未満となっている。

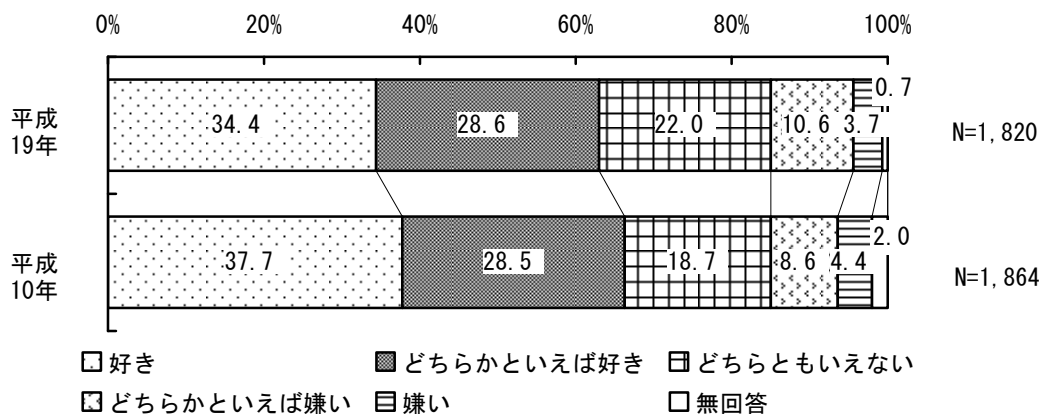
年代別にみると、「ある」と回答した人は、30代、40代で9割を超えるなど、若年層に多い回答となっている。

【年代別】



<前回調査との比較>

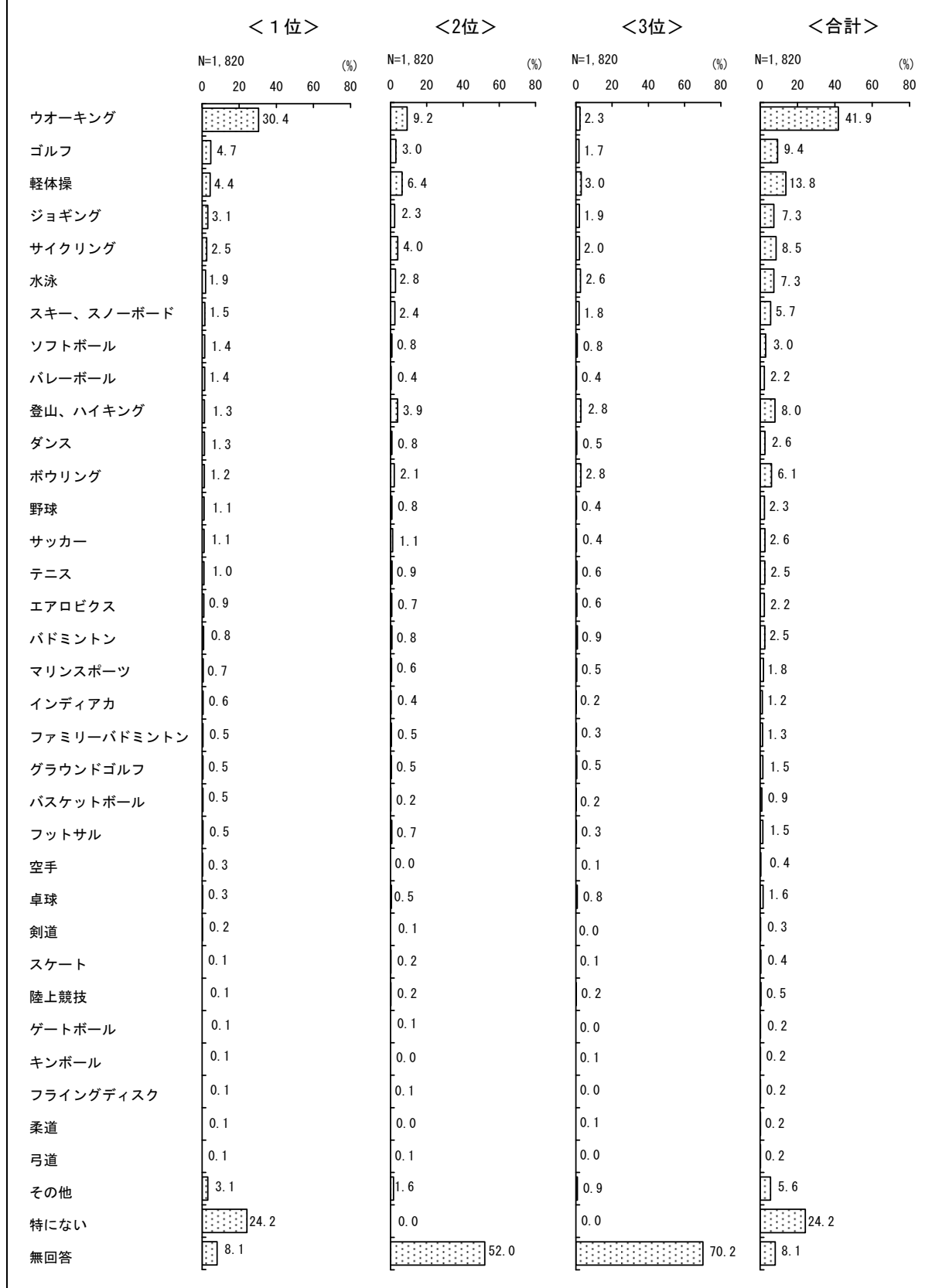
前回調査と比較すると、「好き」の割合は平成10年度の調査では37.7%であったのに対し、今年度は34.4%となっているなどわずかながら減少している。



IV. 調査結果

(3) 現在行っているスポーツや運動

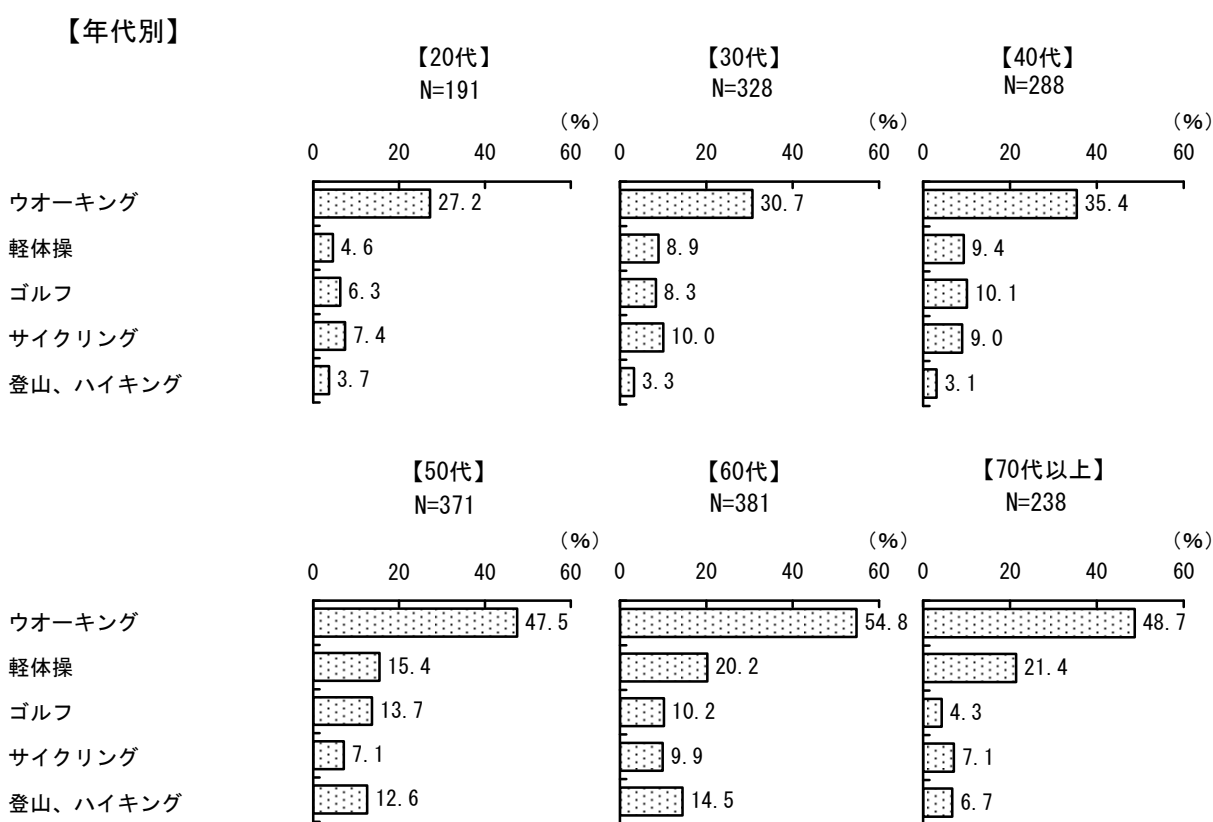
問3 あなたが、現在行っているスポーツや運動は何ですか。次の中から回数の多い順に3つまで選び回答欄に記入してください。(M. A.)



現在しているスポーツについて尋ねたところ、1位に挙げられたものは、「ウォーキング」が30.4%で最も多く、次いで「ゴルフ」が4.7%、「軽体操」が4.4%などとなっている。2位に挙げられたものでは、「ウォーキング」、「軽体操」、「サイクリング」の順に、また3位に挙げられたものでは、「軽体操」、「登山、ハイキング」、「ボウリング」の順に多くなっている。

なお、これらを合計してみると、「ウォーキング」が41.9%、「軽体操」が13.8%、「ゴルフ」が9.4%、「サイクリング」が8.5%、「登山、ハイキング」が8.0%などとなっており、ほとんどの項目が1割未満になるなど、行うスポーツや運動は分散の傾向にあるようである。

年代別に1～3位の合計についてみると、すべての年代において「ウォーキング」が最も多く、特に50代～70代以上は約半数を占めるなど、割合が特に高くなっている。



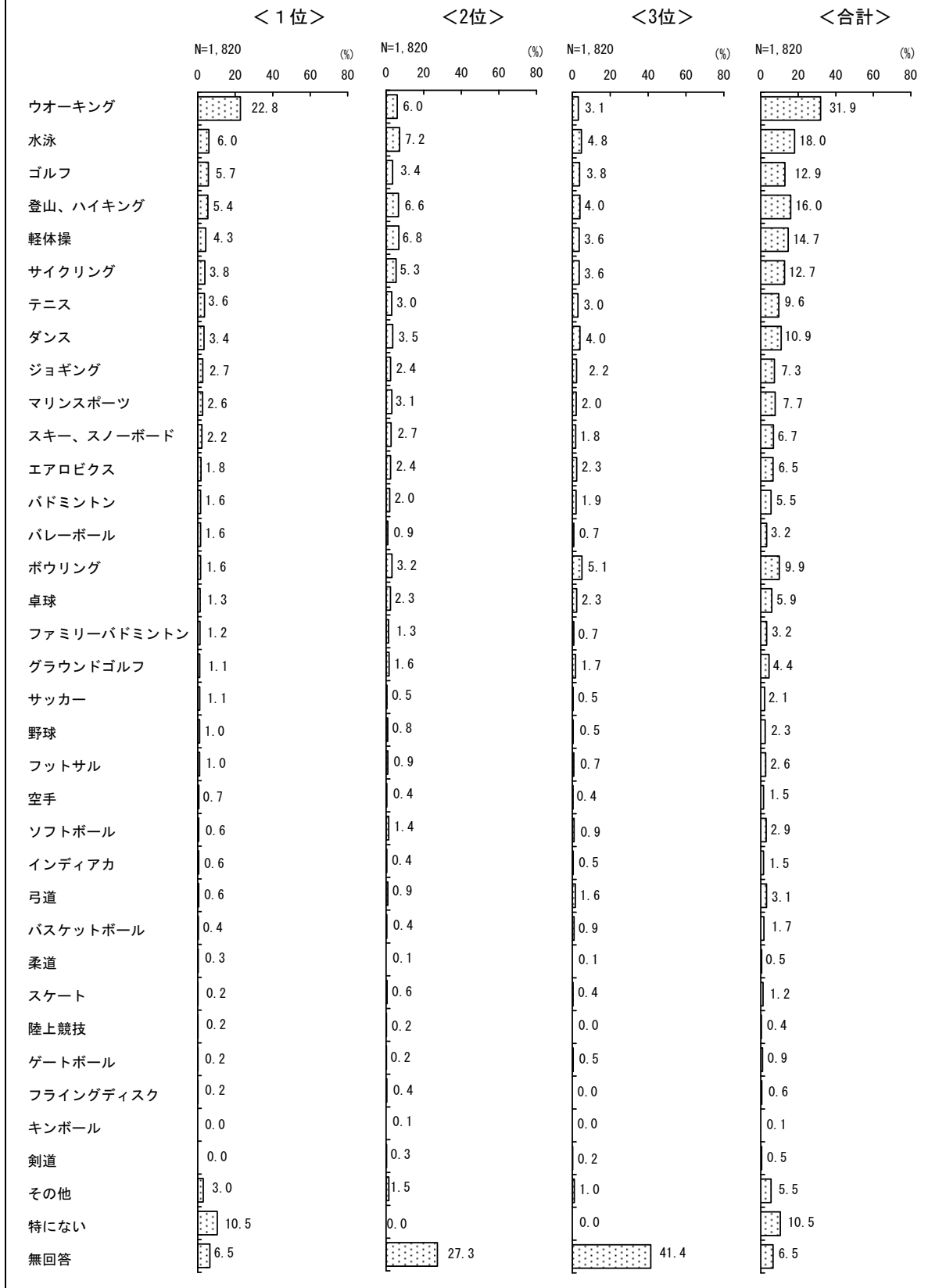
※行っている人が多かった上位5項目の状況

IV. 調査結果

(4) これから行ってみたいスポーツや運動

問4 あなたが、これから行ってみたいスポーツや運動（現在行っているものを含む）は何ですか。次の中から行ってみたい順に3つまで選び、回答欄にその番号を記入してください。

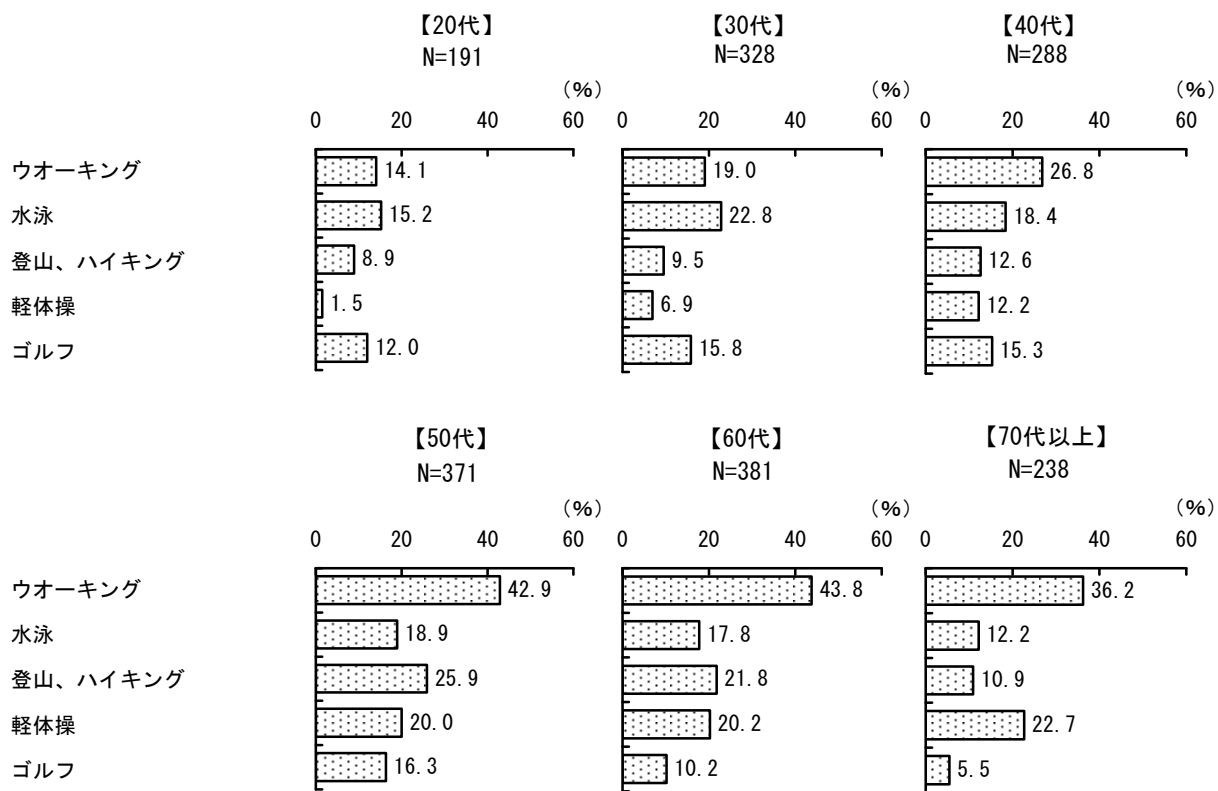
(M. A.)



これからしてみたいスポーツや運動について尋ねたところ、1位に挙げられたものは「ウォーキング」が22.8%と最も多く、次いで「水泳」が6.0%、「ゴルフ」が5.7%などと続いている。2位に挙げられたものでは、「水泳」が7.2%、「軽体操」が6.8%、「登山、ハイキング」が6.6%の順、3位に挙げられたものでは、「水泳」が4.8%、「登山、ハイキング」が4.0%、「ダンス」が4.0%の順となっており、これらを合計すると、「ウォーキング」が31.9%、「水泳」が18.0%、「登山、ハイキング」が16.0%、「軽体操」14.7%、「ゴルフ」12.9%などの順となっている。

年代別に1～3位の合計についてみると、20代、30代では「水泳」が最も多く、40代～70代以上では「ウォーキング」が最も多くなっている。

【年代別】



※希望の多かった上位5項目の状況

#### IV. 調査結果

##### <現在行っているスポーツや運動とこれから行ってみたいスポーツや運動の比較>

現在行っているスポーツとこれから行ってみたいものについて、それぞれ1～3位の合計を比較してみると、どちらも「ウォーキング」が最も多くなっている。

「ウォーキング」や「軽体操」などの項目では、比率としては現在行っている人よりもこれから行ってみたい人の方が減少しているものの、これから行ってみたいスポーツでは全体的に比率の上昇がみられる。

また、年代別に1～3位の合計で1位となった項目を比較すると、20代、30代では現在行っているスポーツや運動では「ウォーキング」が最も多かったのに対して、これから行ってみたいスポーツや運動では「水泳」が最も多くなっている。40代～70代以上ではどちらも「ウォーキング」が最も多くなっており、30代以下と40代以上で変化がみられる。

##### 1～3位の合計

	現在行っているスポーツや運動		これから行ってみたいスポーツや運動	
1位	ウォーキング	41.9%	ウォーキング	31.9%
2位	軽体操	13.8%	水泳	18.0%
3位	ゴルフ	9.4%	登山・ハイキング	16.0%
4位	サイクリング	8.5%	軽体操	14.7%
5位	登山・ハイキング	8.0%	ゴルフ	12.9%

\*上位5項目のみ示している

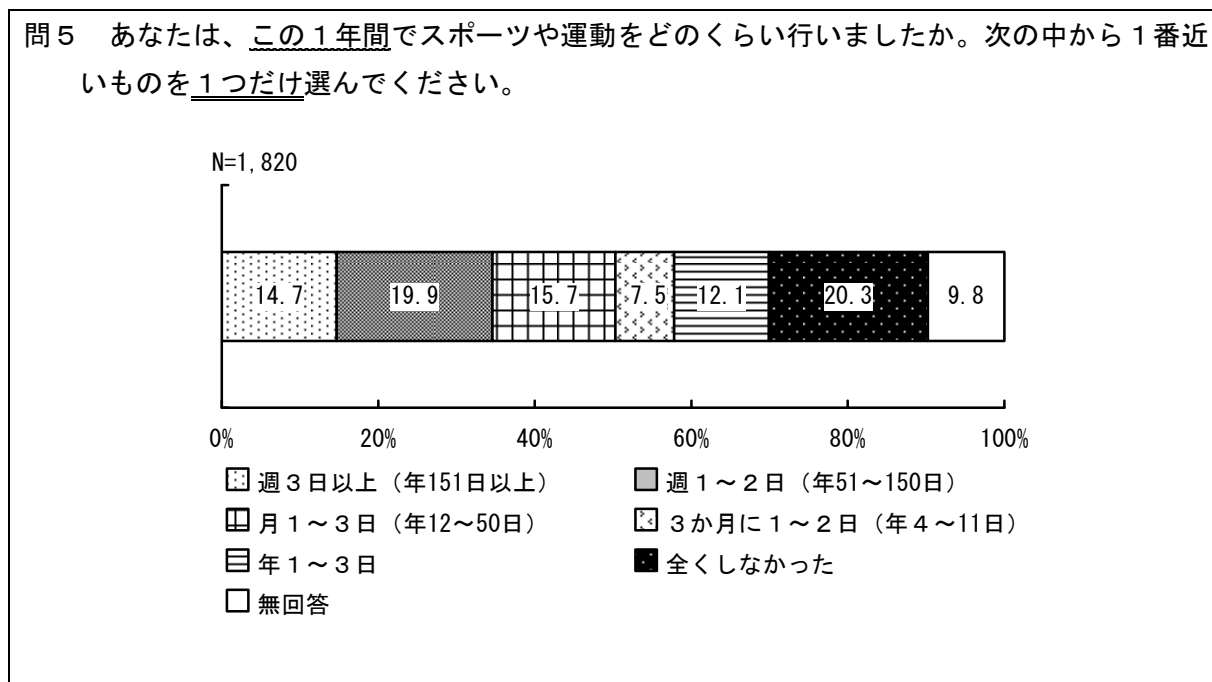
##### 年齢別1位項目

	現在行っているスポーツや運動		これから行ってみたいスポーツや運動	
20代	ウォーキング	27.2%	水泳	15.2%
30代	ウォーキング	30.7%	水泳	22.8%
40代	ウォーキング	35.4%	ウォーキング	26.8%
50代	ウォーキング	47.5%	ウォーキング	42.9%
60代	ウォーキング	54.8%	ウォーキング	43.8%
70代以上	ウォーキング	48.7%	ウォーキング	36.2%



(5) この1年間のスポーツや運動をした頻度

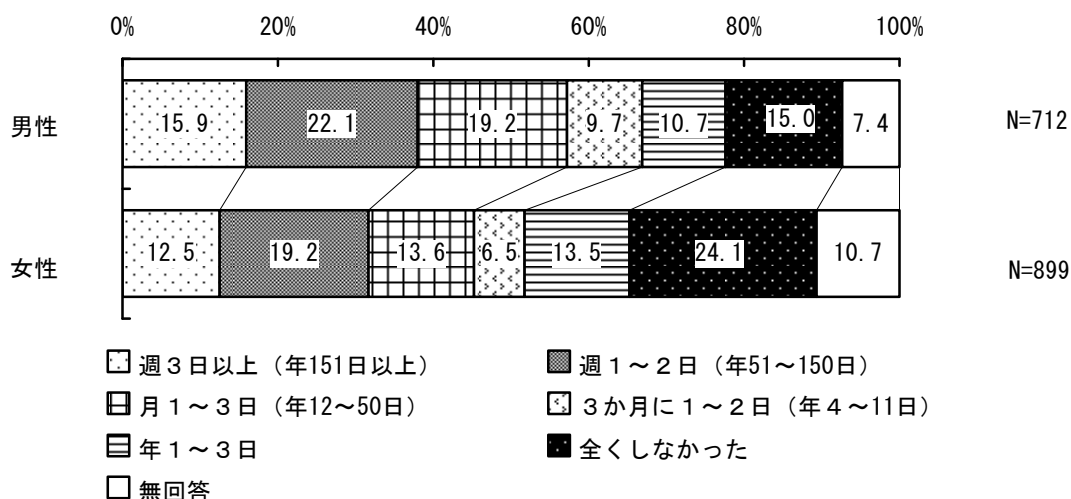
問5 あなたは、この1年間でスポーツや運動をどのくらい行いましたか。次の中から1番近いものを1つだけ選んでください。



この1年間にスポーツや運動をどのくらいしたか尋ねたところ、「全くしなかった」という人が20.3%と最も多く、次いで「週1~2日 (年51~150日)」が19.9%、「月1~3日 (年12~50日)」が15.7%、「週3日以上 (年151日以上)」が14.7%などと続いている。

性別にみると、男性では「週1~2日 (年51~150日)」が22.1%と最も多いのに対し、女性では「全くしなかった」が24.1%と最も多く、約4人に1人が全くスポーツや運動をしなかったようである。

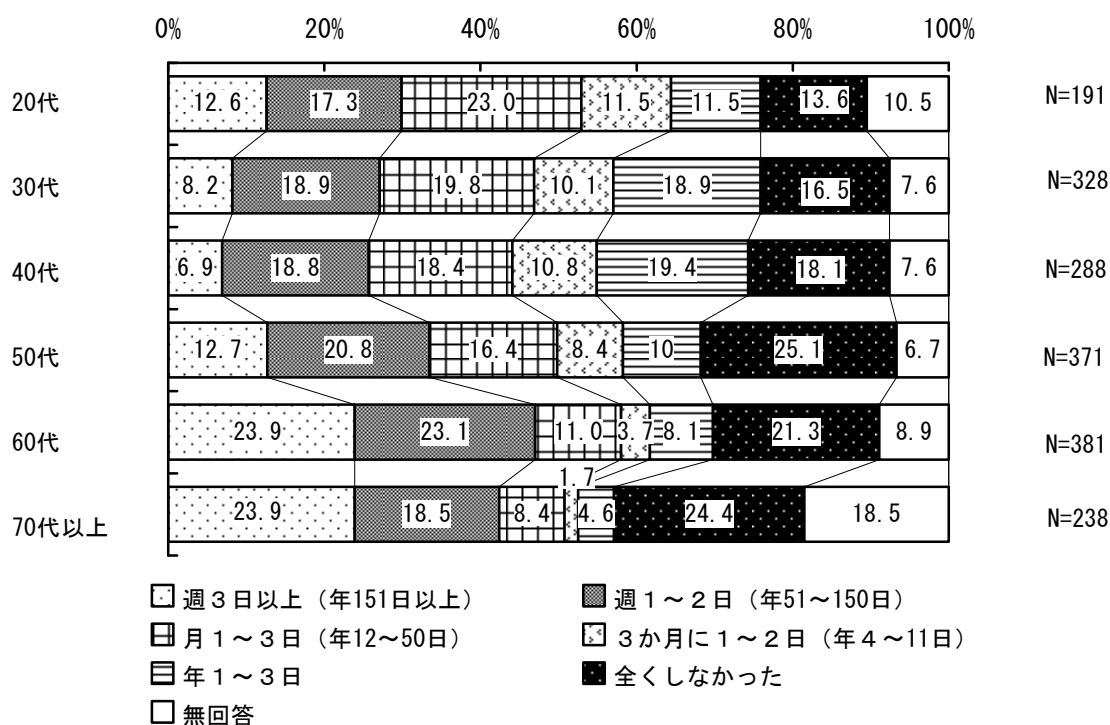
【性別】



IV. 調査結果

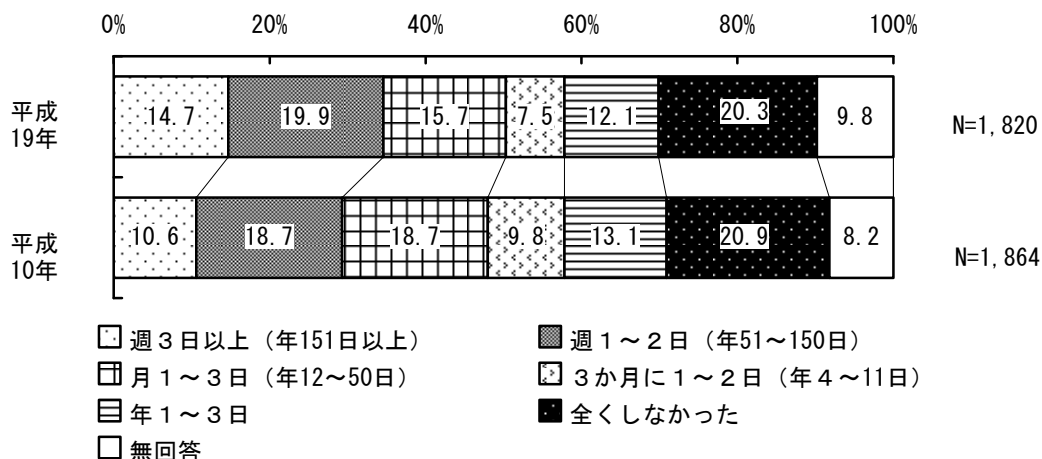
年代別にみると、「月1～3日（年12日～50日）」が20代では23.0%、30代では19.8%で最も多く、40代では「年1～3日」が19.4%で最も多くなっている。50代以上になると「全くしなかった」の割合がそれぞれ2割を超え（50代25.1%で最多、60代21.3%、70代以上24.4%で最多）、ほかの年代に比べやや高い。その一方で、60代以上においては「週3日以上（年151日以上）」と回答した人の割合も同じくそれぞれ2割を超え（60代23.9%で最多、70代以上23.9%）、ともにその割合は全年代においても最も多くなっている。

【年代別】



<前回調査との比較>

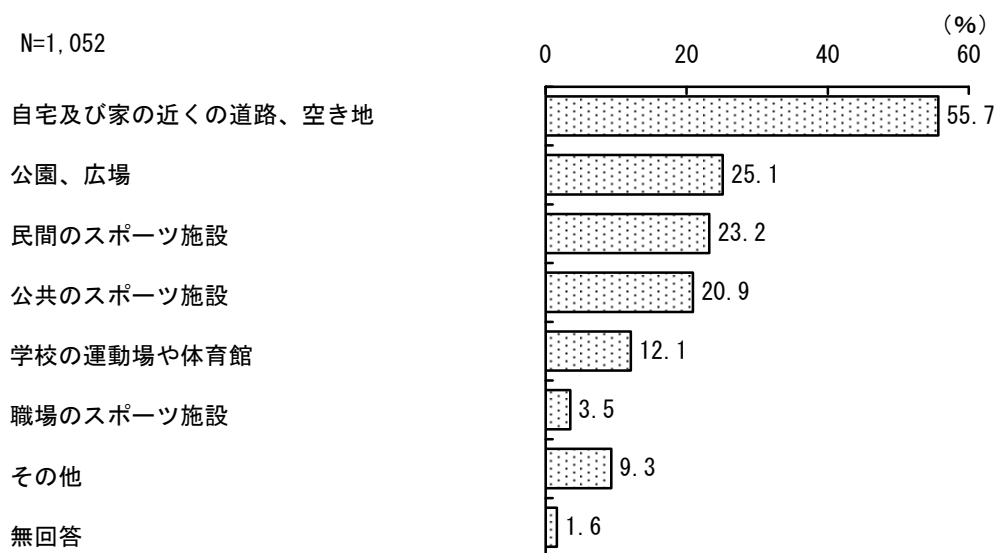
前回調査と比較すると、「全くしなかった」の割合はほぼ同じ割合となっているが、「週3日以上」と回答した人の割合がやや増加している。



## (6) スポーツや運動を行う場所

【問5で「1. 週3日以上（年151日以上）」、「2. 週1～2日（年51～150日）」、「3. 月1～3日（年12～50日）」、「4. 3か月に1～2日（年4～11日）」と回答した方にお聞きします。】

問6 あなたは、スポーツや運動をどこで行いますか。次の中から主なものを2つまで選んでください。(M. A.)

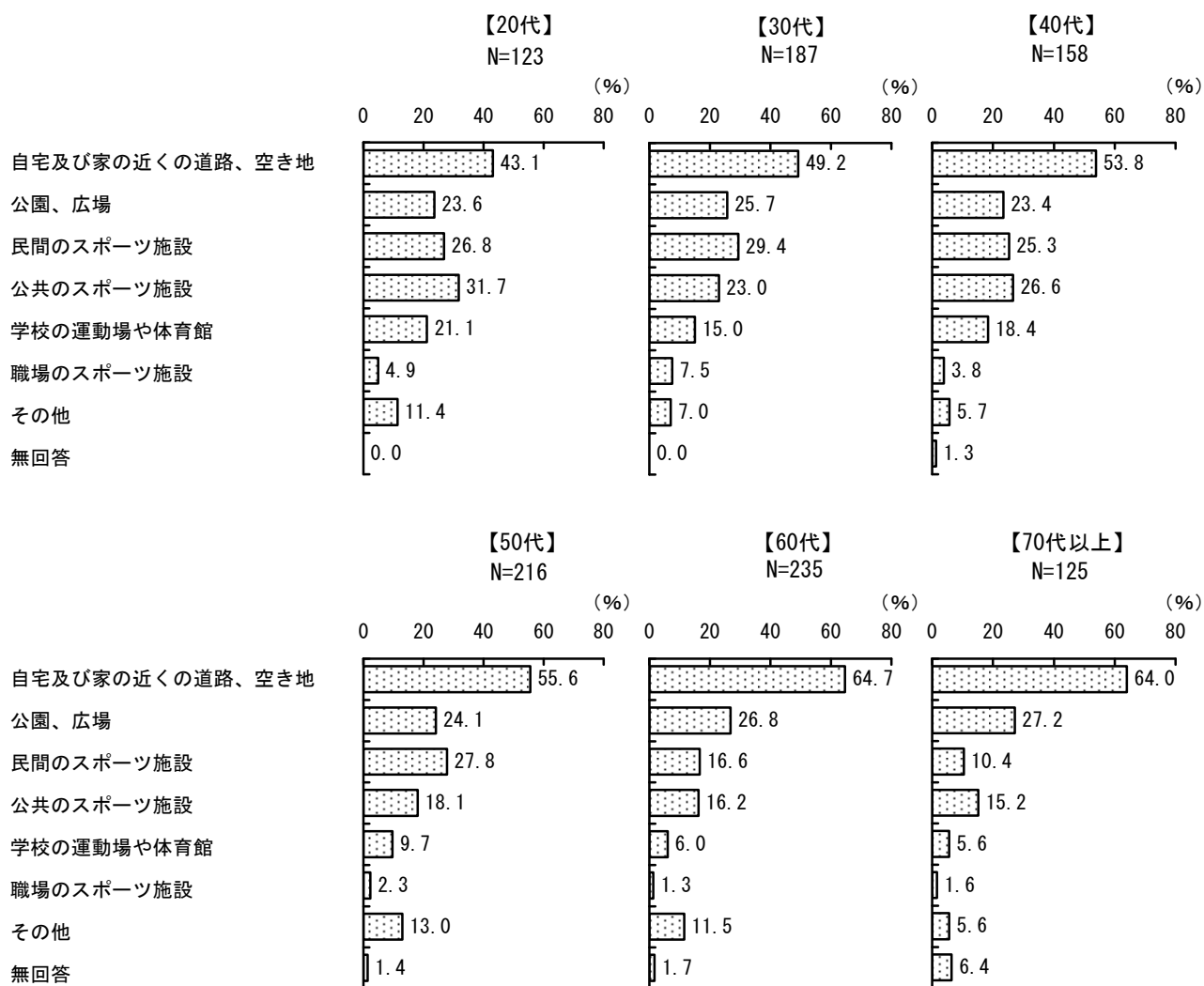


スポーツや運動を主に行う場所について尋ねたところ、「自宅及び家の近くの道路、空き地」が55.7%と最も多く、過半数を占めている。次いで、「公園、広場」が25.1%、「民間のスポーツ施設」が23.2%、「公共のスポーツ施設」が20.9%などの順になっている。

#### IV. 調査結果

年代別にみると、全年代において「自宅及び家の近くの道路、空き地」の割合が最も多く、60代以上では6割を超えている。また、各年代において2番目に多かった項目は、20代、40代では「公共のスポーツ施設」、30代、50代では「民間のスポーツ施設」、60代以上では「公園、広場」となっている。

#### 【年代別】

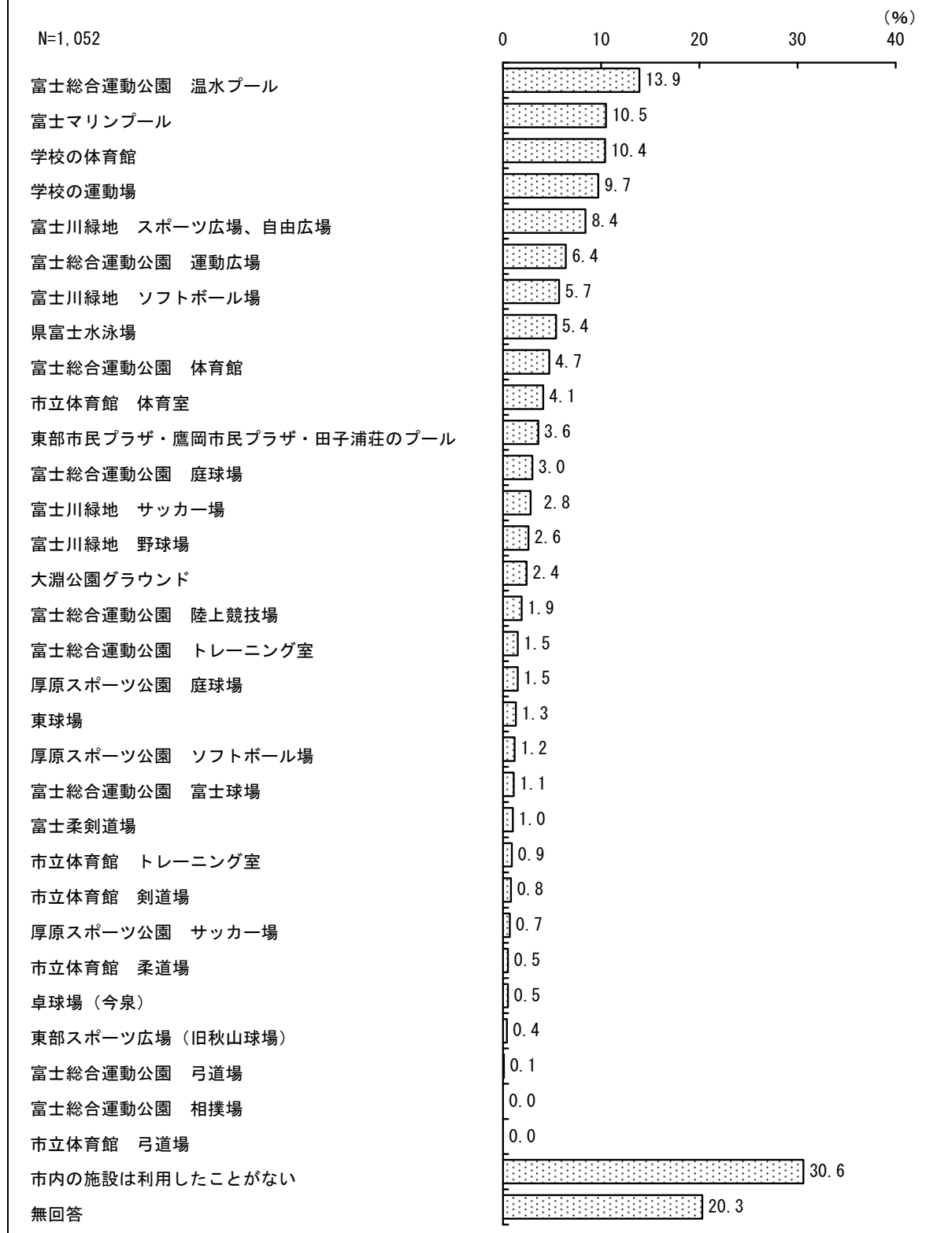


## (7) この1年間に利用した公共スポーツ施設

【問5で「1. 週3日以上（年151日以上）」、「2. 週1～2日（年51～150日）」、「3. 月1～3日（年12～50日）」、「4. 3か月に1～2日（年4～11日）」と回答した方にお聞きします。】

問7 あなたは、この1年間に以下の市内の公共のスポーツ施設を利用したことがありますか。

次の中から該当するものをすべて選んでください。(M. A.)



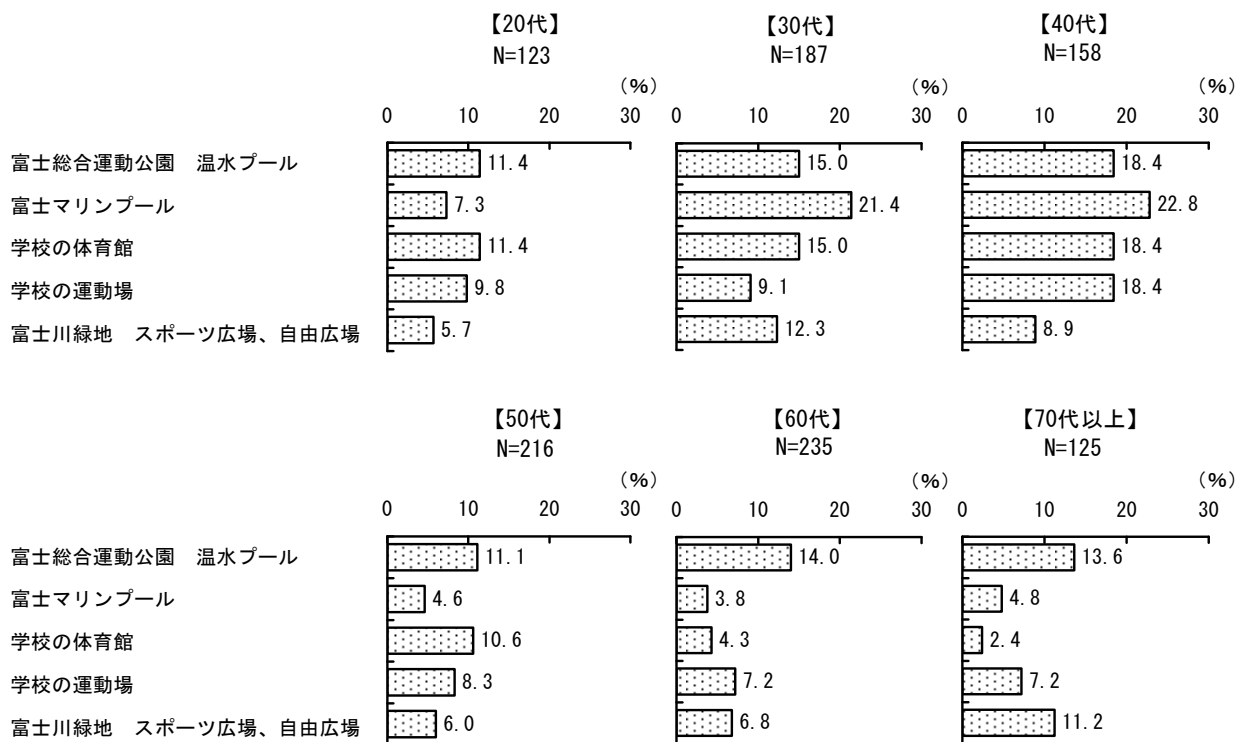
#### IV. 調査結果

この1年間に市内の公共スポーツ施設を利用したことがあるか尋ねたところ、「市内の施設は利用したことはない」と回答した人が30.6%に対し、約半数の人が市内の施設を利用したことがあるとしている。

利用した施設の状況をみると、「富士総合公園・温水プール」が13.9%、「富士マリンプール」が10.5%、「学校の体育館」が10.4%、「学校の運動場」が9.7%、「富士川緑地 スポーツ広場、自由広場」が8.4%などの順になっている。

年代別にみると、20代では「富士総合公園・温水プール」及び「学校の運動場」が11.4%と最も多く、30代、40代では「富士マリンプール」が最も多く2割を超え、50代以上では、「富士総合公園・温水プール」が最も多くなっている。

#### 【年代別】

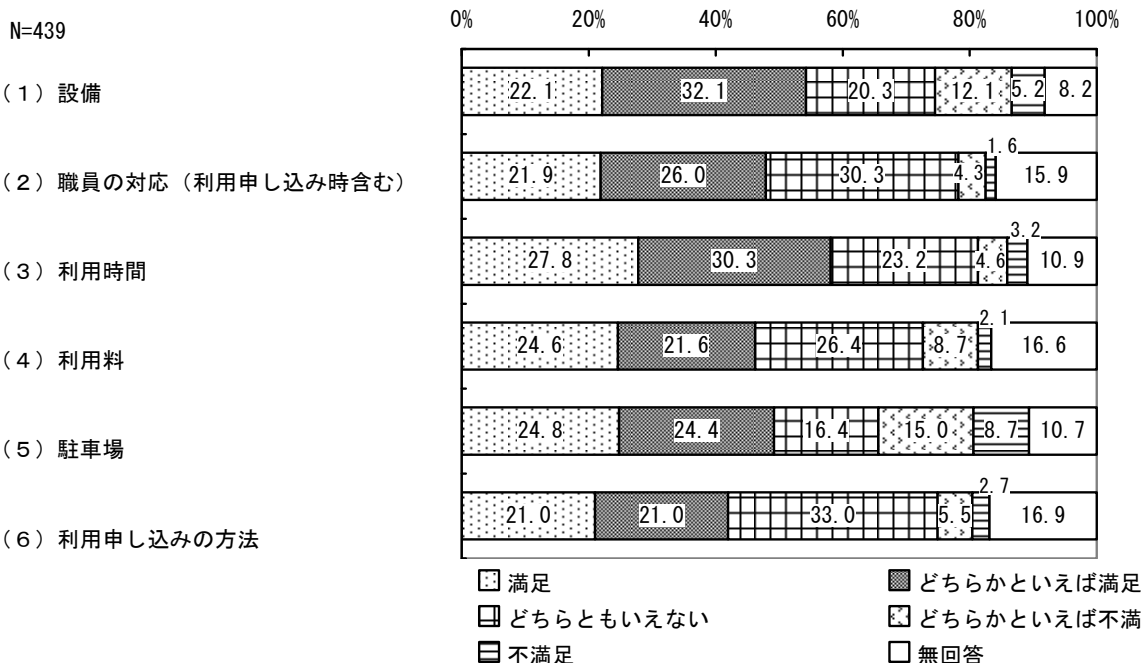


※利用の多かった施設上位5項目の状況

(8) この1年間に主に利用した施設に対する満足度

【問7で「1～31」を回答した人にお聞きます】

問7-1 問7で回答した施設のうち主に利用した施設1つについて、その施設に対する満足度をお聞かせください。



市内の施設を利用した人に、その施設の満足度を尋ねたところ、全体的に「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせた“満足”との声が多い傾向にあり、特に『(3) 利用時間』については約6割の人が“満足”としている。

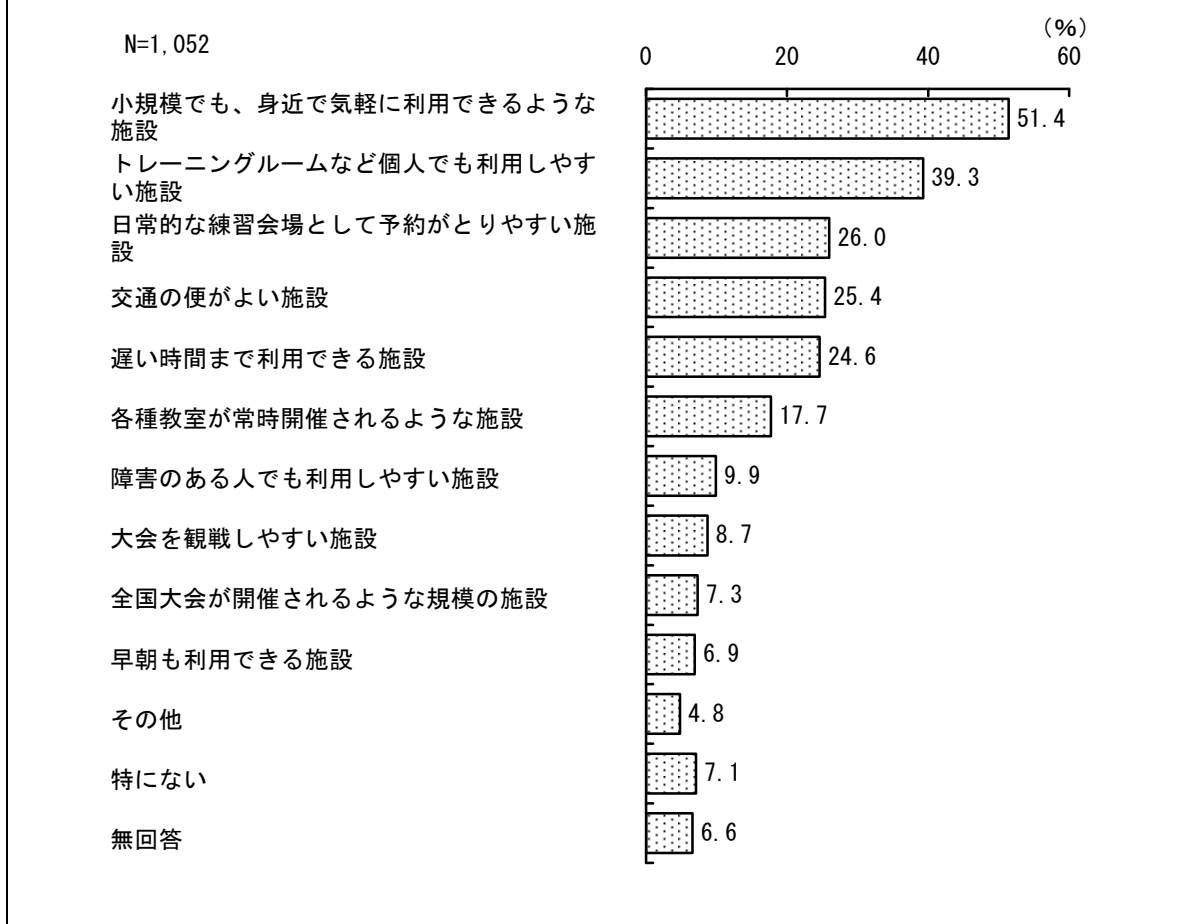
一方、『(1) 設備』と『(5) 駐車場』に関しては、「不満足」、「どちらかといえば不満」を合わせた“不満足”の割合が約2割と、その割合はほかの項目に比べやや高くなっている。

IV. 調査結果

(9) 公共のスポーツ施設として望むこと

【問5で「1. 週3日以上（年151日以上）」、「2. 週1～2日（年51～150日）」、「3. 月1～3日（年12～50日）」、「4. 3か月に1～2日（年4～11日）」と回答した方にお聞きします。】

問8 今後、公共のスポーツ施設に対してどのようなことを望みますか。次の中から3つまで選んでください。(M. A.)



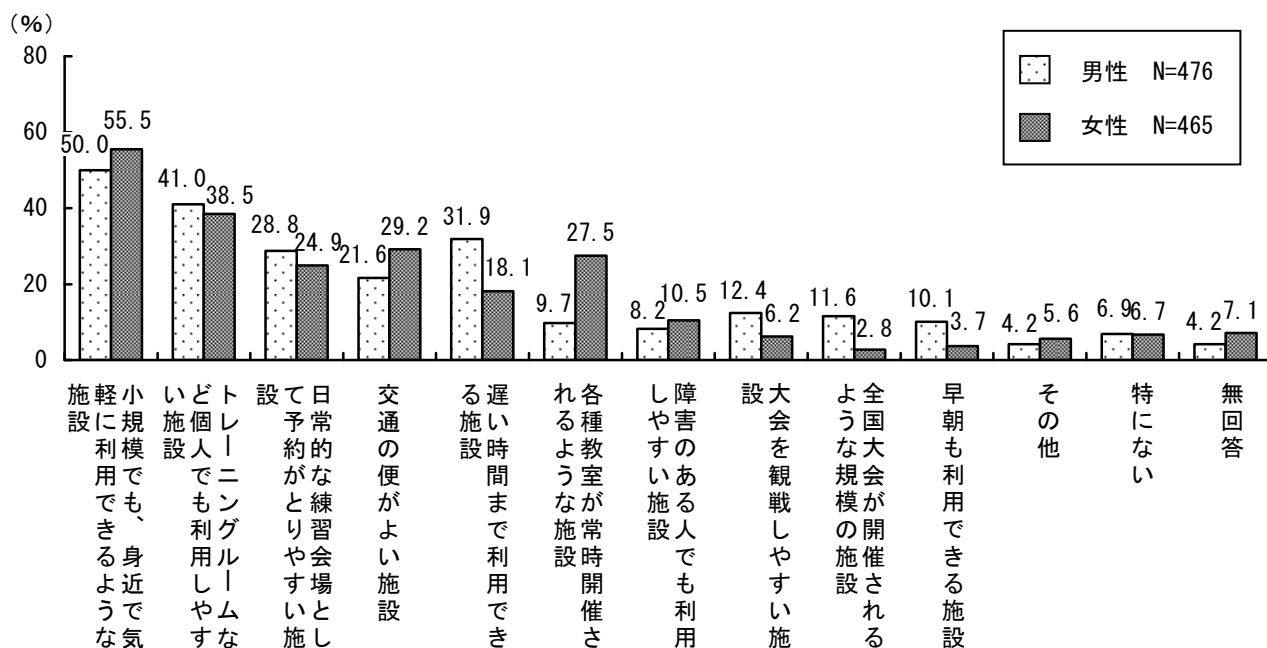
公共のスポーツ施設に望むことを尋ねたところ、「小規模でも、身近で気軽に利用できるような施設」が51.4%と最も多く、半数を超えている。次いで、「トレーニングルームなど個人でも利用しやすい施設」が39.3%、「日常的な練習会場として予約がとりやすい施設」が26.0%、「交通の便がよい施設」が25.4%、「遅い時間まで利用できる施設」が24.6%などの順になっている。

性別にみると、男女ともに「小規模でも、身近で気軽に利用できるような施設」が半数を超え最も多くなっている。また、「各種教室が常時開催されるような施設」においては男性9.7%に対し、女性27.5%と女性の割合の方が高く、大きな差がみられる。

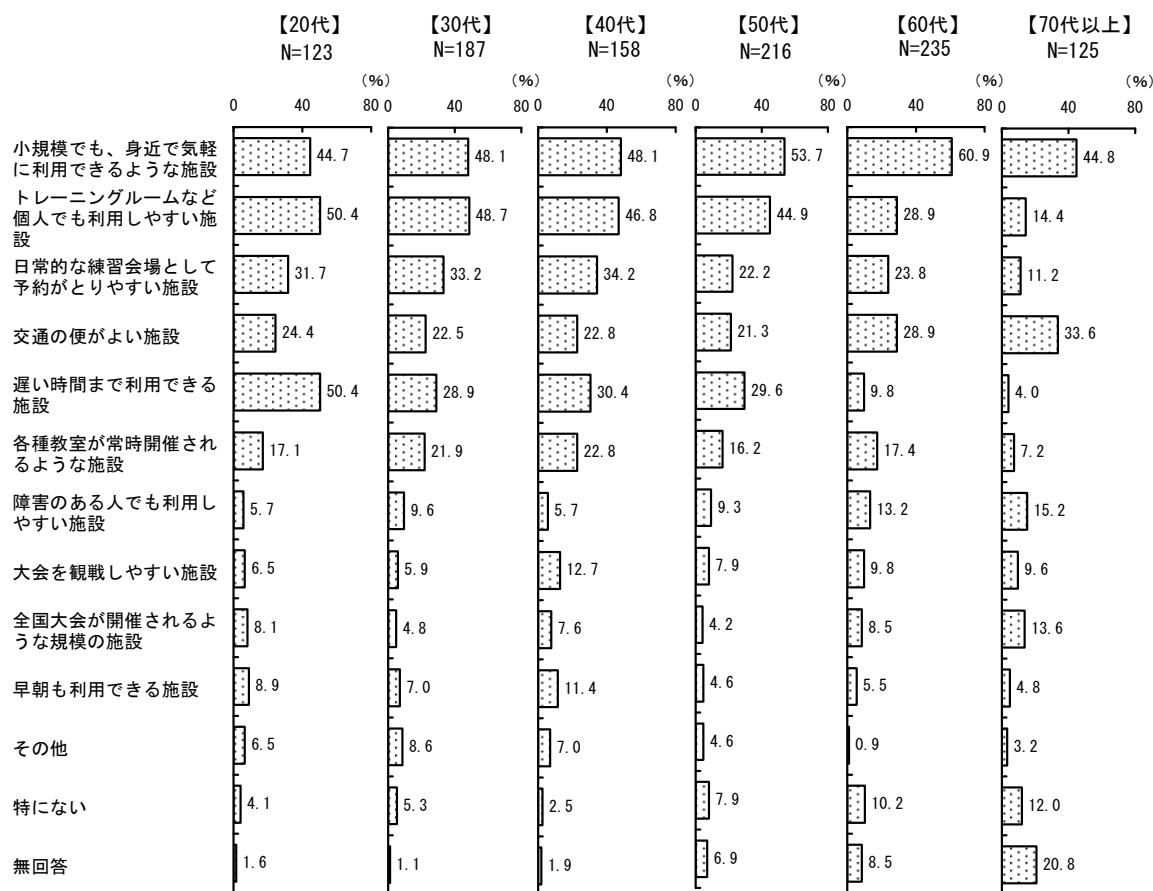
年代別にみると、20代では「トレーニングルームなど個人でも利用しやすい施設」及び「遅い時間まで利用できる施設」が50.4%で最も多く、30代では「トレーニングルームなど個人でも利用しやすい施設」が48.7%で最も多くなっている。また、40代以上では「小規模でも、身近で気軽に利用できるような施設」がそれぞれ最も多くなっている。さらに、「遅い時間まで利用できる施設」の項目については、20代～50代で約3割以上、20代においては半数を占め、60代以上に比べ、割合が高くなっている。



【性別】



【年代別】

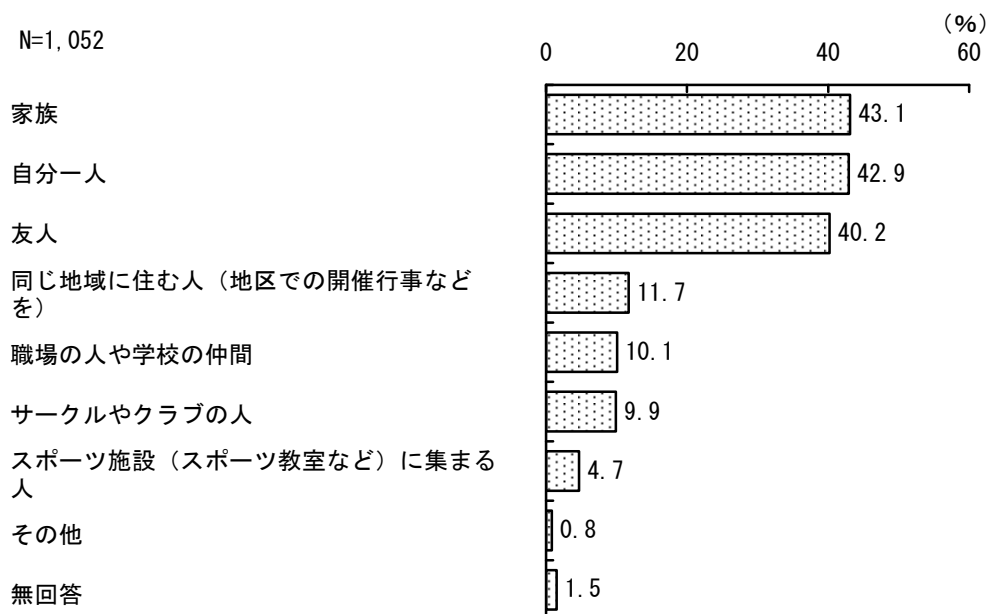


#### IV. 調査結果

##### (10) スポーツや運動を一緒に行う相手

【問5で「1. 週3日以上（年151日以上）」、「2. 週1～2日（年51～150日）」、「3. 月1～3日（年12～50日）」、「4. 3か月に1～2日（年4～11日）」と回答した方にお聞きします。】

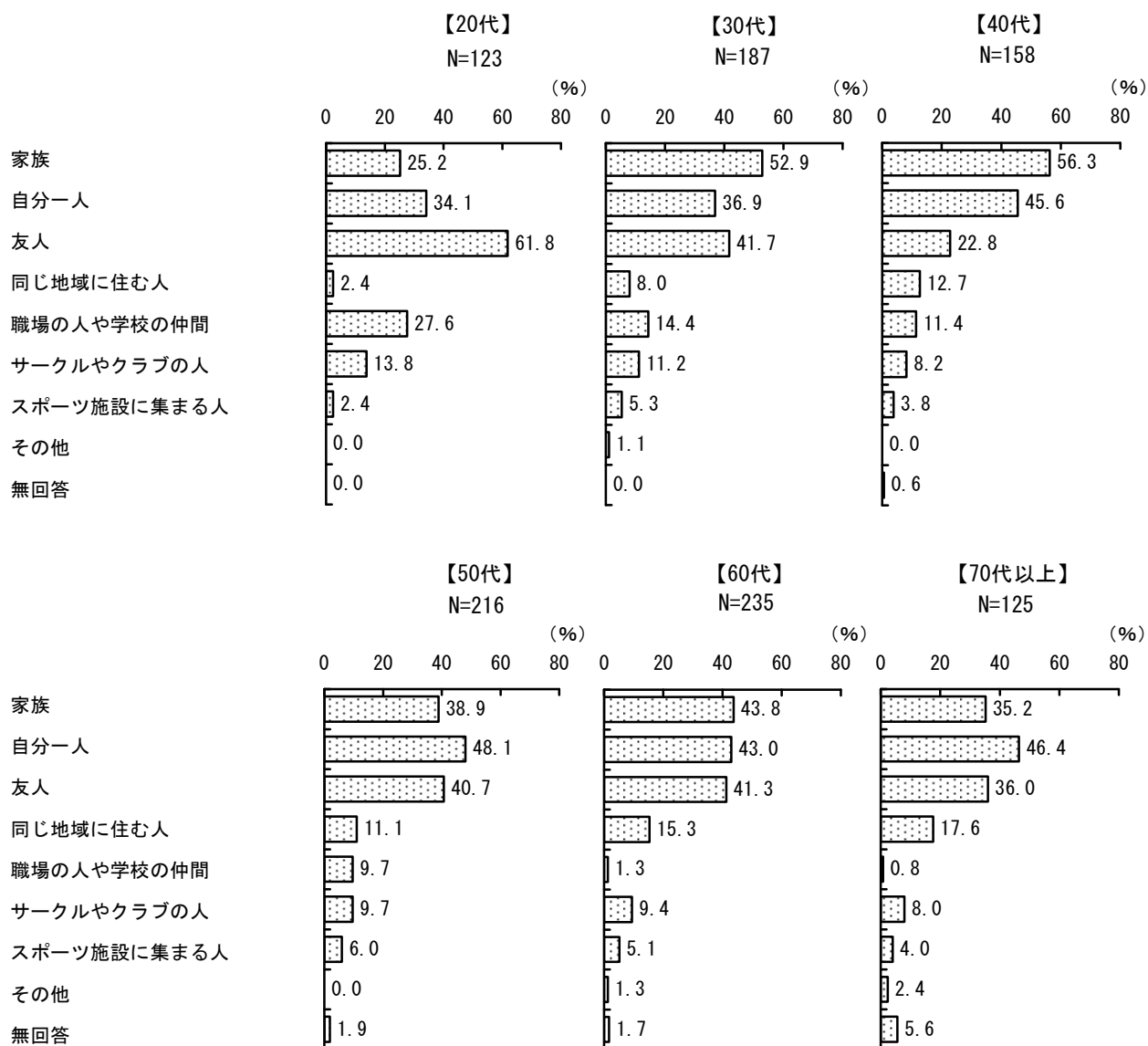
問9 あなたは、スポーツや運動を主にだれと一緒にいきますか。次の中から主なものを2つまで選んでください。（M. A.）



スポーツや運動を主に誰と一緒にするか尋ねたところ、「家族」が最も多く43.1%、以下「自分一人」が42.9%、「友人」が40.2%と続き、上位3項目が突出して多く4割を超えている。

年代別にみると、20代では「友人」の割合が61.8%と6割を超え、ほかの世代に比べ圧倒的に多くなっている。30代、40代では「家族」が最も多く半数を以上、50代と70代上では「自分一人」がそれぞれ最も多く、60代では「家族」、「自分一人」、「友人」がほぼ同じ割合となっている。

【年代別】

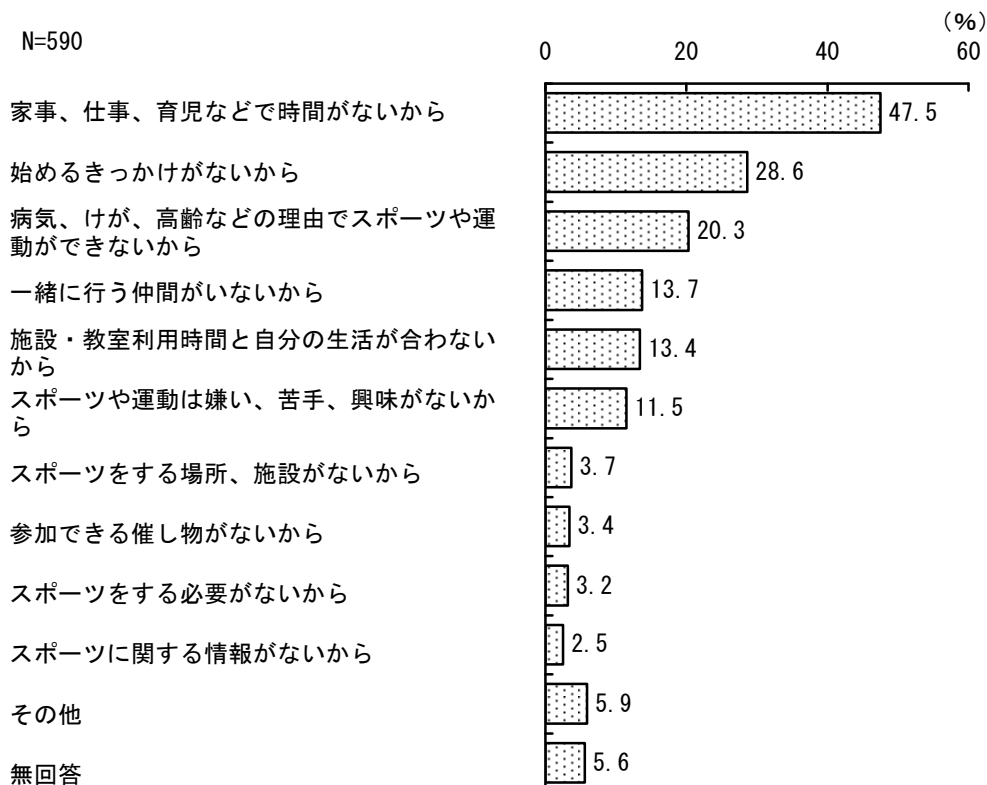


IV. 調査結果

(11) スポーツや運動をしない理由

【問5で「5」～「6」と回答した人にお聞きします】

問10 あなたが、スポーツや運動をしない、あるいはほとんどしない理由は何ですか。次の中から主なものを2つまで選んでください。(M. A.)

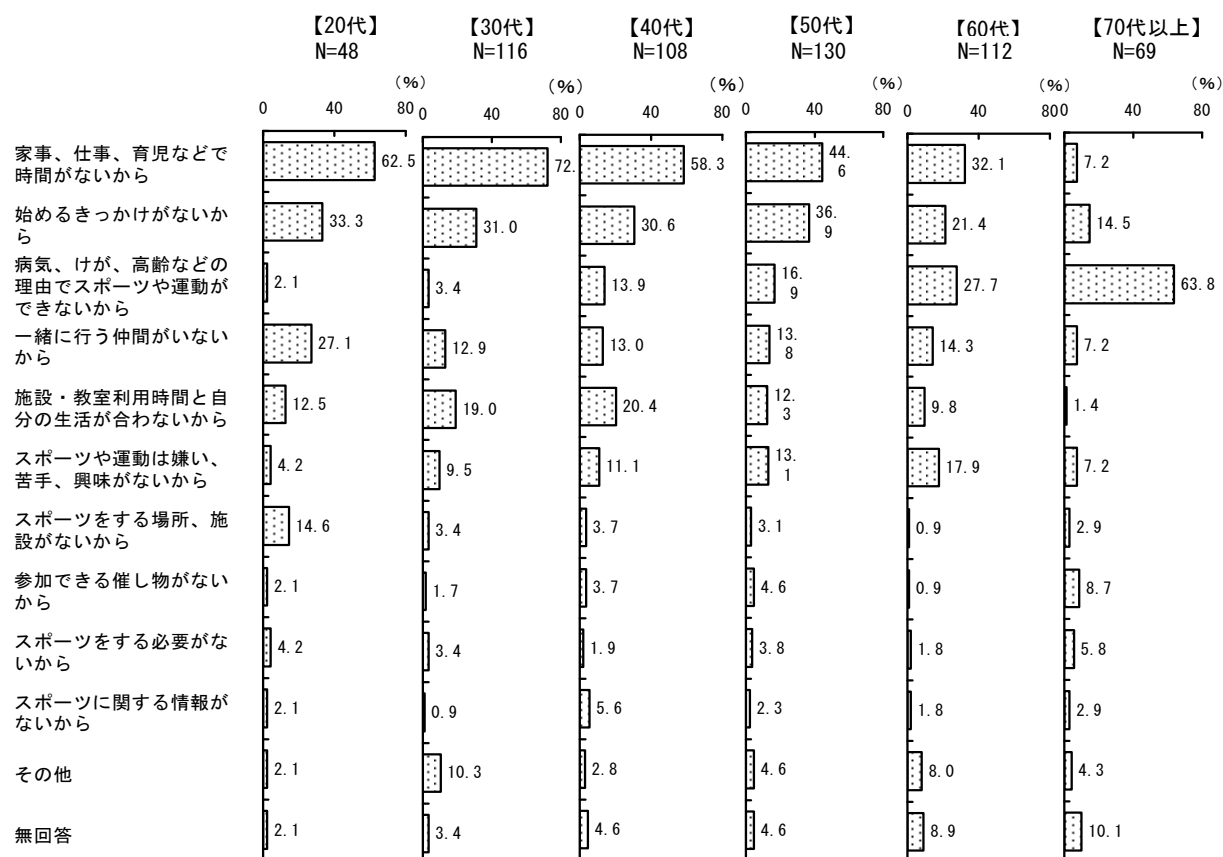


スポーツや運動をしない理由について尋ねたところ、「家事、仕事、育児などで時間がないから」が47.5%で最も多く半数近くを占めている。次いで「始めるきっかけがないから」が28.6%、「病気、けが、高齢などの理由でスポーツや運動ができないから」が20.3%、「一緒に行く仲間がないから」が13.7%、「施設・教室利用時間と自分の生活が合わないから」が13.4%などと続いている。

年代別にみると、20代～60代では「家事、仕事、育児などで時間がないから」が最も多く、特に30代においては7割を超えるなど、若年層に多くなっている。

一方、70代では「病気、けが、高齢などの理由でスポーツや運動ができないから」が63.8%と6割を超え大半を占めている。

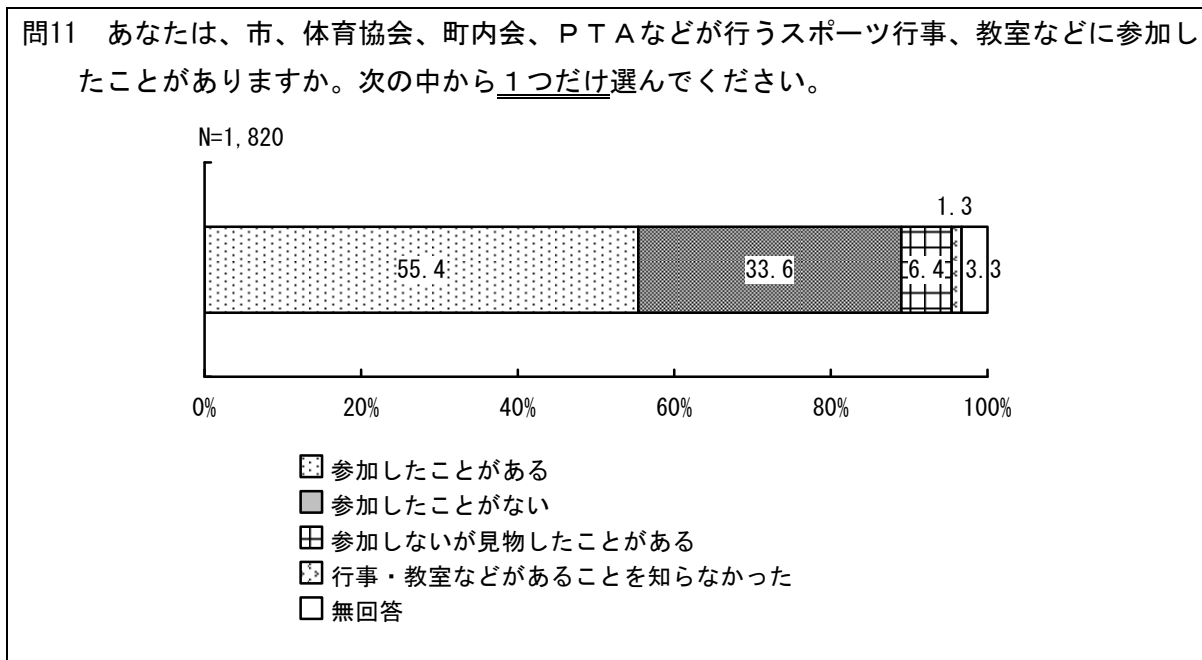
【年代別】



IV. 調査結果

(12) スポーツ行事や教室への参加経験有無

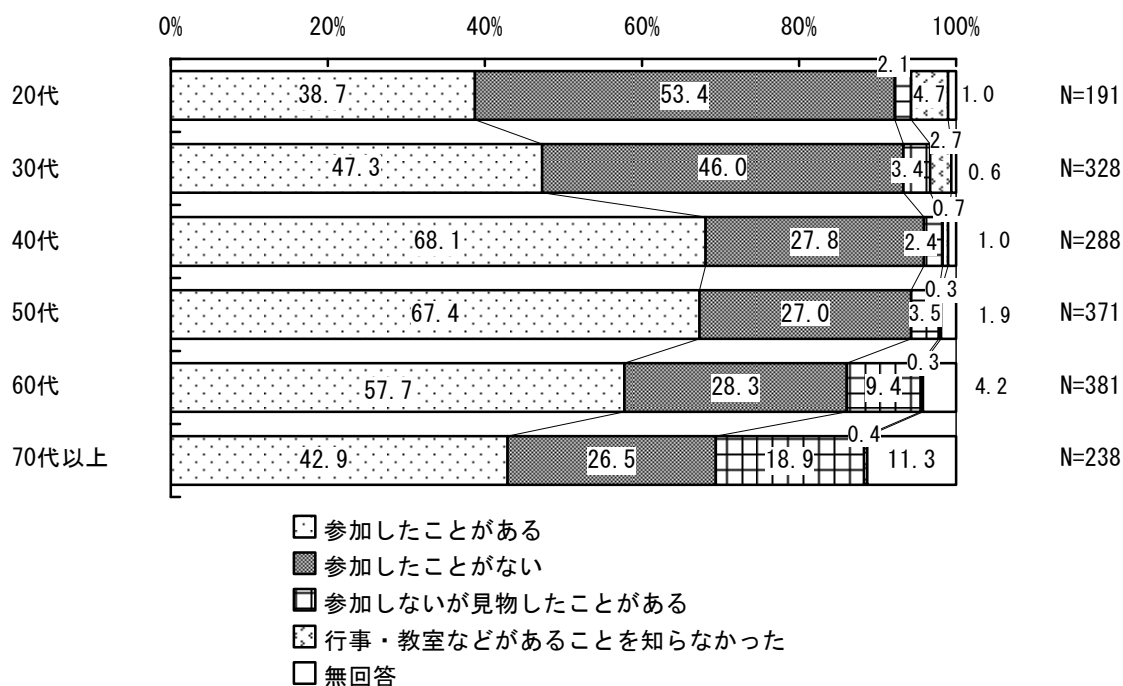
問11 あなたは、市、体育協会、町内会、PTAなどが行うスポーツ行事、教室などに参加したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



市、体育協会、町内会、PTAなどが行うスポーツ行事、教室などの参加経験を尋ねたところ、「参加したことがある」が55.4%と半数を超えている。以下、「参加したことがない」が33.6%、「参加しないが見物したことがある」が6.4%「行事・教室などがあることを知らなかった」が1.3%となっている。

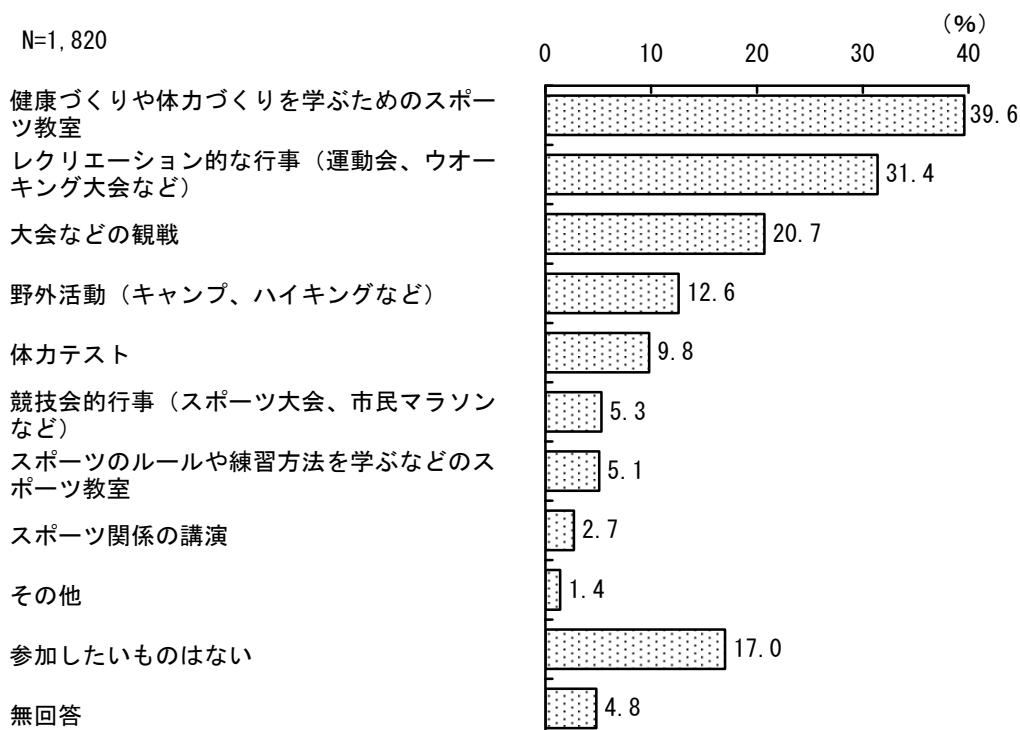
年代別にみると、20代、30代では「参加したことがない」が多数を占めているのに対し、40代以上では「参加したことがある」が多数を占め、特に40代、50代においては7割近くを占め高い割合となっている。

【年代別】



## (13) 今後、参加したいスポーツ行事

問12 今後スポーツ行事が行われる場合、あなたはどのような行事に参加したいと思いますか。  
次の中から2つまで選んでください。(M. A)



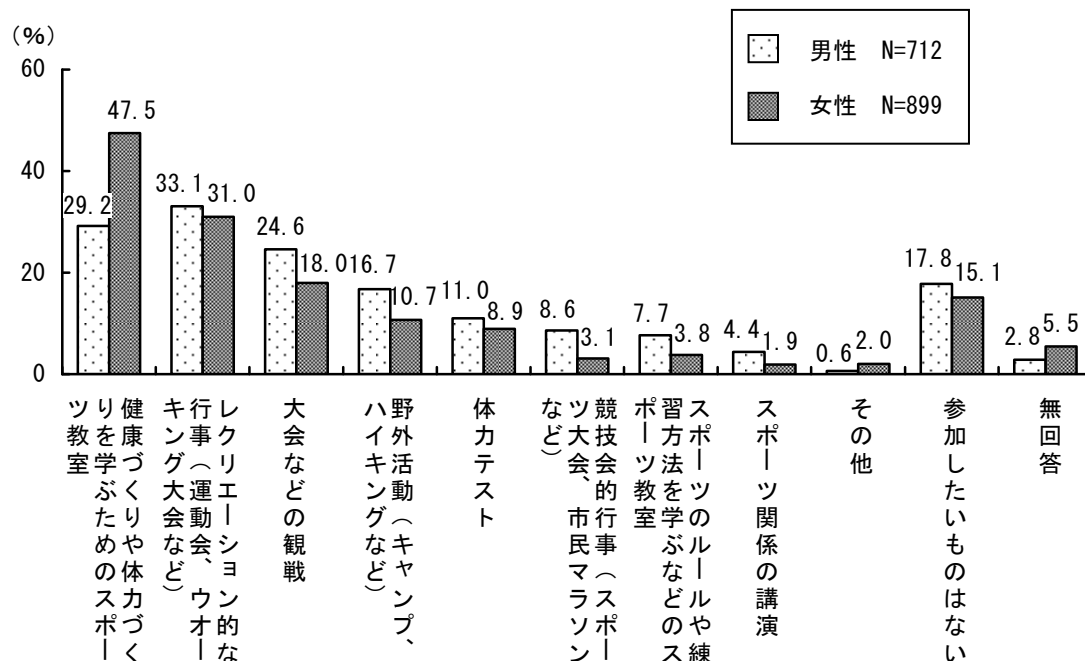
参加したいスポーツ行事について尋ねたところ、「健康づくりや体力づくりを学ぶためのスポーツ教室」と答えた人が最も多く39.6%、次いで「レクリエーション的な行事 (運動会、ウォーキング大会など)」が31.4%、「大会などの観戦」が20.7%などの順になっている。

性別にみると、男性では「レクリエーション的な行事 (運動会、ウォーキング大会など)」が最も多く33.1%、次いで「健康づくりや体力づくりを学ぶためのスポーツ教室」が29.2%、「大会などの観戦」が24.6%の順に多くなっているに対し、女性では「健康づくりや体力づくりを学ぶためのスポーツ教室」が最も多く47.5%、次いで「レクリエーション的な行事 (運動会、ウォーキング大会など)」が31.0%、「大会などの観戦」が18.0%の順に多くなっている。

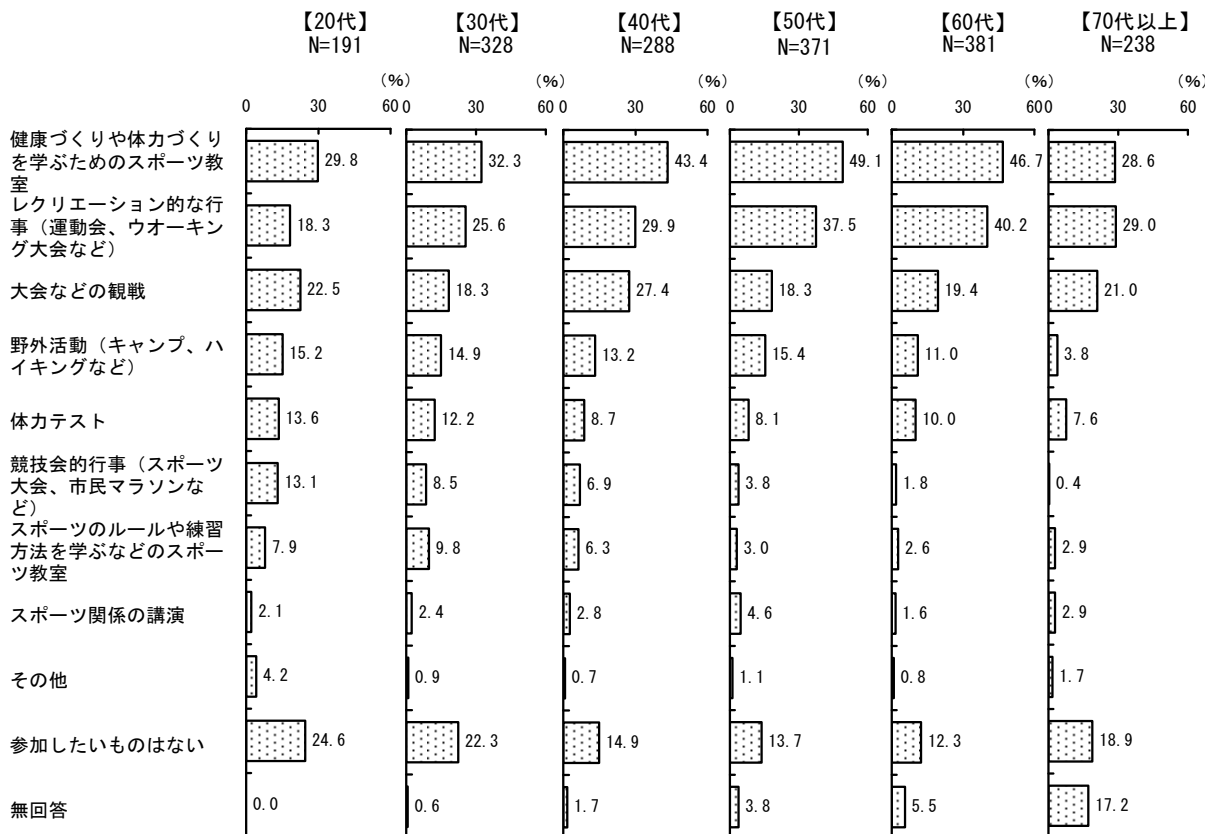
年代別にみると、20代～60代では「健康づくりや体力づくりを学ぶためのスポーツ教室」が最も多く、特に40代～60代は4割を超え多くなっている。70代以上では「レクリエーション的な行事 (運動会、ウォーキング大会など)」が29.0%と最も多くなっている。

IV. 調査結果

【性別】



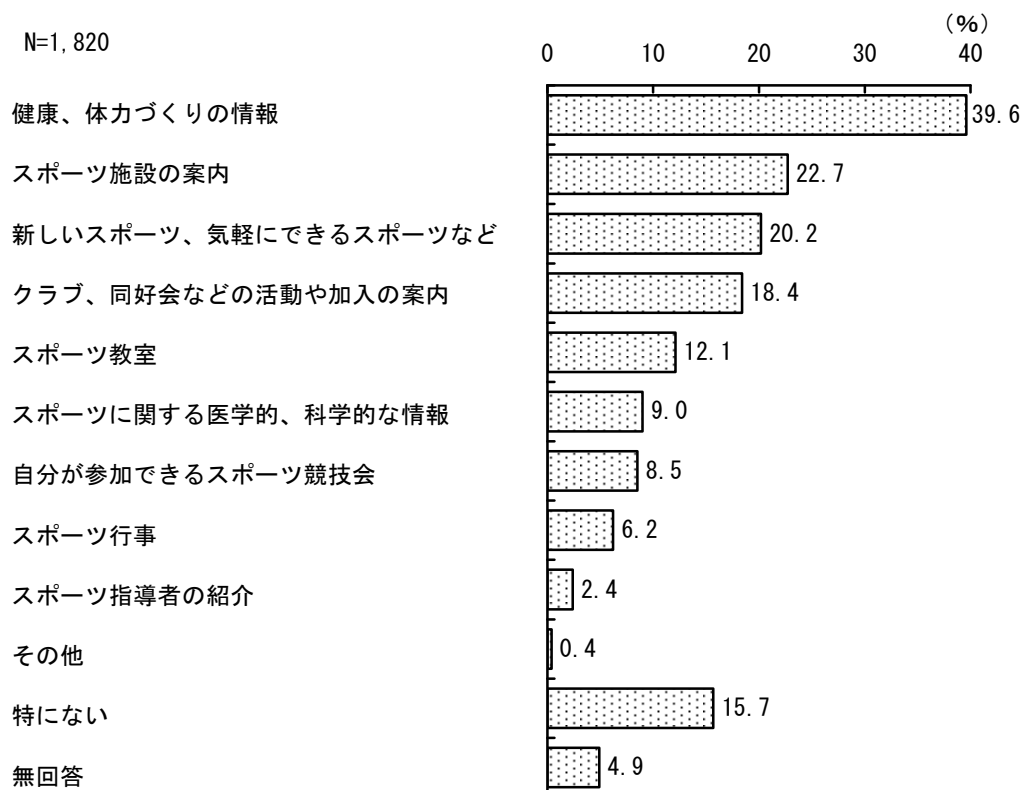
【年代別】





## (14) スポーツや運動に参加するために欲しい情報

問13 あなたがスポーツや運動に参加するためには、どのような情報が欲しいと思いますか。  
次の中から2つまで選んでください。(M. A)

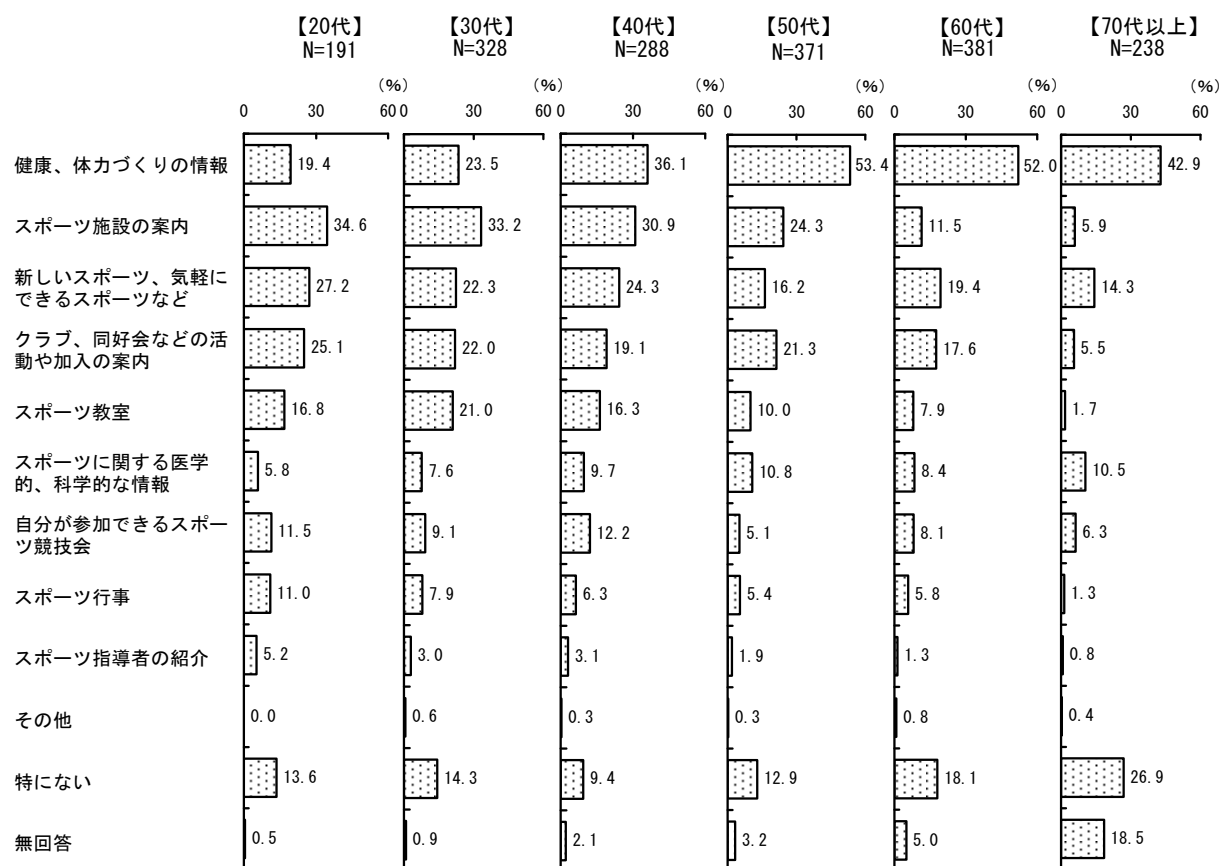


スポーツや運動に参加するために欲しい情報について尋ねたところ、「健康、体力づくりの情報」が39.6%と最も多く約4割で、次いで「スポーツ施設の案内」が22.7%、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなど」が20.2%、「クラブ、同好会などの活動や加入の案内」が18.4%の3項目が約2割と続いている。

#### IV. 調査結果

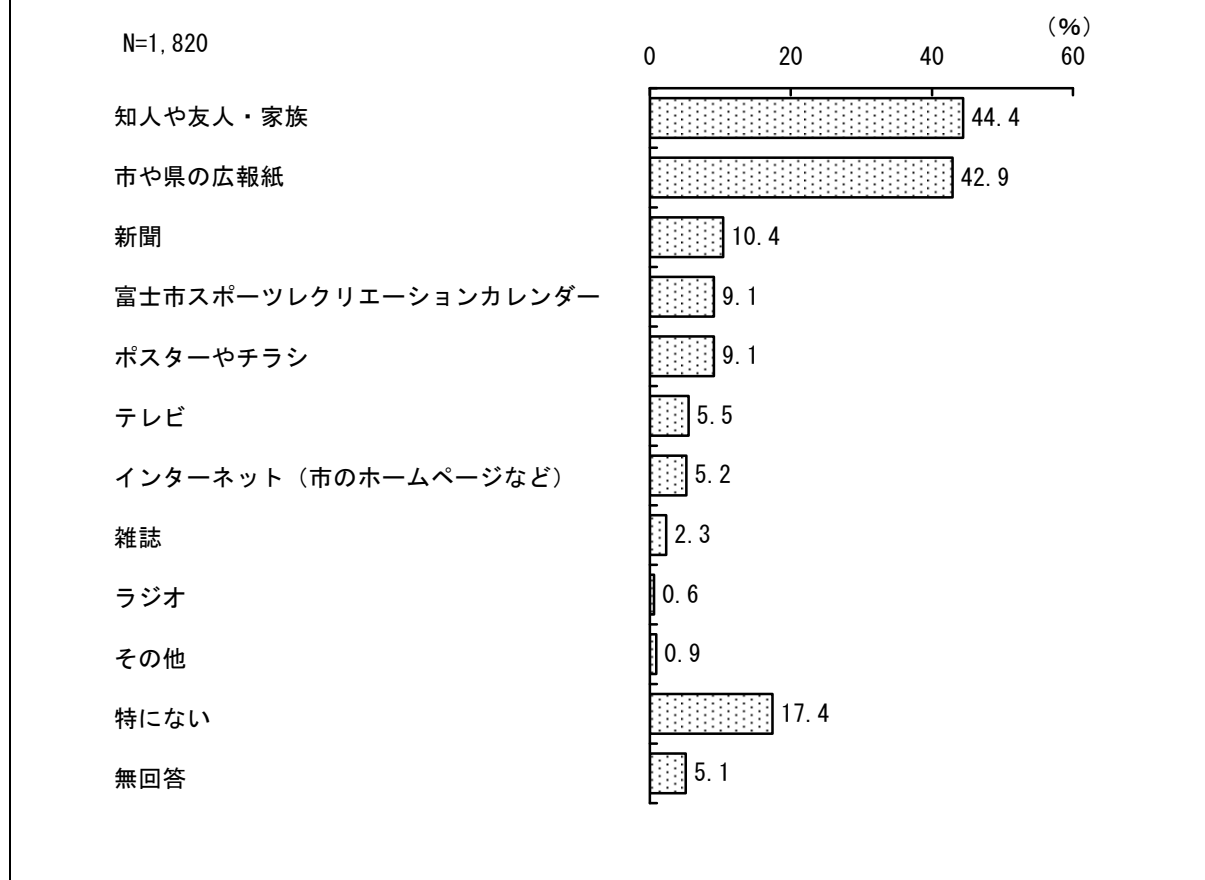
年代別にみると、20代、30代では「スポーツ施設の案内」が最も多く3割を超えている。40代以上では「健康、体力づくりの情報」が最も多く、特に50代以上は半数を超えるなど高い割合となっている。

#### 【年代別】



## (15) スポーツや運動に関する情報の入手方法

問14 あなたは、自分が参加できるスポーツや運動に関する情報を主にどこから得ていますか。  
次の中から2つまで選んでください。(M. A)



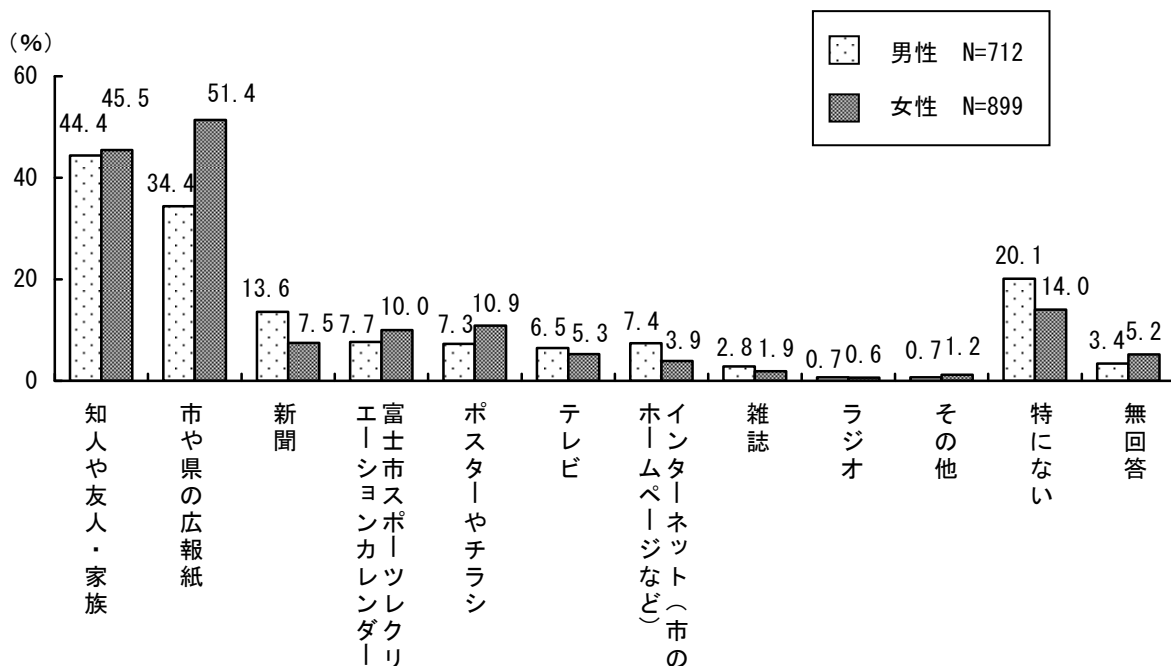
自分が参加できるスポーツや運動に関する情報の入手方法について尋ねたところ、「知人や友人・家族」が44.4%、「市や県の広報紙」が42.9%と4割を超えており、上位2項目が突出して多くなっている。

性別にみると、男性では「知人や友人・家族」が44.4%で最も多く、次いで「市や県の広報紙」が34.4%、「新聞」が13.6%の順に多いのに対し、女性では「市や県の広報紙」が51.4%で最も多く、次いで「知人や友人・家族」が45.5%、「ポスターやチラシ」が10.9%の順に多くなっている。

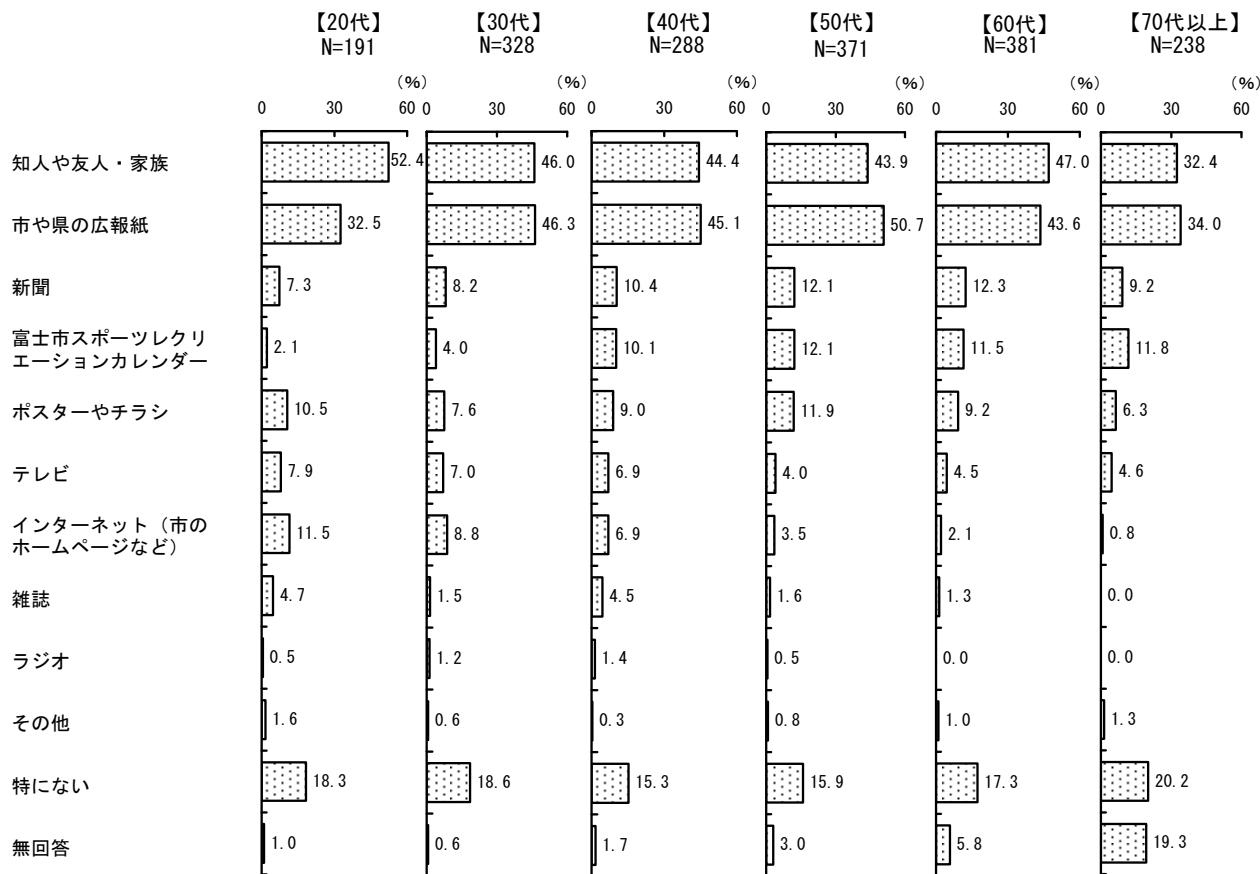
年代別にみると、20代、60代では「知人や友人・家族」が最も多く、30代～50代、70代以上では「市や県の広報紙」が最も多くなっている。

IV. 調査結果

【性別】

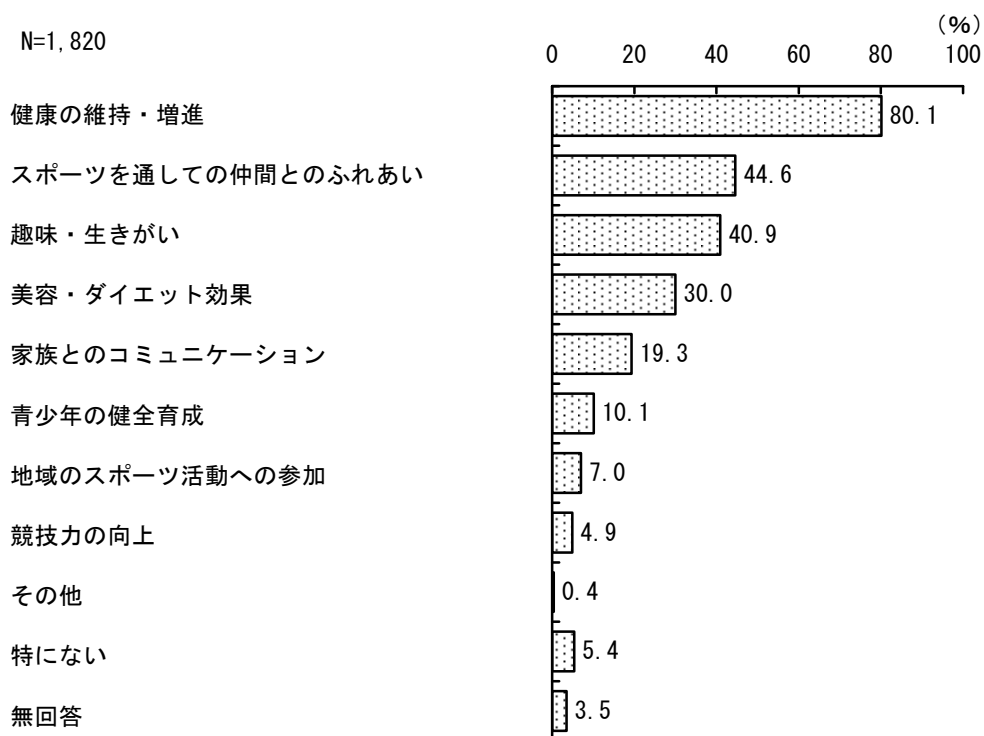


【年代別】



## (16) スポーツに期待すること

問15 あなたがスポーツに期待することは何ですか。次の中から該当するものをすべて選んでください。(M. A)

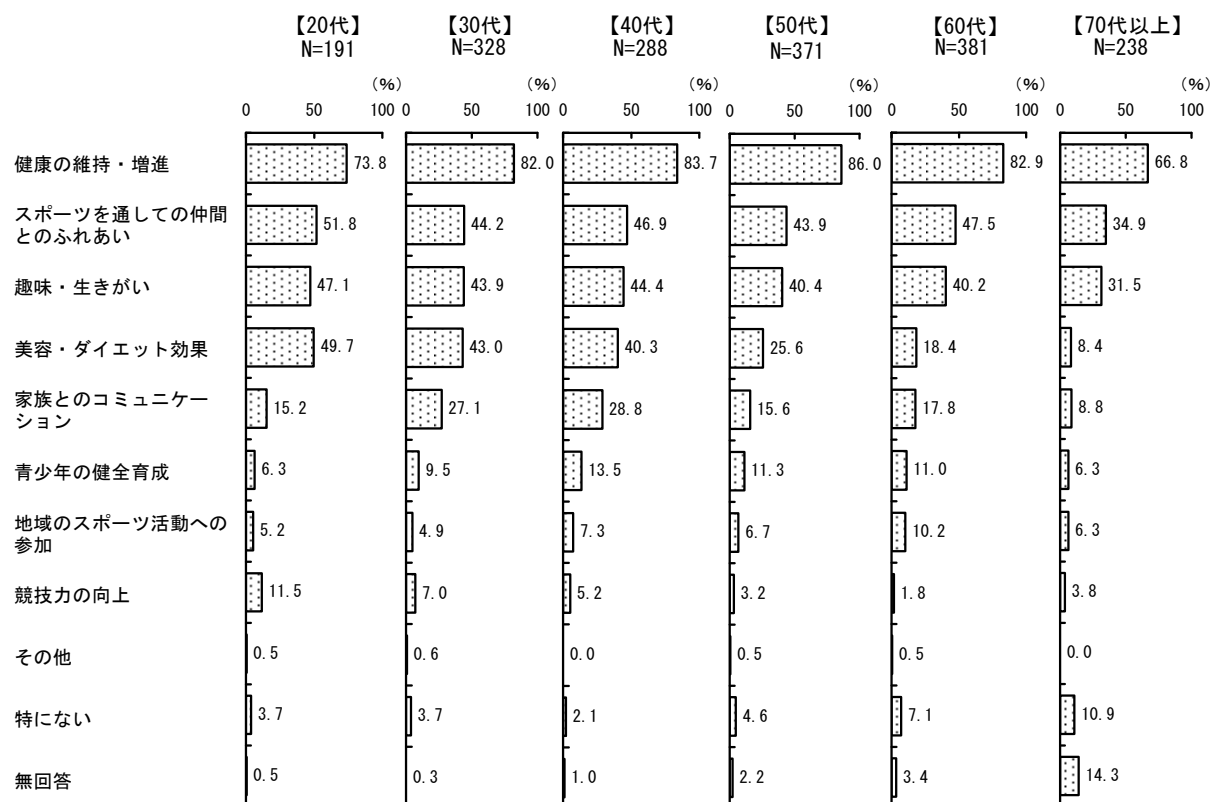


スポーツに期待することを尋ねたところ、「健康の維持・増進」が80.1%と8割を超え最も多く、次いで「スポーツを通しての仲間とのふれあい」が44.6%、「趣味・生きがい」が40.9%、「美容・ダイエット効果」が30.0%などの順になっている。

#### IV. 調査結果

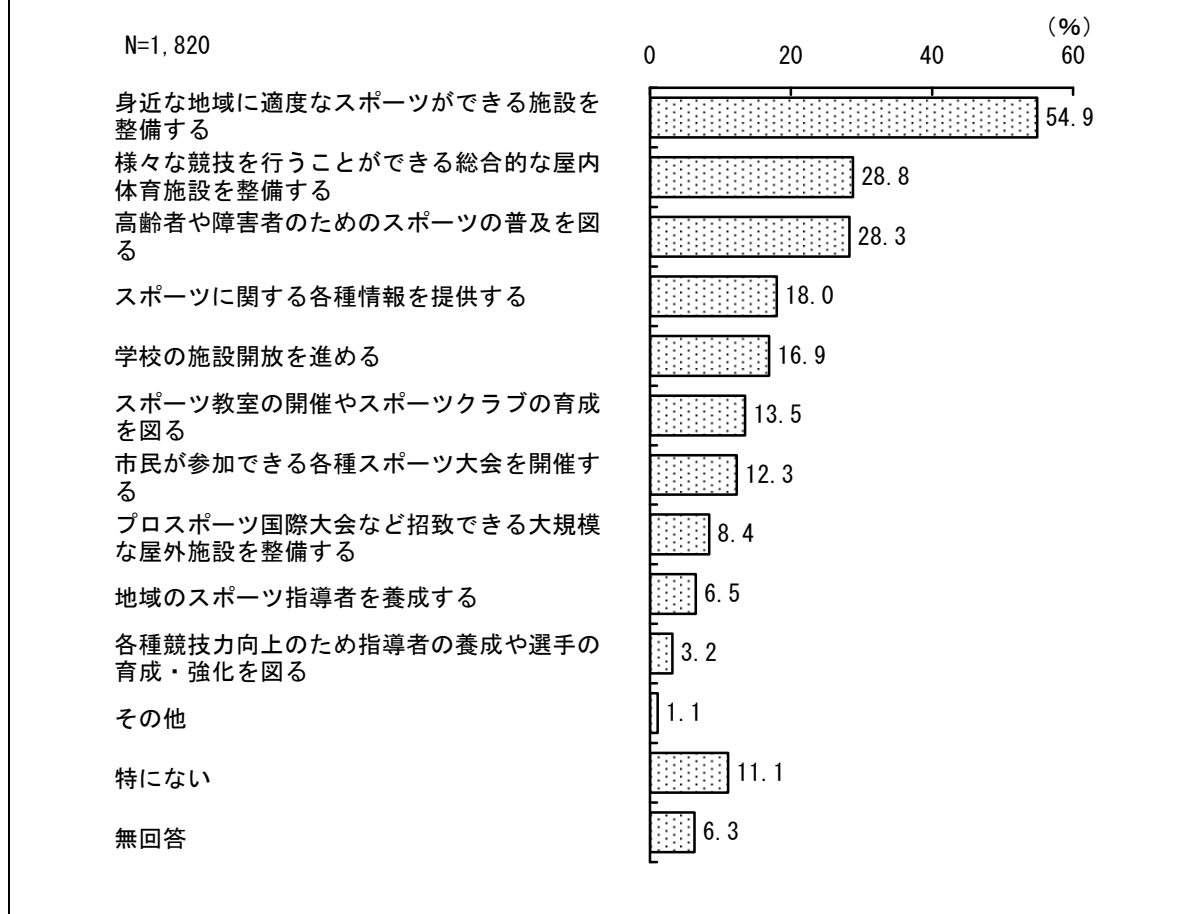
年代別にみると、どの年代においても「健康の維持・増進」が最も多く、特に30代～60代には8割を超えている。また、30代、40代では「家族とのコミュニケーション」の割合が約3割とほかの年代よりもやや多く、20代～40代では「美容・ダイエット効果」の割合が4割を超え、ほかの年代よりも多くなっている。

#### 【年代別】



## (17) 今後、必要と思われるスポーツ振興施策

問16 今後スポーツや運動をするために、どのようなスポーツ振興施策が必要だと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。(M. A)

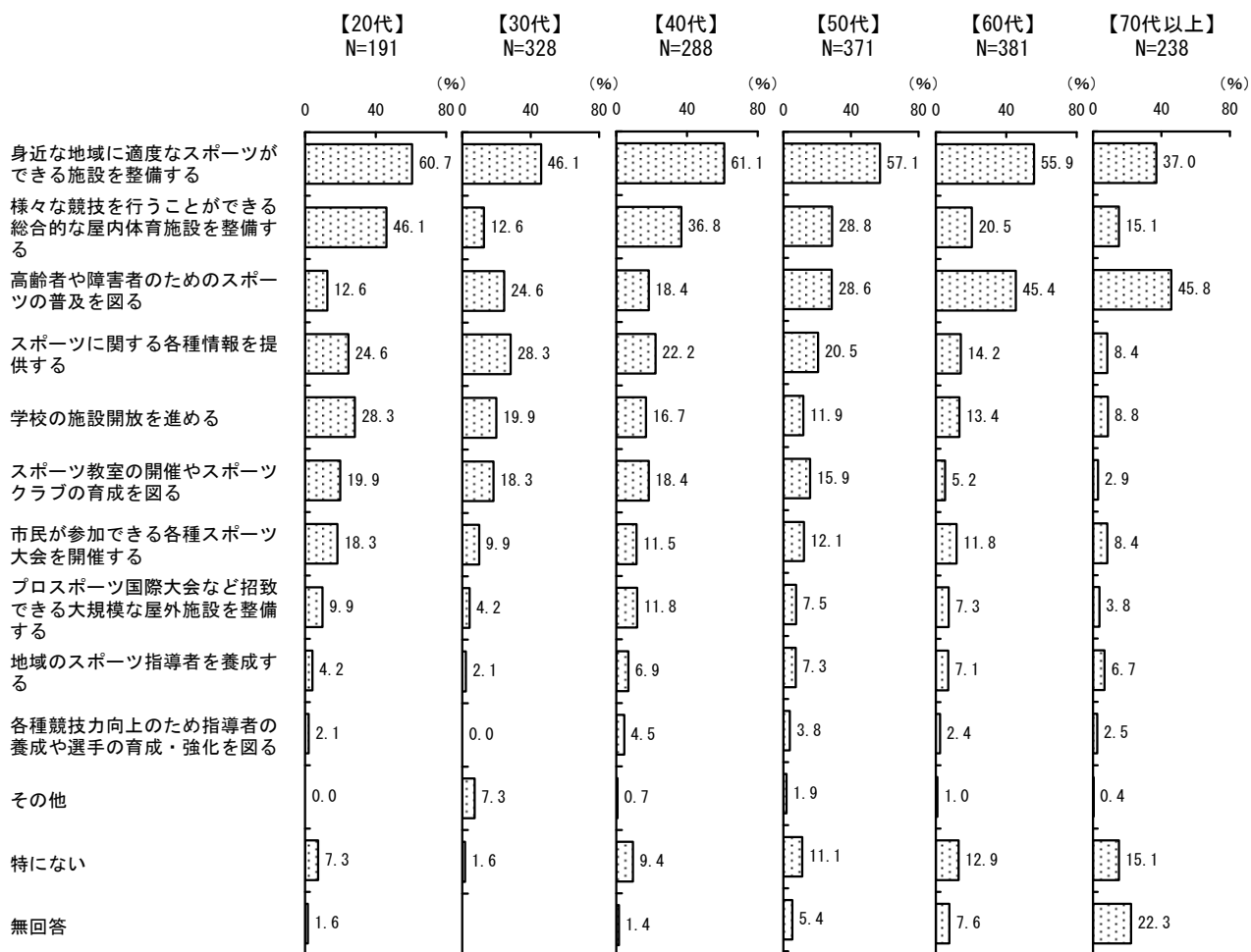


スポーツ振興のために必要な施策について尋ねたところ、「身近な地域に適度なスポーツができる施設を整備する」が最も多く、54.9%に達している。以下、「様々な競技を行うことができる総合的な屋内体育施設を整備する」が28.8%、「高齢者や障害者のためのスポーツの普及を図る」が28.3%、「スポーツに関する各種情報を提供する」が18.0%などの順になっている。

#### IV. 調査結果

年代別にみると、20代～60代では「身近な地域に適度なスポーツができる施設を整備する」が最も多く半数以上を占めており、70代以上では「高齢者や障害者のためのスポーツの普及を図る」が最も多く45.8%となっている。また、「高齢者や障害者のためのスポーツの普及を図る」の項目においては、60代以上で高い割合となっておりほかの年代と差がみられる。

#### 【年代別】

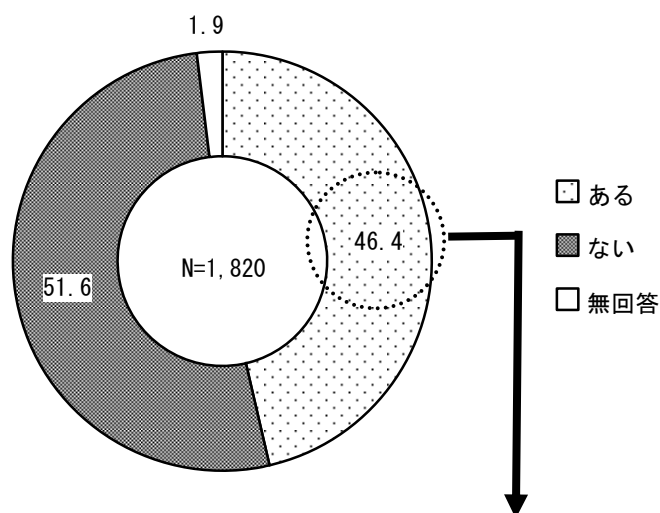




## 「食育」について

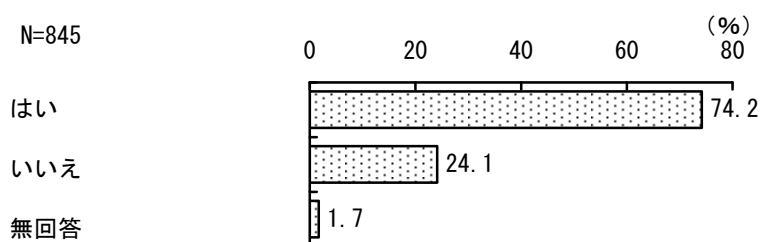
### (1) 過去1年間の腹囲測定の有無

問17 あなたは過去1年間に、腹囲（おへその位置でのおなかまわり）を測定したことがありますか。



問17-1 あなたの腹囲は基準以内でしたか。

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の診断基準の1つとして、「男性：腹囲85cm以上、女性：腹囲90cm以上」が挙げられています。



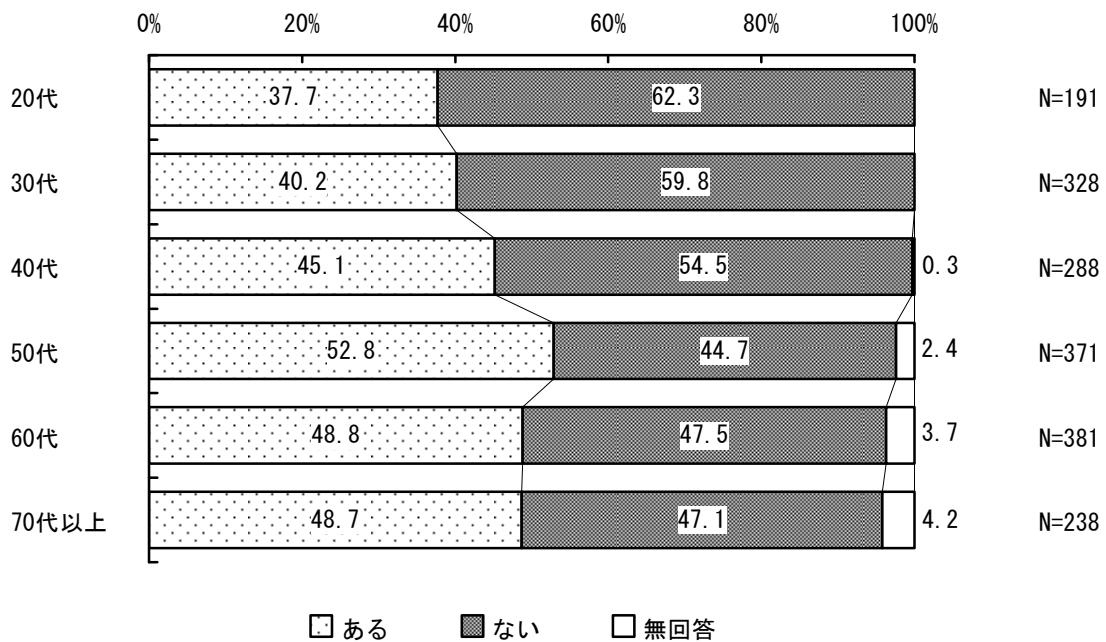
この1年間に腹囲を測定したことがあるかを尋ねたところ、「ある」が46.4%、「ない」が51.6%と、「ない」の方がやや多くなっている。

また、「ある」と回答した人に、腹囲がメタボリックシンドロームの診断基準以内であったかを尋ねたところ、「はい」が74.2%で約7割の人が基準以内となっている。

#### IV. 調査結果

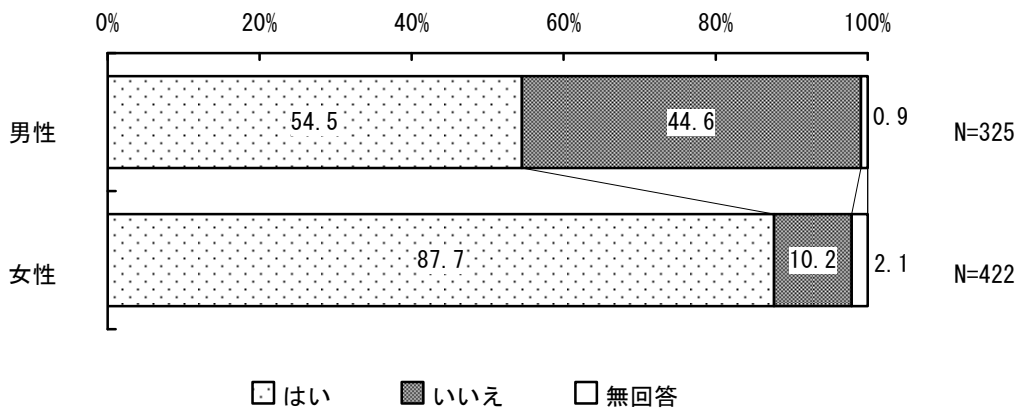
腹囲の測定有無を年代別にみると、40代以下では「ない」の方が多く、50代以上では「ある」の方が多くなっている。測定の経験のない人は30代以下では約6割と、若年層ほど多くなっている

【年代別】問17 腹囲の測定有無



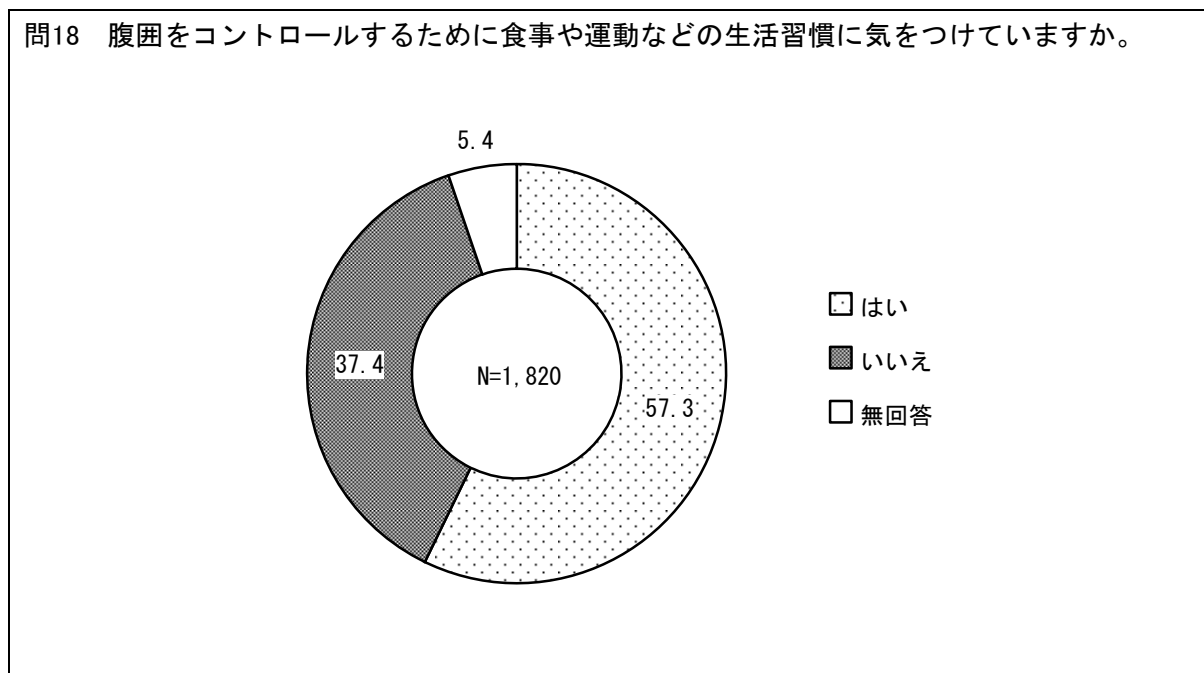
腹囲の測定結果を性別にみると、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の基準以内である（「はい」）と回答した人は、女性では87.7%と9割弱を占めているのに対し、男性では54.5%と約半数にとどまっている。

【性別】問17-1 腹囲の測定結果（基準以内であったか）



(2) 腹囲コントロールのため、生活習慣に気をつけているか

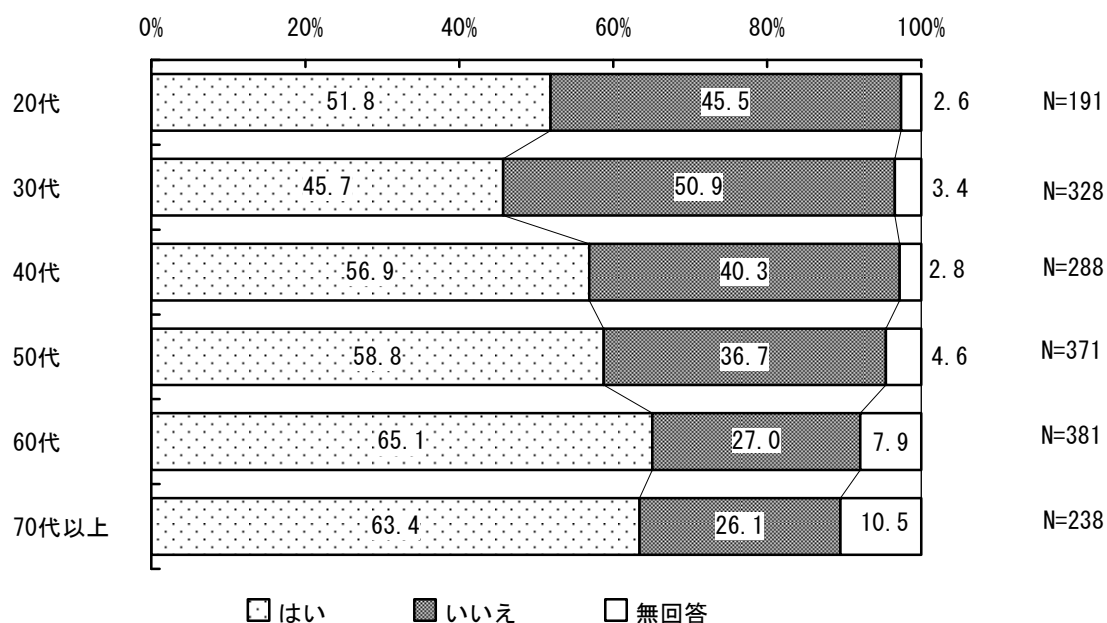
問18 腹囲をコントロールするために食事や運動などの生活習慣に気をつけていますか。



腹囲をコントロールするために食事や運動など生活習慣に気をつけているかを尋ねたところ、「はい」が57.3%、「いいえ」が37.4%で、「はい」と回答した人が半数を超えており、生活習慣に気をつけている人の割合の方が高くなっている。

年代別にみると、全体的に「はい」の方が多くなっている。また、30代だけは「いいえ」の方がやや多くなっているが、年代が上がるほど生活習慣に気をつけている人の割合の方が高くなる傾向にある。

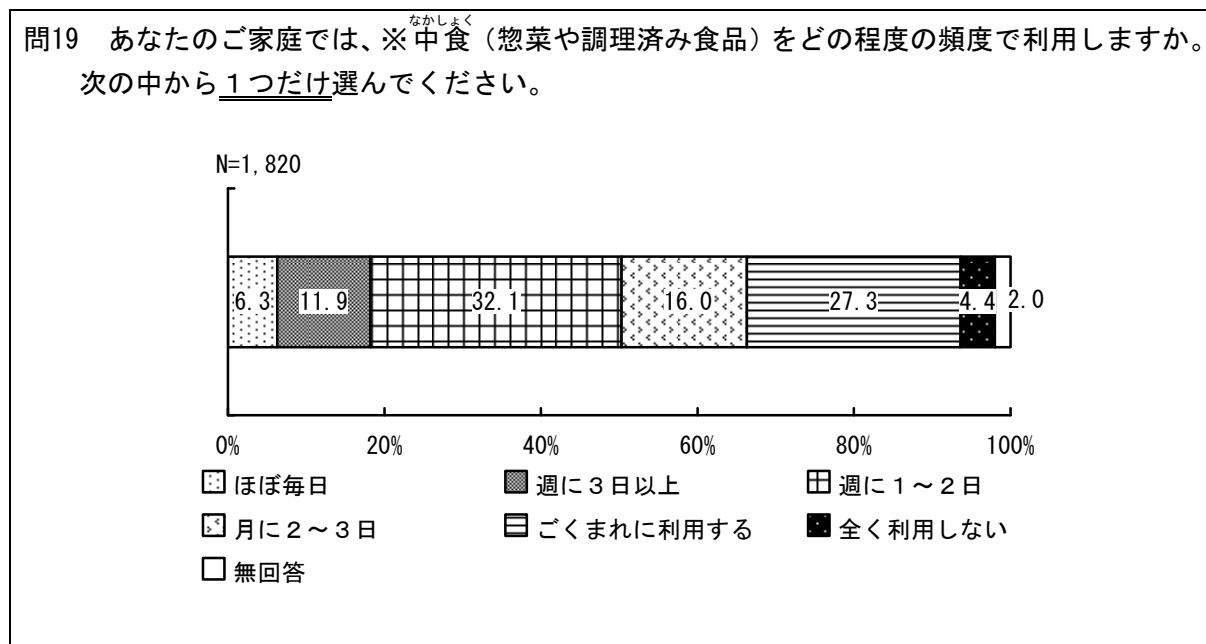
【年代別】



IV. 調査結果

(3) 中食の利用頻度

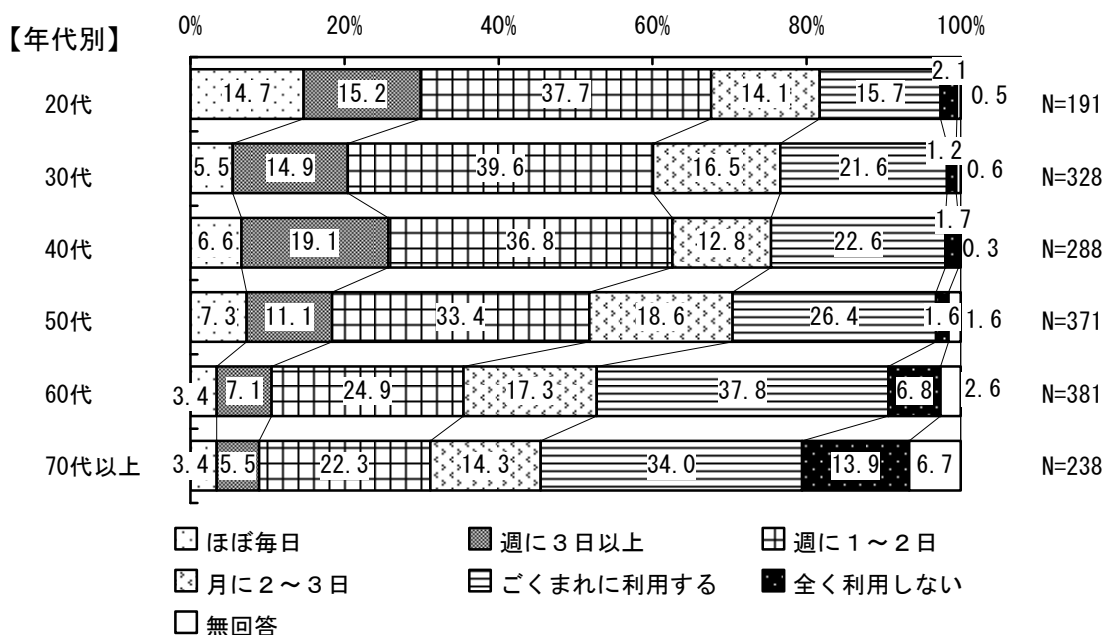
問19 あなたのご家庭では、※中食（惣菜や調理済み食品）をどの程度の頻度で利用しますか。  
次の中から1つだけ選んでください。



家庭で中食を利用する頻度を尋ねたところ、「全く利用しない」と回答した人が4.4%だったのに対し、利用している人は9割を超えその割合は非常に高い。

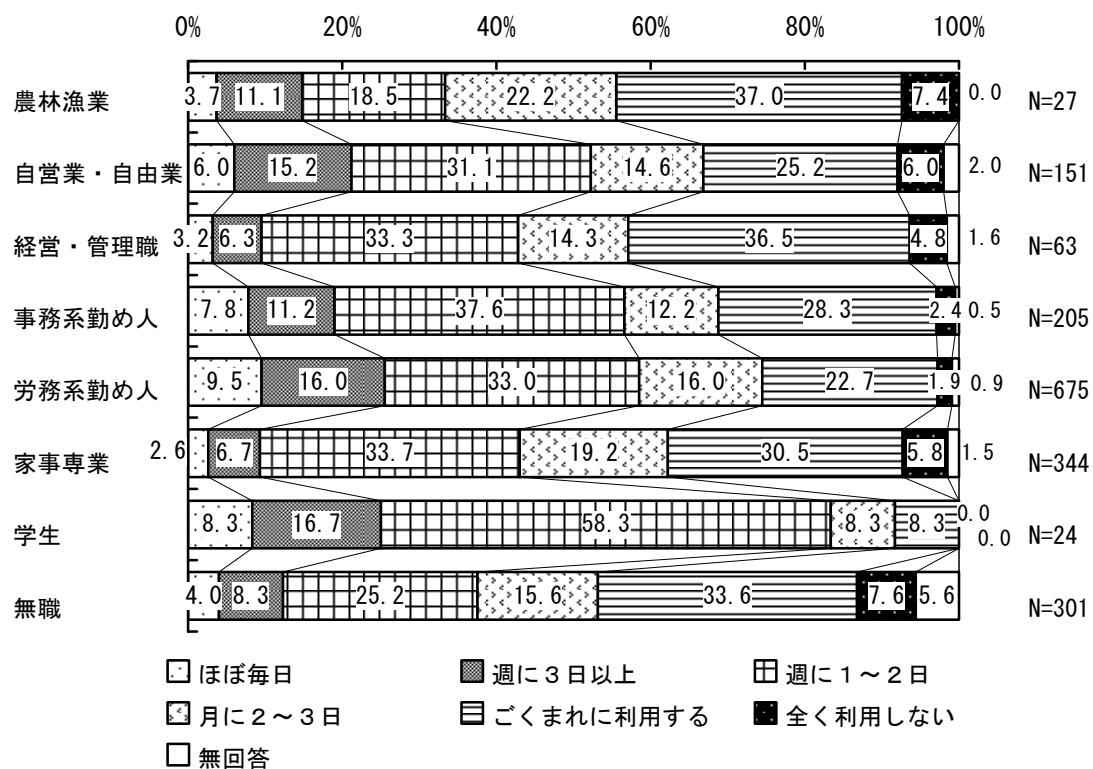
また、その頻度については、「週に1~2回」と回答した人が32.1%と最も多く、次いで「ごくまれに利用する」が27.3%、「月に2~3回」が16.0%「週に3日以上」が11.9%、「ほぼ毎日」は最も少なく、6.3%となっている。

年代別にみると、50代以下では「週に1~2回」が最も多く、60代以上では「ごくまれに利用する」が最も多くなっている。「ほぼ毎日」の項目は20代が、「全く利用しない」の項目は70代以上がほかの年代に比べると少し高い割合となっている。



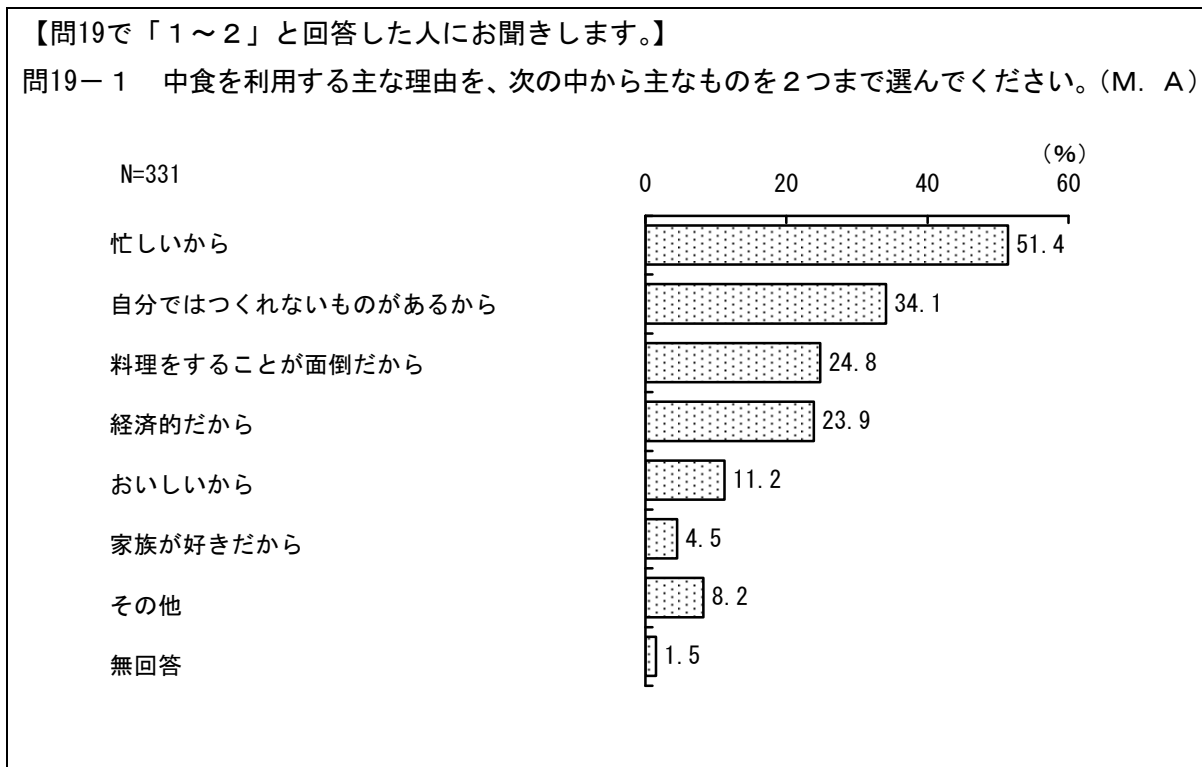
職業別にみると、“週に1～2回以上”利用している割合は学生が最も多く、8割上を占めている。ほか、労務系勤め人や事務系勤め人、自営業・自由業などで“週に1～2回以上”の割合が半数以上を占めるなど利用がやや多い傾向にある。

【職業別】



IV. 調査結果

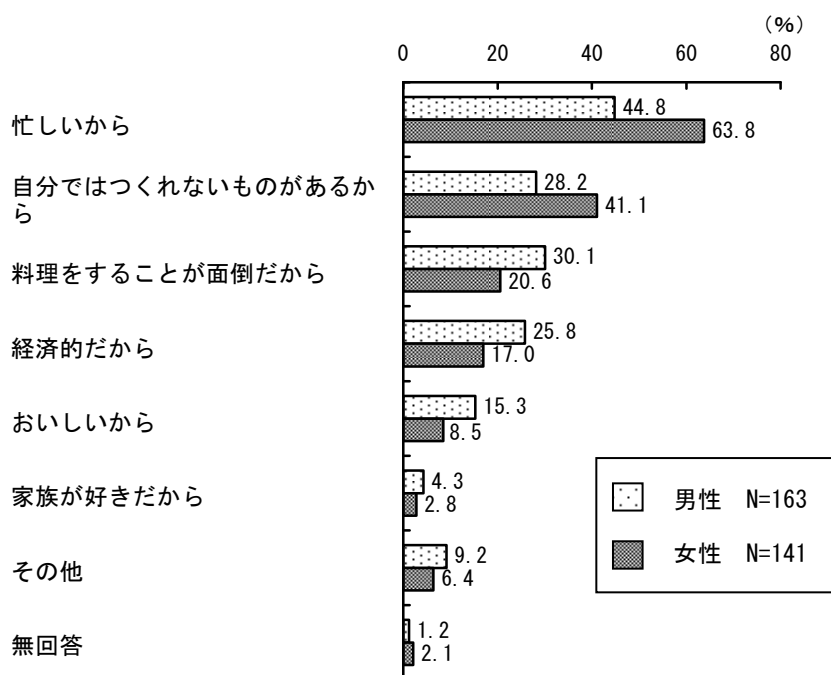
(4) 中食を利用する主な理由



中食を利用する主な理由について尋ねたところ、「忙しいから」と回答した人が51.4%と半数を超え最も多く、次いで「自分ではつukれないものがある」が34.1%、「料理をすることが面倒だから」が24.8%、「経済的だから」が23.9%などと続いている。

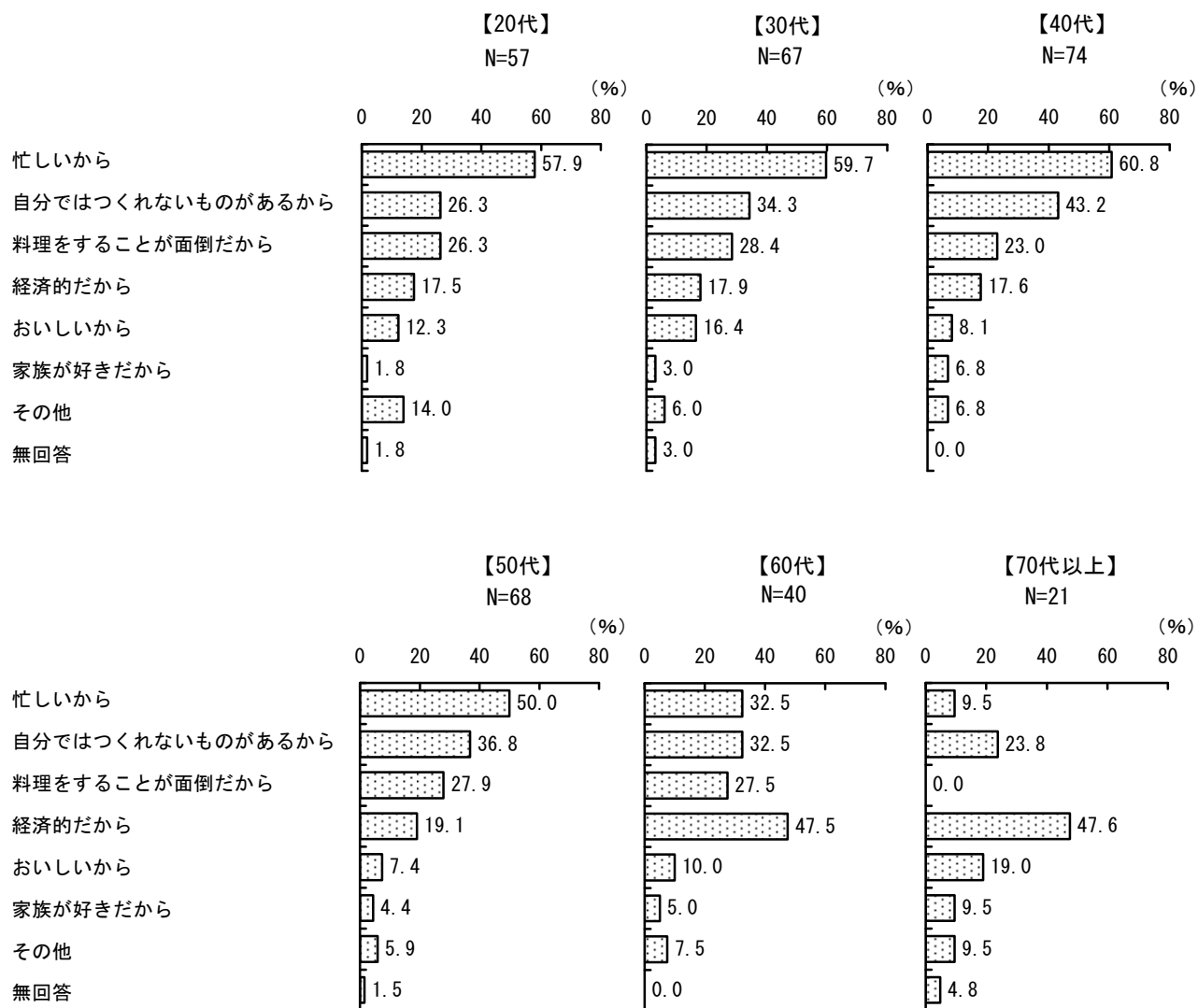
性別にみると、男性、女性ともに「忙しいから」が最も多く、女性は6割を超えて男性よりも多くなっている。また、女性では「自分ではつukれないものがある」の項目が4割を超えており、男性よりも多くなっている。

【性別】



年代別にみると、20代～50代では「忙しいから」が最も多くなっているのに対し、60代以上では「経済的だから」が最も多くなっている。

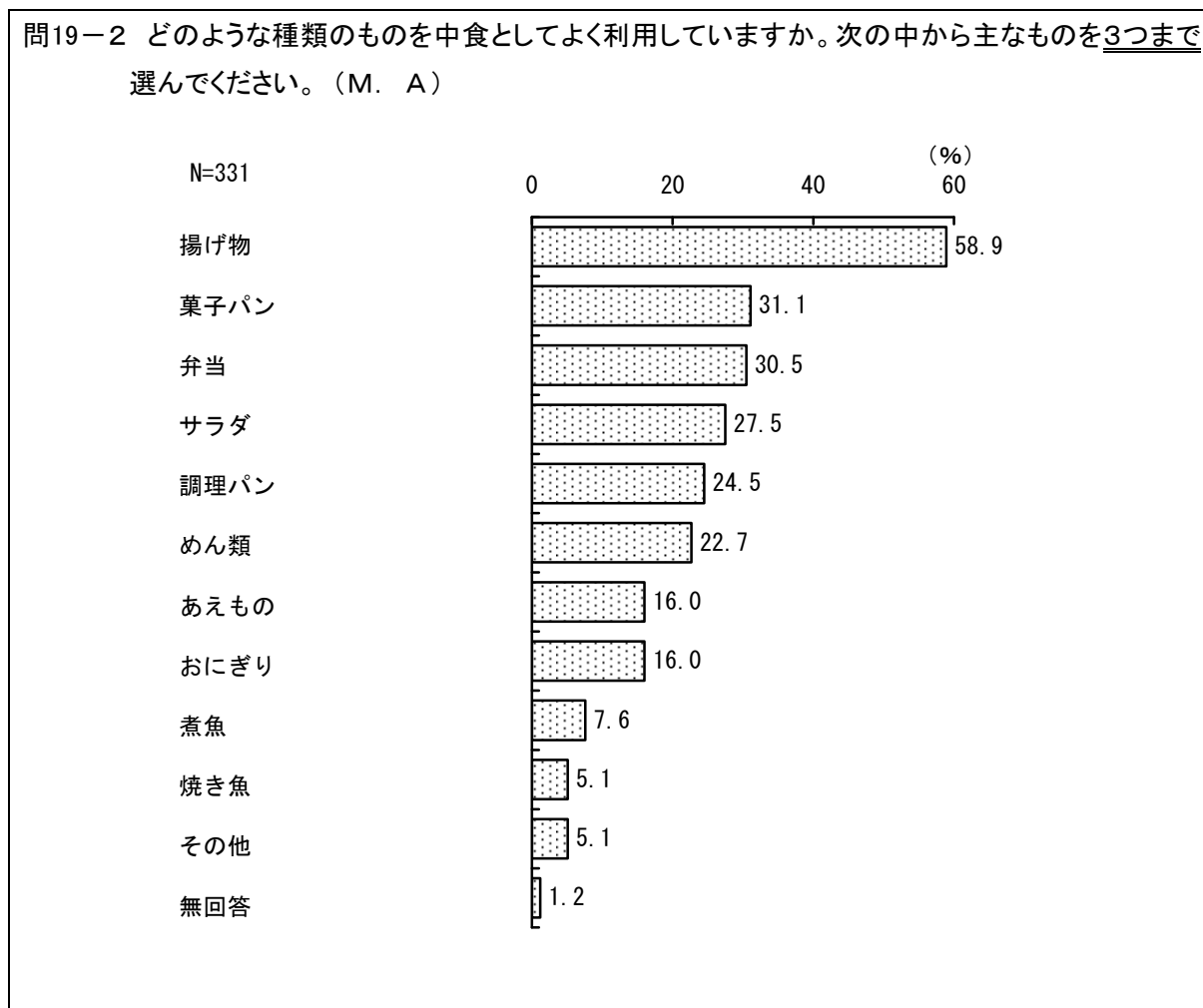
【年代別】



#### IV. 調査結果

##### (5) よく利用する中食

問19-2 どのような種類のものを中食としてよく利用していますか。次の中から主なものを3つまで選んでください。(M. A)

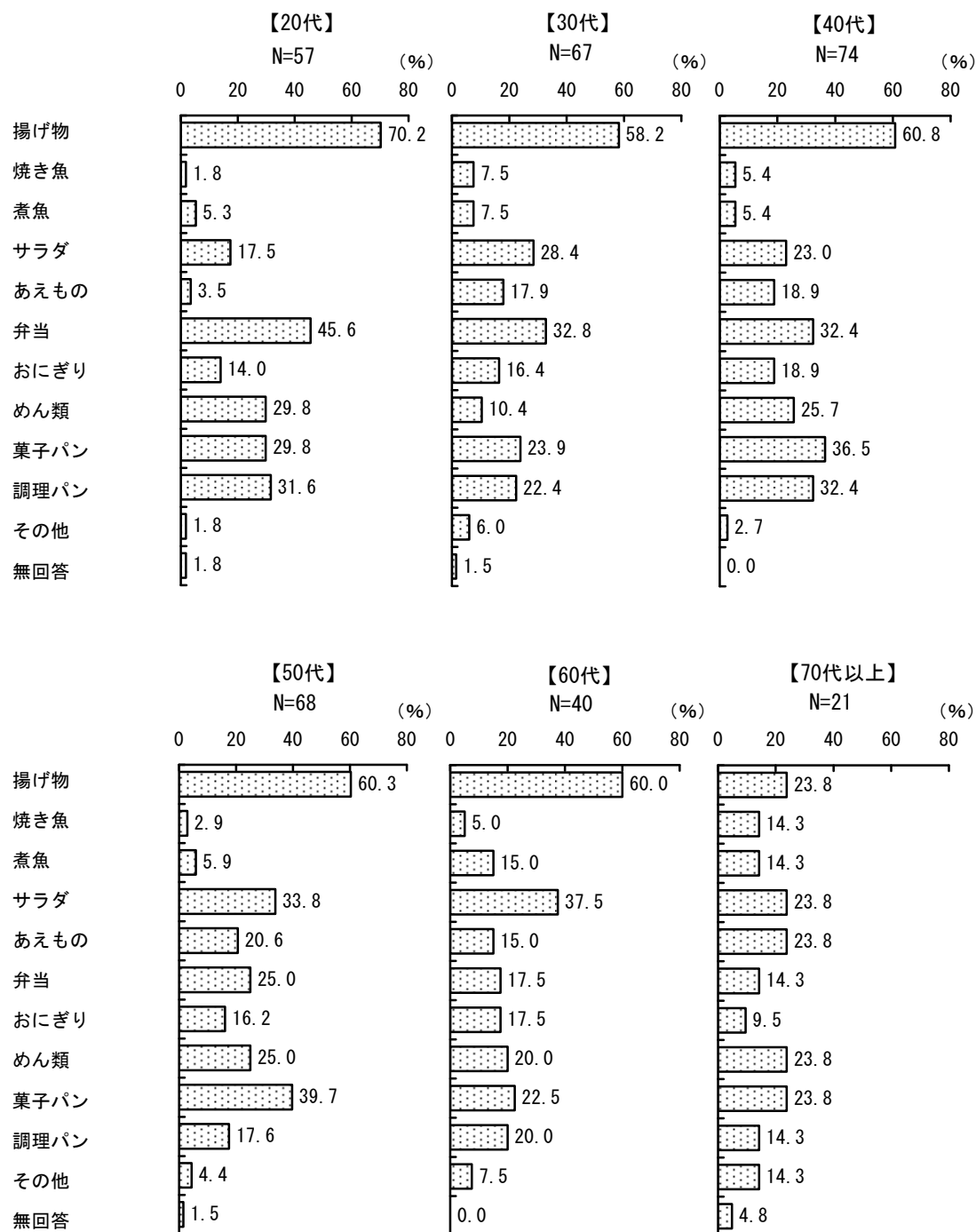


利用する中食の種類について尋ねたところ、「揚げもの」が58.9%と突出して多く約6割に達し、次いで「菓子パン」が31.1%、「弁当」が30.5%、「サラダ」27.5%、「調理パン」が24.5%などと続いている。



年代別にみると、60代以下では「揚げ物」が最も多く、特に20代では7割など高い割合になっているのに対し、70代以上では23.8%と低く、60代以下と70代以上の間で大きな差がみられる。また、「焼き魚」は70代以上で、「煮魚」は60代以上でほかの年代よりも少し多くなっている。「弁当」と回答した人は、若年層ほど多いという結果となっている。

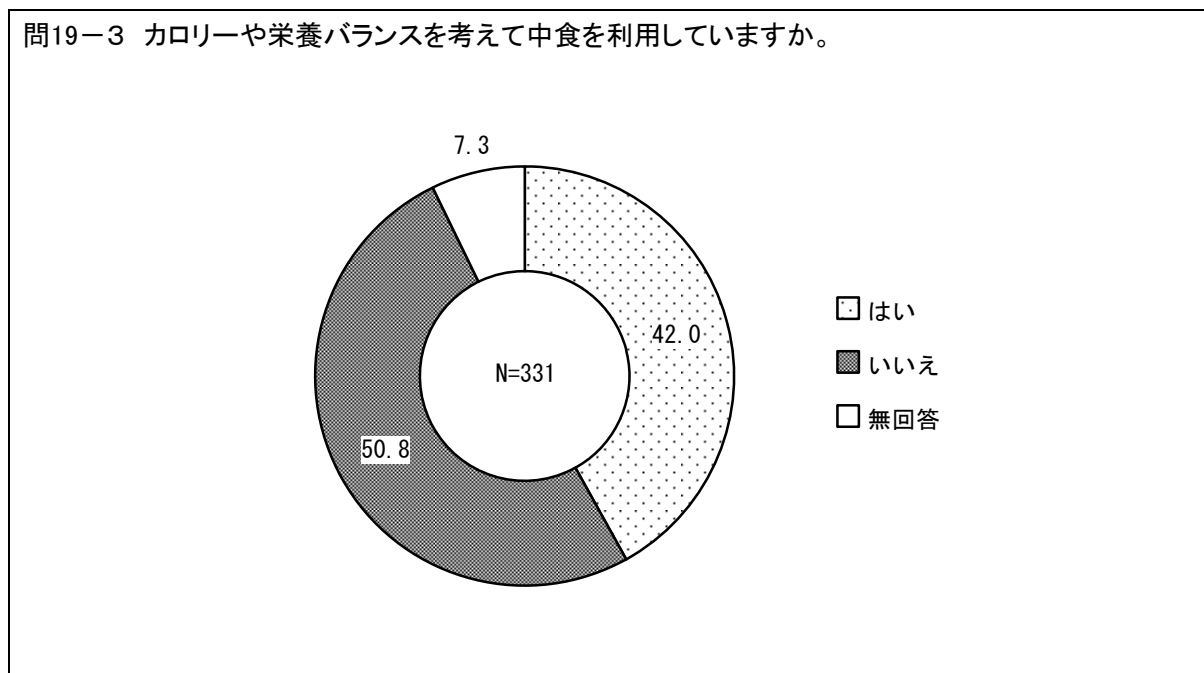
【年代別】



#### IV. 調査結果

##### (6) 中食でのカロリーや栄養バランスの考慮

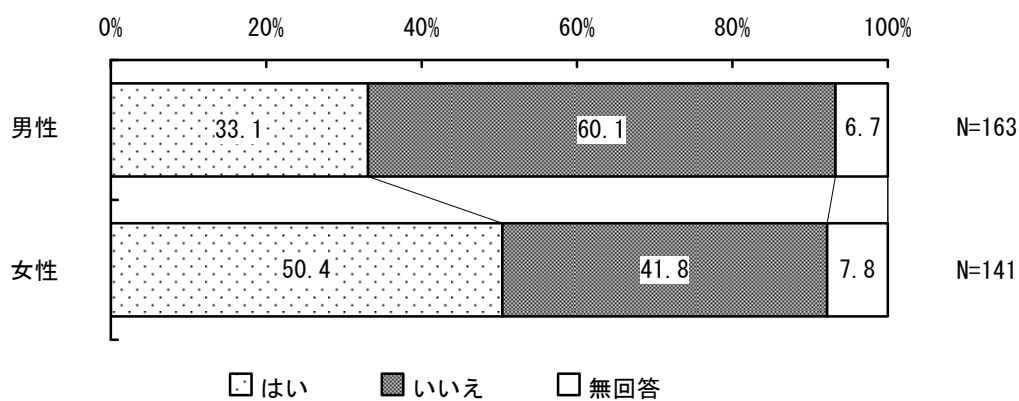
問19-3 カロリーや栄養バランスを考えて中食を利用していますか。



中食を利用する際、カロリーや栄養バランスを考えているかを尋ねたところ、「はい」が42.0%、「いいえ」が50.8%で、「いいえ」と回答した人が約半数で、カロリーや栄養バランスを考慮せず利用している人の割合の方がやや高い。

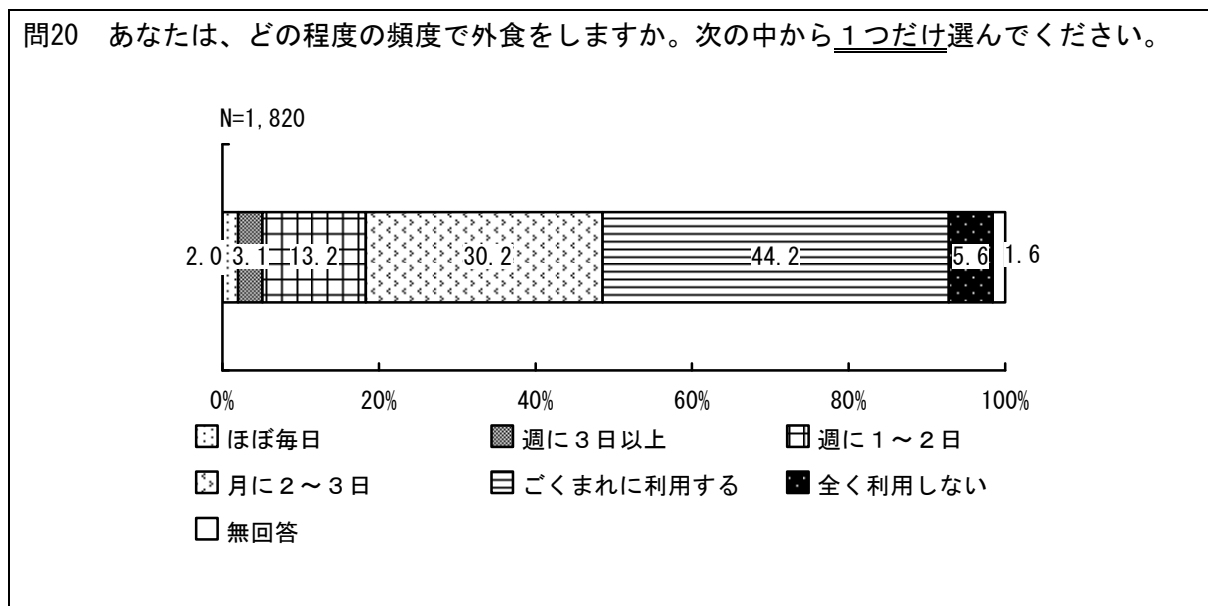
性別にみると、「はい」と回答した人が男性は33.1%で約3割なのに対し、女性は50.4%と半数を占め、女性の方がカロリーや栄養バランスを考慮して利用している人の割合が高くなっている。

##### 【性別】



(7) 外食の頻度

問20 あなたは、どの程度の頻度で外食をしますか。次の中から1つだけ選んでください。

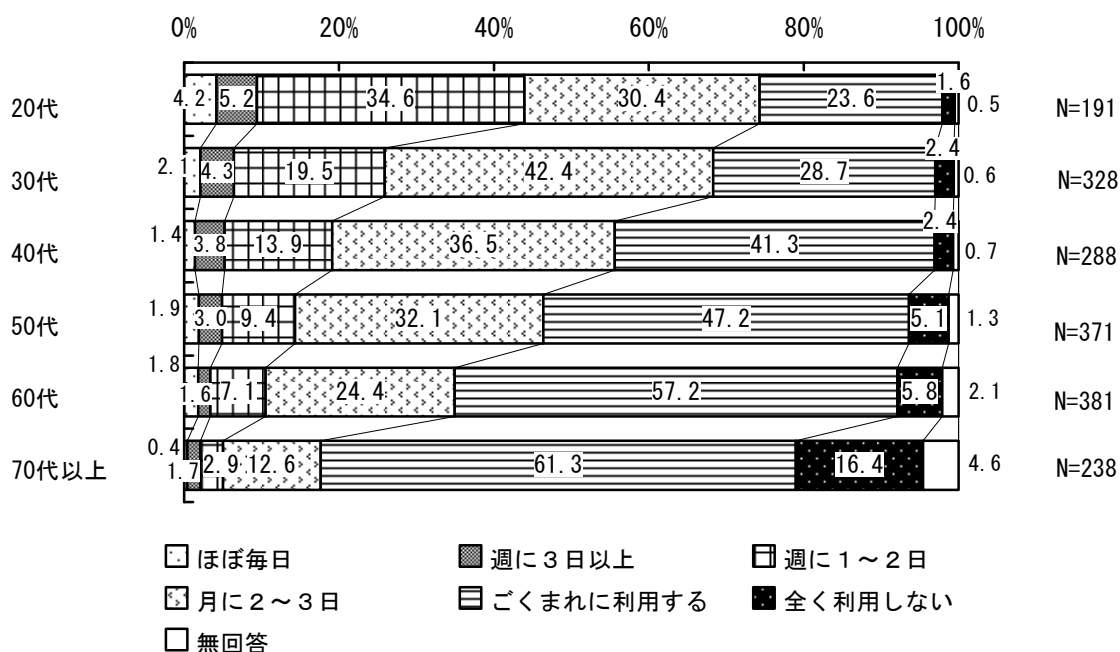


外食をする頻度について尋ねたところ、「全く利用しない」と回答した人は5.6%だったのに対し、外食をするという人は9割を超え、その割合は非常に高くなっている。

また、その頻度については、「ごくまれに利用する」が44.2%と最も多く、「月に2~3回」が30.2%、「週に1~2回」が13.2%、「週に3日以上」が3.1%、「ほぼ毎日」が2.0%と頻度が多くなるにつれ割合は低くなる傾向にある。

年代別にみると、20代では「週に1~2回」が最も多く、30代では「月に2~3回」が最も多くなっている。40代以上では「ごくまれに利用する」が最も多くなっており、60代以上においては約6割に達している。年代が若くなるほど利用頻度が高くなる傾向になっている。

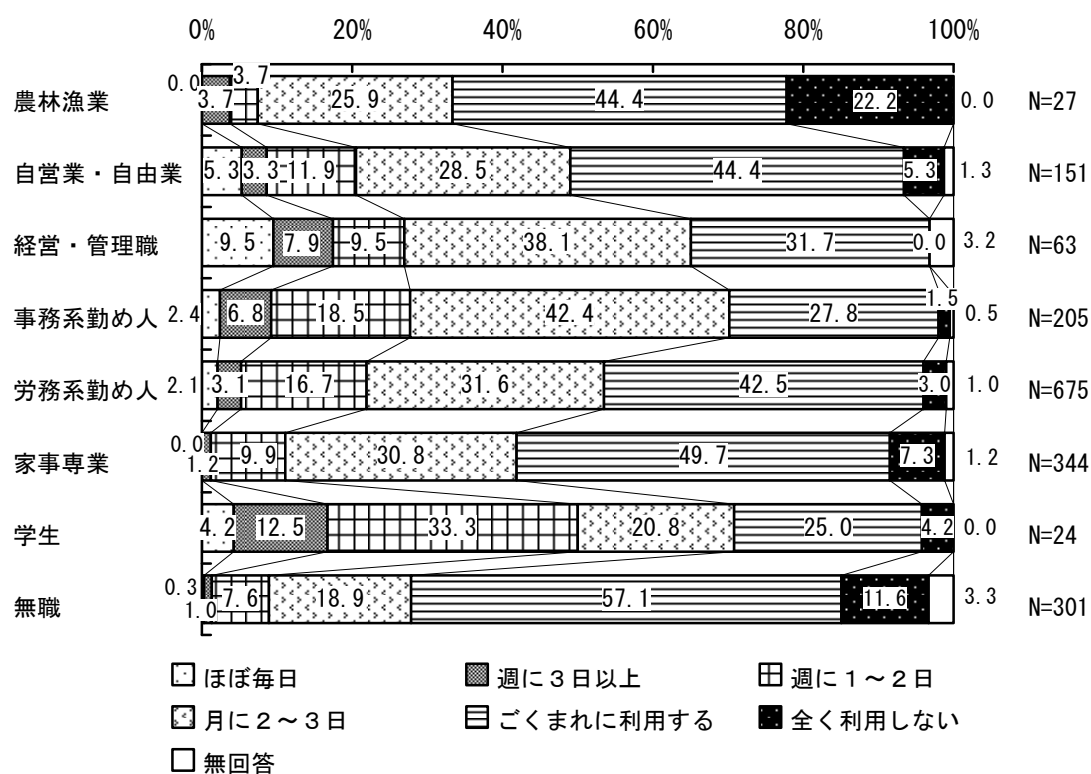
【年代別】



IV. 調査結果

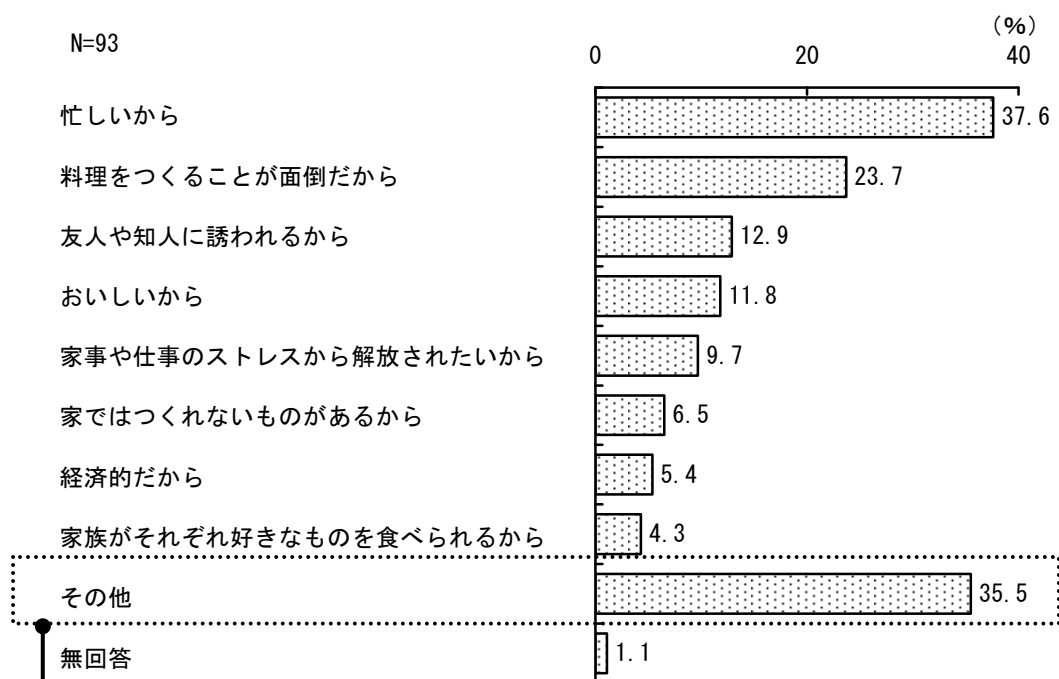
職業別にみると、“週に1～2回以上”利用している割合は学生が最も多く、半数を占めている。ほか、事務系勤め人や経営・管理職などで“週に1～2回以上”が3割弱を占めるなど利用がやや多い傾向にある。

【職業別】



## (8) 外食をする主な理由

【問20で「1～2」と回答した人にお聞きします。】

問20-1 外食をする主な理由について、次の中から2つまで選んでください。(M. A)

## 《その他の理由》

- ・仕事の都合上（外出が多い、昼食だけ外食、帰りが遅くなるなど）
- ・会社の食堂や学校の食堂を利用するため
- ・デイサービスに通っているため

など

外食をする主な理由について尋ねたところ、「忙しいから」が37.6%と最も多く、次いで「料理をつくるのが面倒だから」が23.7%、「友人や知人に誘われるから」が12.9%、「おいしいから」が11.8%などとなっている。

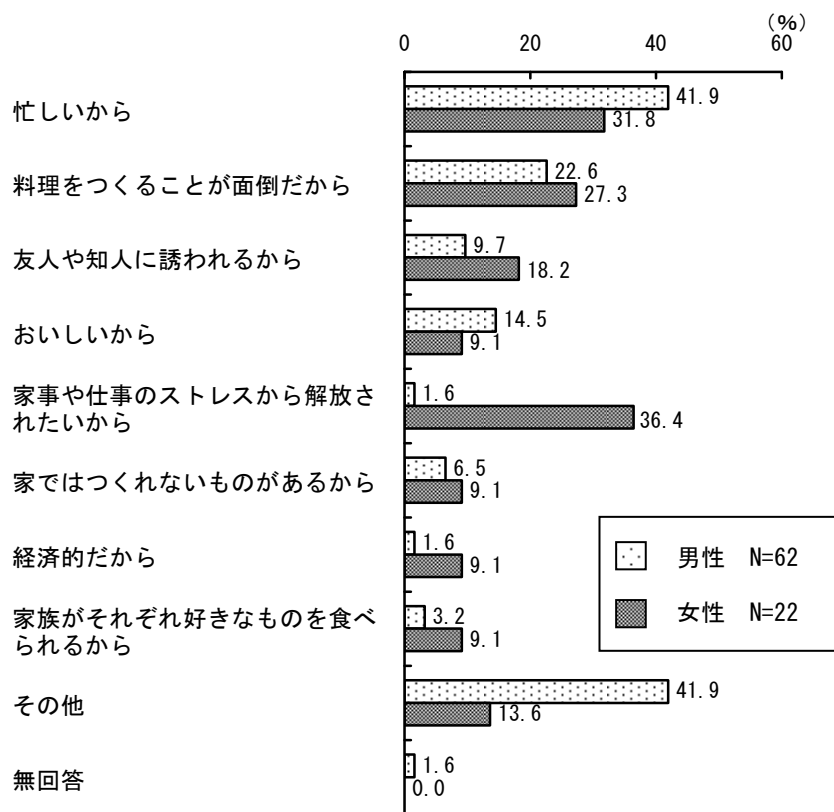
また、「その他」と回答した方の具体的な理由をみると、「仕事の都合上」というのが大半を占めている。

#### IV. 調査結果

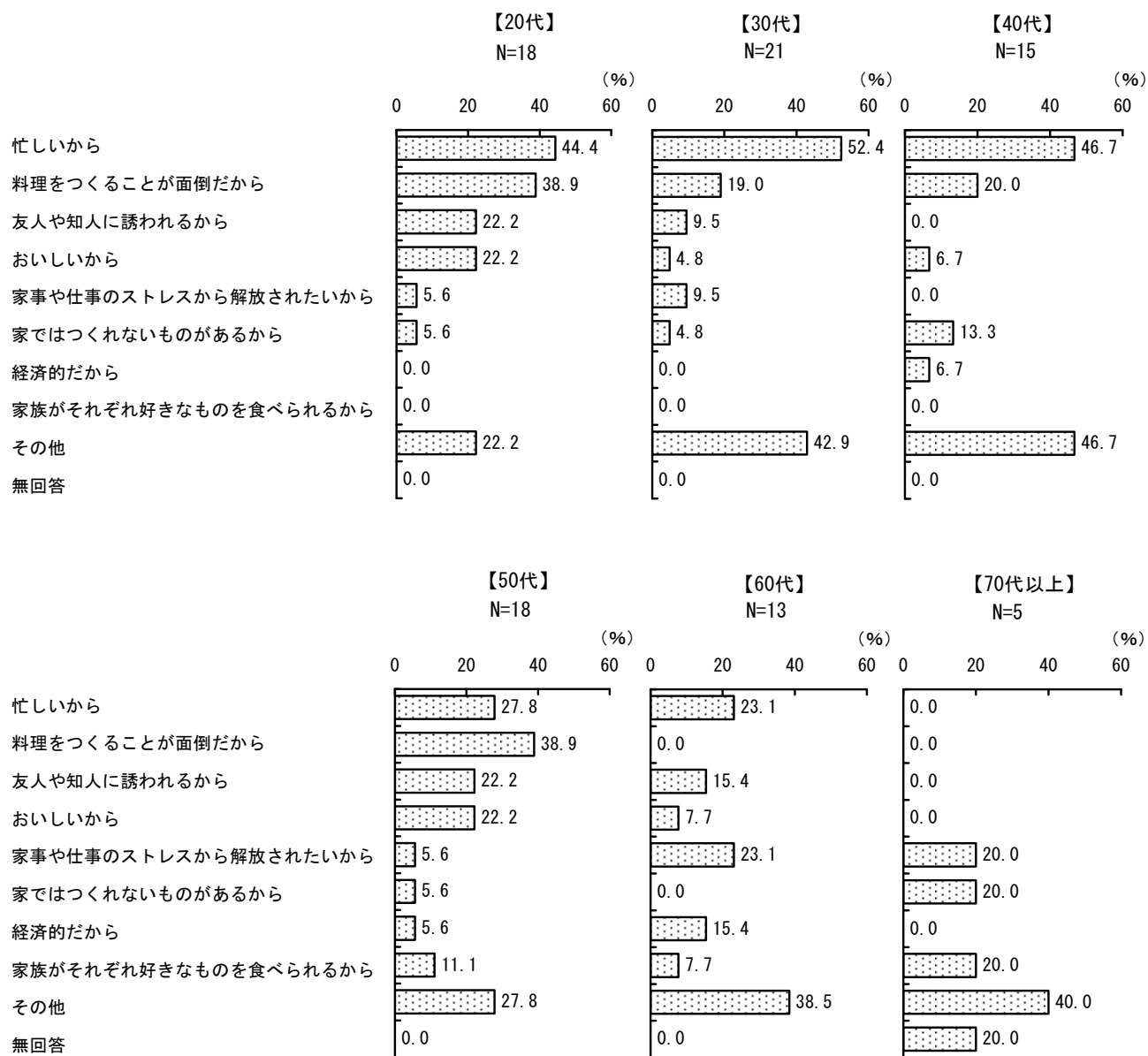
性別でみると、男性では「忙しいから」が最も多く41.9%、次いで「料理をつくるのが面倒だから」が22.6%、「おいしいから」が14.5%の順になっているのに対し、女性では「家事や仕事のストレスから解放されたいから」が最も多く36.4%、次いで「忙しいから」が31.8%、「料理をつくるのが面倒だから」が27.3%の順に多くなっているなど、「家事や仕事のストレスから解放されたいから」の項目については、男性に比べ女性の割合がかなり高くなっている。

年代別にみると、40代以下では「忙しいから」が最も多くなっており、50代では「料理をつくるのが面倒だから」、60代では「忙しいから」、「家事や仕事のストレスから解放されたいから」の2項目が、70代以上では「家族それぞれ好きなものを食べられるから」、「家ではつukれないものがある」、「家事や仕事のストレスから解放されたいから」の3項目が最も多くなっている。また、60代以上では「家事や仕事のストレスから解放されたいから」の割合がほかの年代に比べて高くなっている。

#### 【性別】

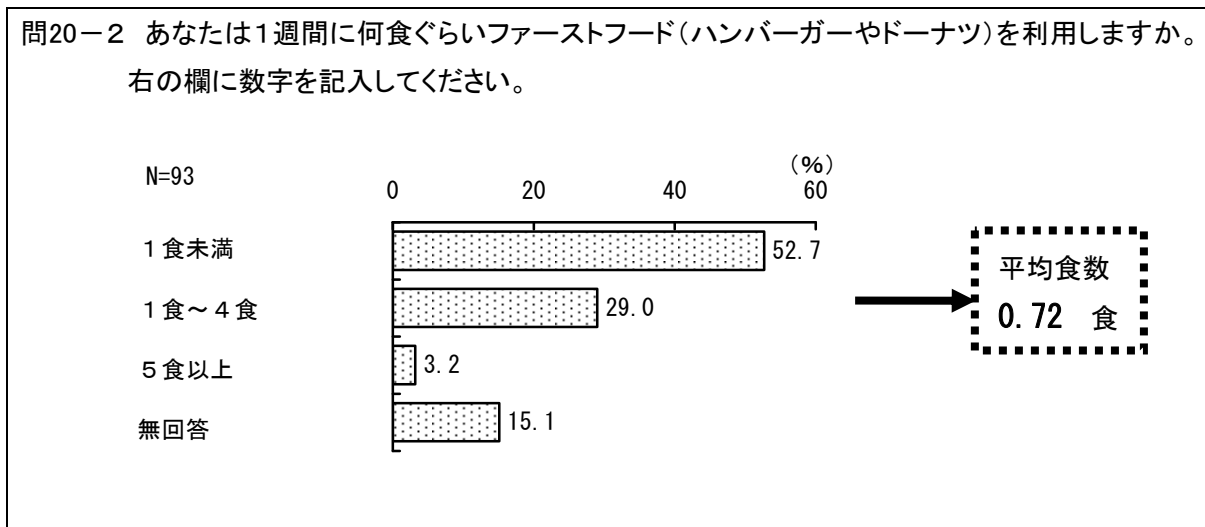


【年代別】



IV. 調査結果

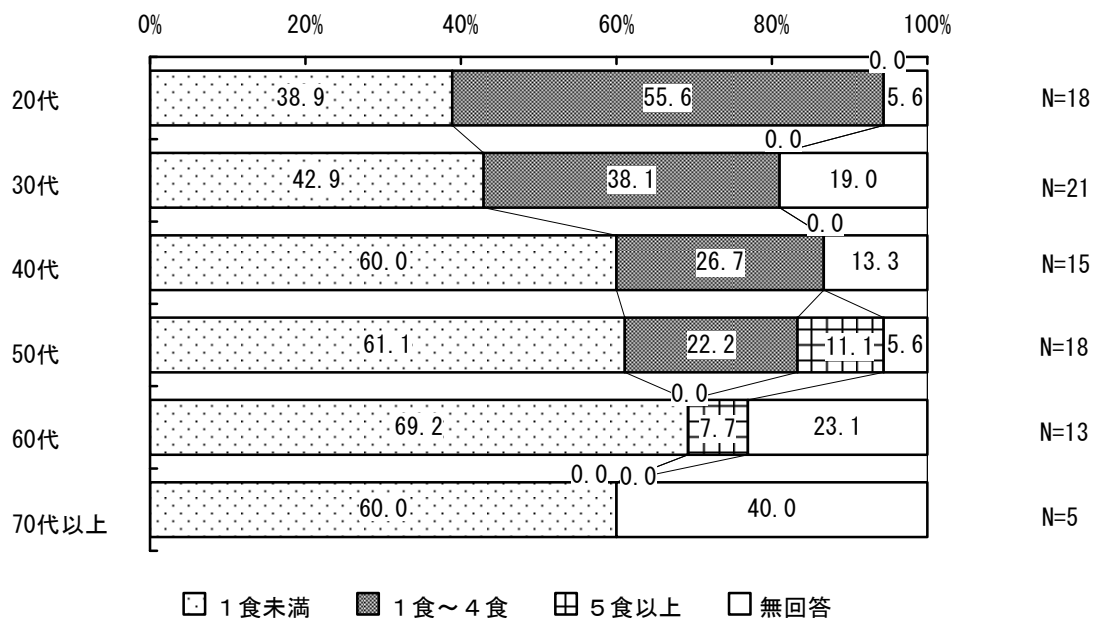
(9) ファーストフードの利用頻度



ファーストフードを週に何食ぐらい利用するかを尋ねたところ、週に「1食未満」と回答した人が52.7%と半数を超え最も多く、週に「1食~4食」と回答した人が29.0%、週に「5食以上」と回答した人が3.2%となり、その平均は“週に0.72食”となった。

年代別にみると、20代では週に「1食~4食」が最も多く、30代以上では週に「1食未満」が最も多くなっている。一方、ほかの年代では該当ゼロであった週に「5食以上」においては、50代が11.1%、60代が7.7%となっておりほかの年代との差がみられる。年代ごとの平均食数では、50代、20代、60代、30代、40代、70代以上の順番に多くなっている。

【年代別】

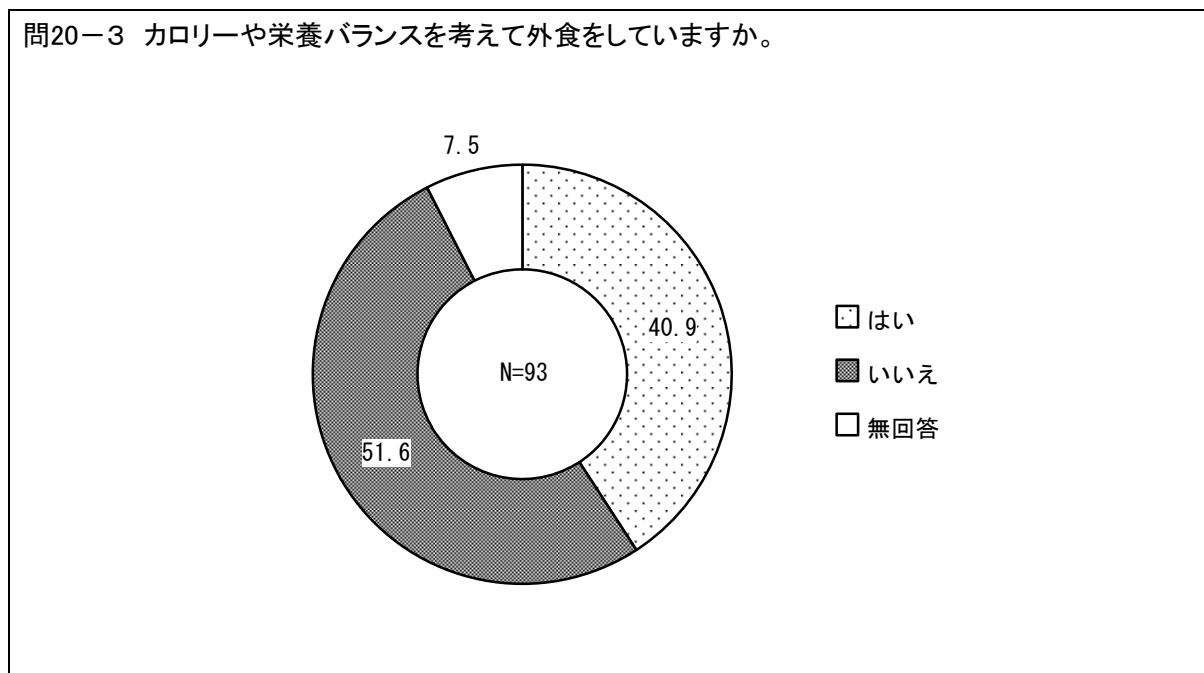


年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
平均食数	0.97食	0.50食	0.50食	1.08食	0.60食	0.00食



(10) 外食でのカロリーや栄養バランスの考慮

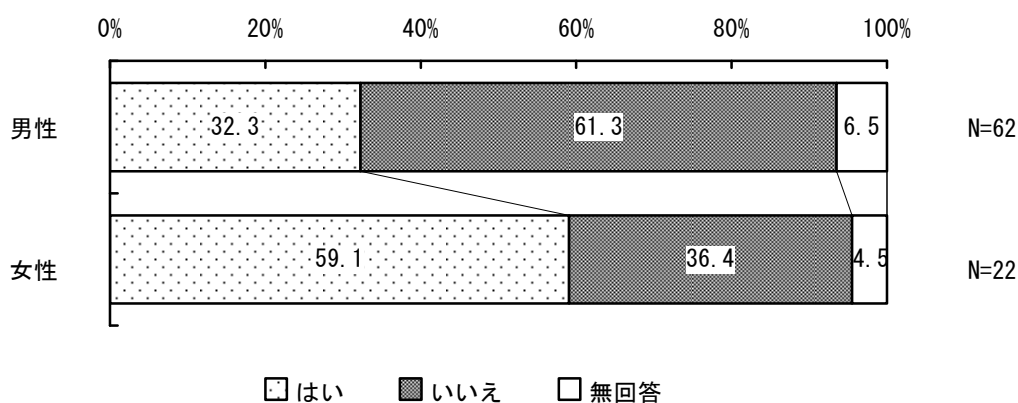
問20-3 カロリーや栄養バランスを考えて外食をしていますか。



外食する際、カロリーや栄養バランスを考えているかを尋ねたところ、「はい」が40.9%、「いいえ」が51.6%で半数を超え、カロリーや栄養バランスを考慮せず外食している人の割合の方が高い。

性別にみると、「はい」が男性では32.3%と約3割、女性では59.1%と約6割を占め、男性よりも女性の方がカロリーや栄養バランスを考慮して外食している人の割合が高くなっている。

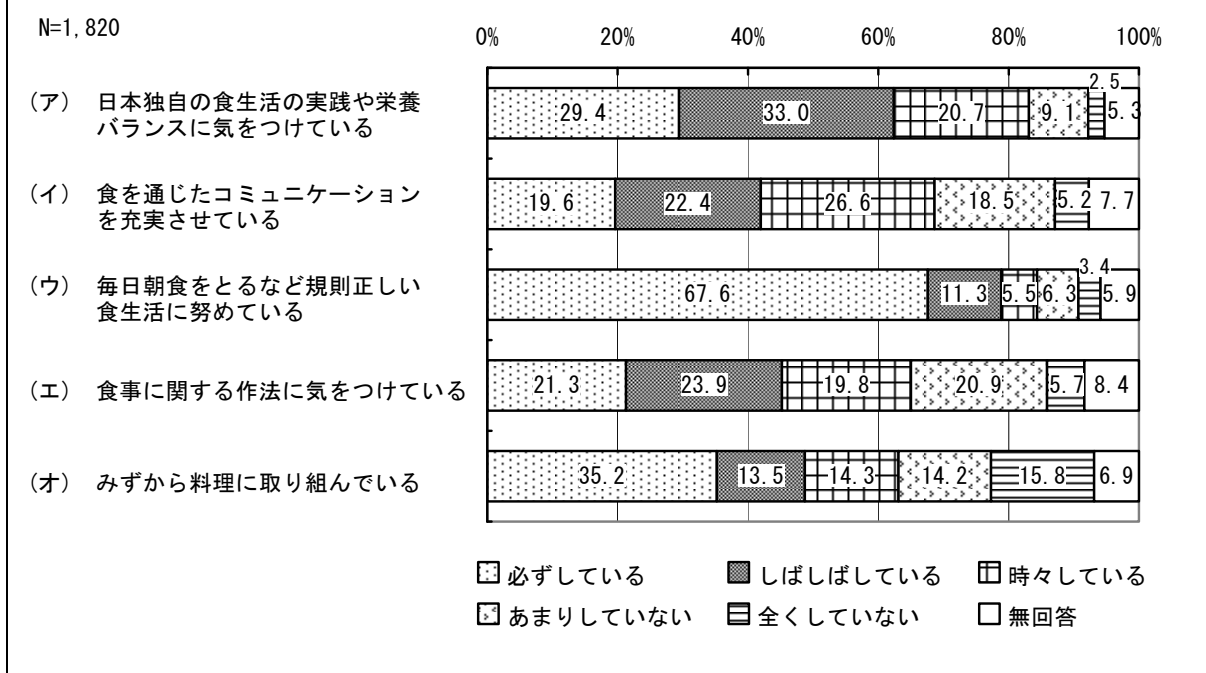
【性別】



IV. 調査結果

(11) 食生活に対する取り組み

問21 あなたの現在の食生活に対する取り組みとして、次の（ア）から（オ）について、当てはまるものを1つずつ選んでください。



現在の食生活に対する取り組みについて尋ねたところ、全体的に「必ずしている」、「しばしばしている」との声が多く、特に、『(ウ) 毎日朝食をとるなど規則正しい食生活に努めている』においては、「必ずしている」と回答した人が67.6%を占め、「しばしばしている」の11.3%と合わせると約8割の人が積極的に取り組んでいる。

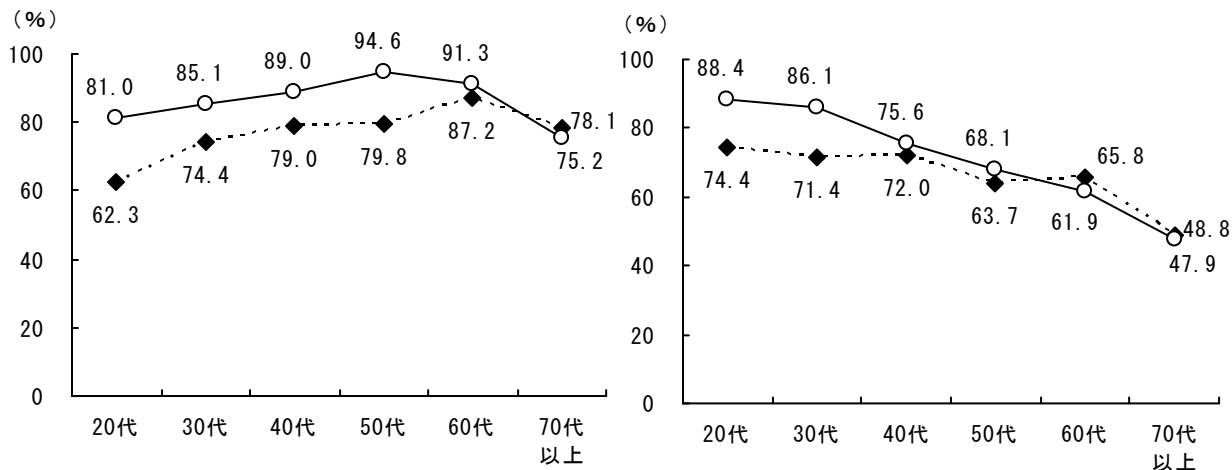
一方、「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した人が、『(イ) 食を通じたコミュニケーションを充実させている』と『(エ) 食事に関する作法に気をつけている』は2割以上、『(オ) 自ら料理に取り組んでいる』においては3割と、その割合はほかの項目に比べやや高い。

(ア)～(オ)について「必ずしている」、「しばしばしている」、「時々している」の“している”と回答した人の割合を性・年代別にみると、すべての取り組みにおいて、男性の割合より女性の割合が高くなっている。

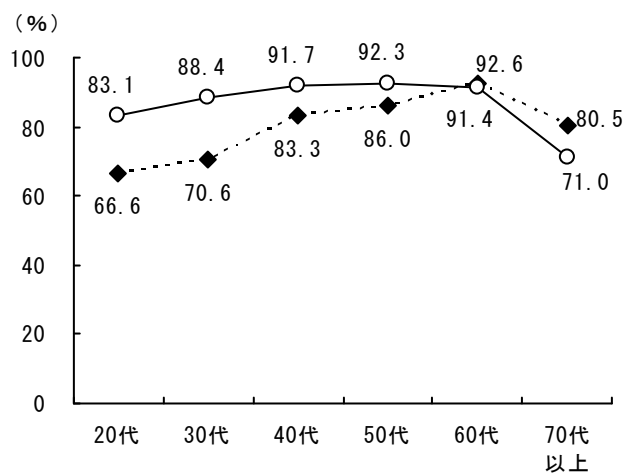
また、『(ア) 日本独自の食生活の実践や栄養バランスに気をつけている』と『(ウ) 毎日朝食をとるなど規則正しい食生活に努めている』については、年代が上がるにつれて割合も高くなる傾向になっているが、70代上ではやや落ちこんでいる。一方、『(イ) 食を通じたコミュニケーションを充実させている』では、年代が若くなるにつれて割合が高くなる傾向となっている。また、『(エ) 食事に関する作法に気をつけている』では、20代と50代で4割以下になっているなどやや割合が低く、『(オ) みずから料理に取り組んでいる』では、20代と70代上でやや低めの傾向となっている。

【性・年代別】※「必ずしている」+「しばしばしている」+「時々している」

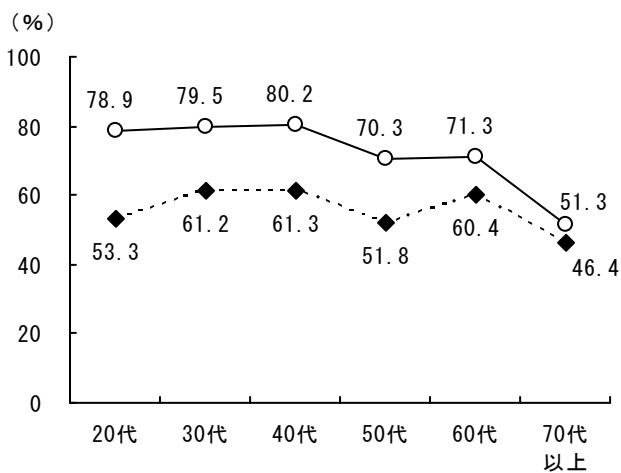
(ア) 日本独自の食生活の実践や栄養バランスに気をつけている (イ) 食を通じたコミュニケーションを充実させている



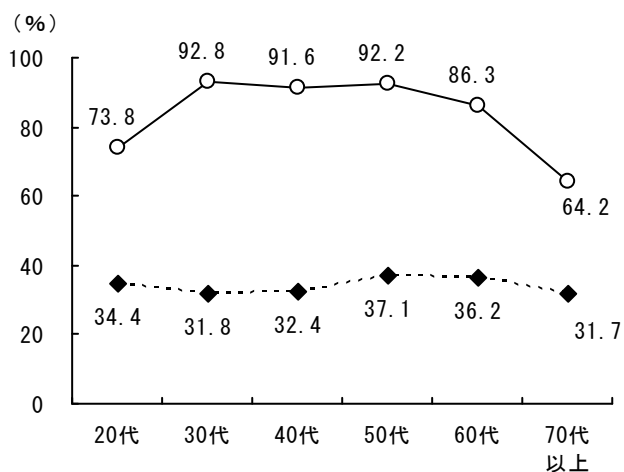
(ウ) 毎日朝食をとるなど規則正しい食生活に努めている



(エ) 食事に関する作法に気をつけている



(オ) みずから料理に取り組んでいる

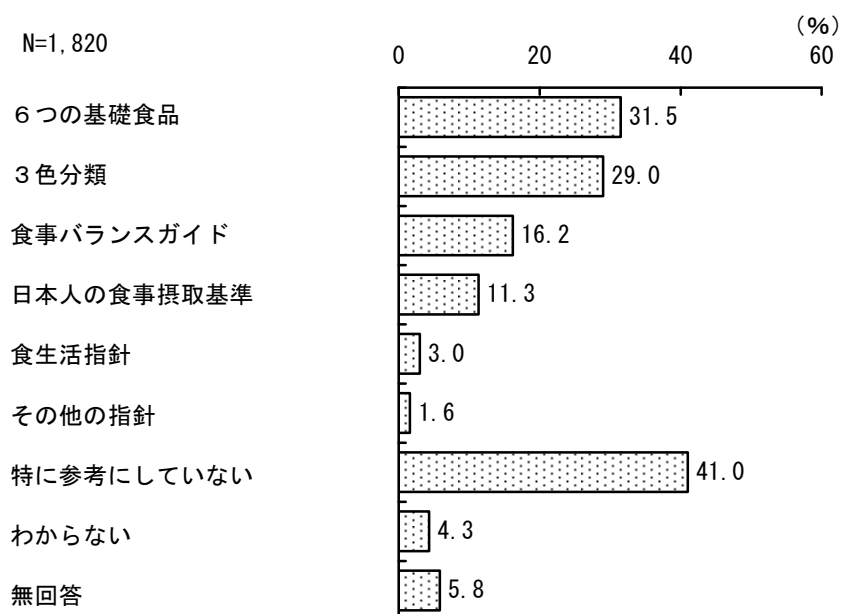


男性		女性	
男性20代	N=90	女性20代	N=95
30代	N=129	30代	N=180
40代	N=114	40代	N=156
50代	N=143	50代	N=182
60代	N=149	60代	N=160
70代上	N=82	70代上	N=117

#### IV. 調査結果

##### (12) 健全な食生活を実践するために参考にしている指針

問22 健全な食生活を実践するためには、市民一人一人が自分にとって必要な食事の量を把握し、その人に適した食事をとることが必要です。あなたは、日常の健全な食生活を実践するため、どのような指針などを参考にしていますか。次の中から3つまで選んでください。  
(M. A)

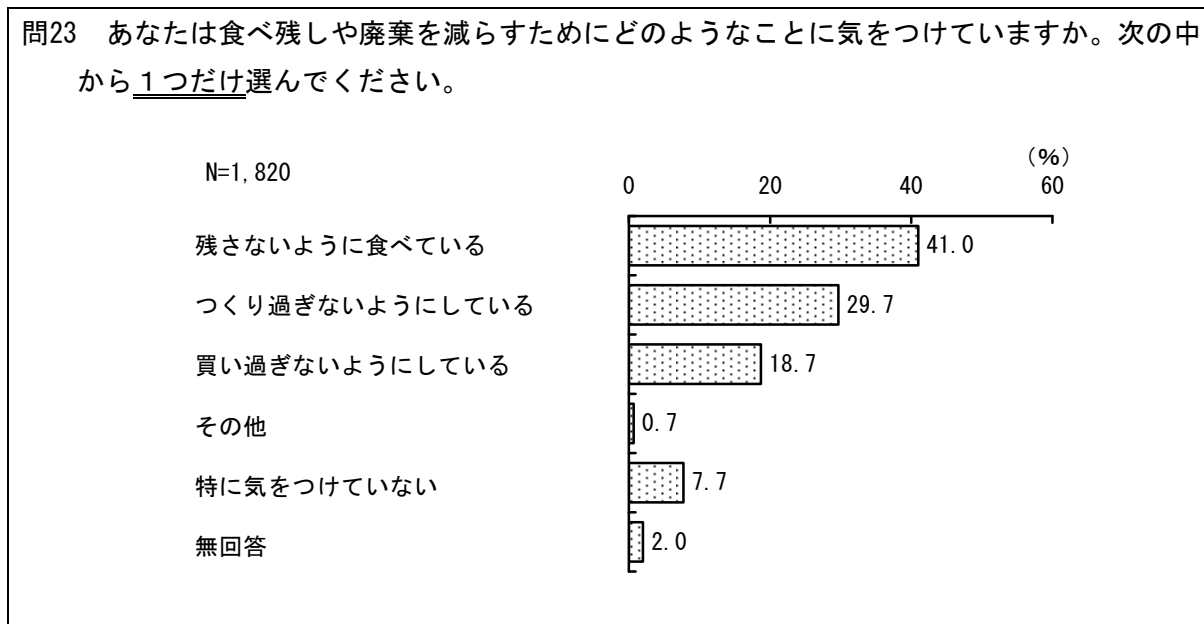


健全な食生活を実践するために参考にしている指針について尋ねたところ、「特に参考にしていない」と回答した人が約4割なのに対し、参考にしているものがあるという人は約半数でその割合はやや高い。

また、参考にしている指針については「6つの基礎食品」が31.5%と最も多く、次いで「3色分類」が29.0%と僅差で続いており、上位2項目の割合が高くなっている。以下「食事バランスガイド」が16.2%、「日本人の食事摂取基準」が11.3%などと続いている。

(13) 食べ残しや廃棄を減らすために気をつけていること

問23 あなたは食べ残しや廃棄を減らすためにどのようなことに気をつけていますか。次の中から1つだけ選んでください。

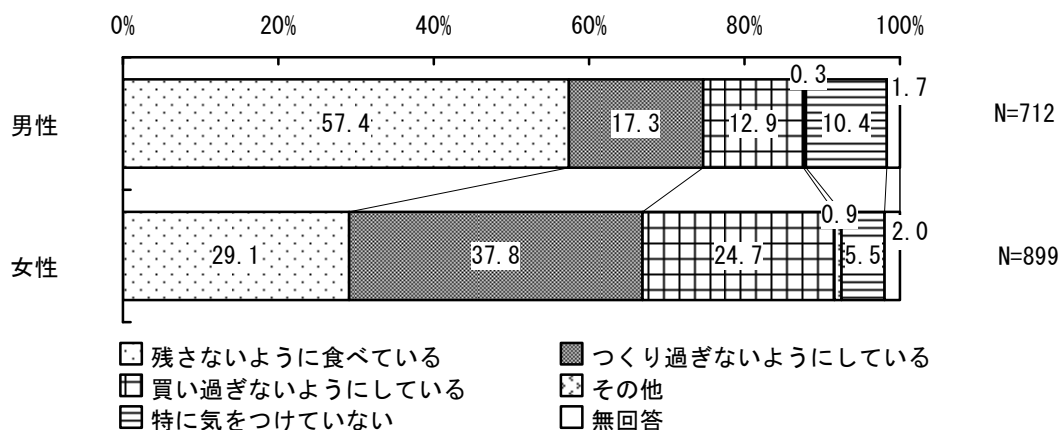


食べ残しや廃棄を減らすために気をつけていることを尋ねたところ、「特に気をつけていない」と回答した人が7.7%に対し、何かしら気をつけているという人は約9割とその割合は非常に高い。

気をつけていることについては、「残さないように食べている」が41.0%と最も割合が高く、次いで「つくり過ぎないようにしている」が29.7%、「買い過ぎないようにしている」が18.7%などとなっている。

性別にみると、男性では「残さないように食べている」が最も多く57.4%、次いで「つくり過ぎないようにしている」が17.3%、「買い過ぎないようにしている」が12.9%の順に対して、女性では「つくり過ぎないようにしている」が最も多く37.8%、次いで「残さないように食べている」が29.1%、「買い過ぎないようにしている」が24.7%の順に多くなっている。

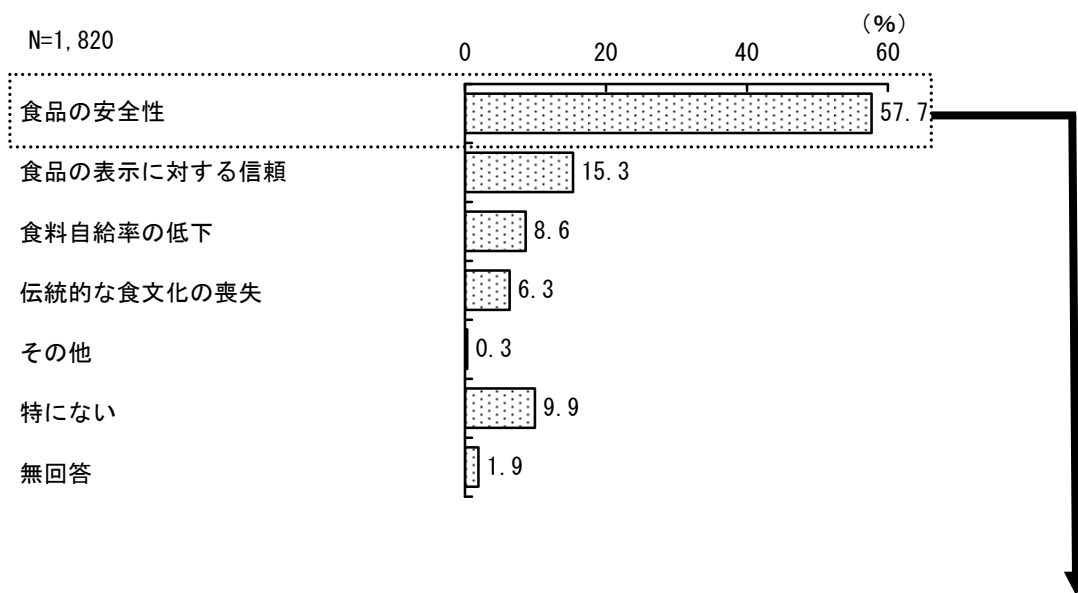
【性別】



IV. 調査結果

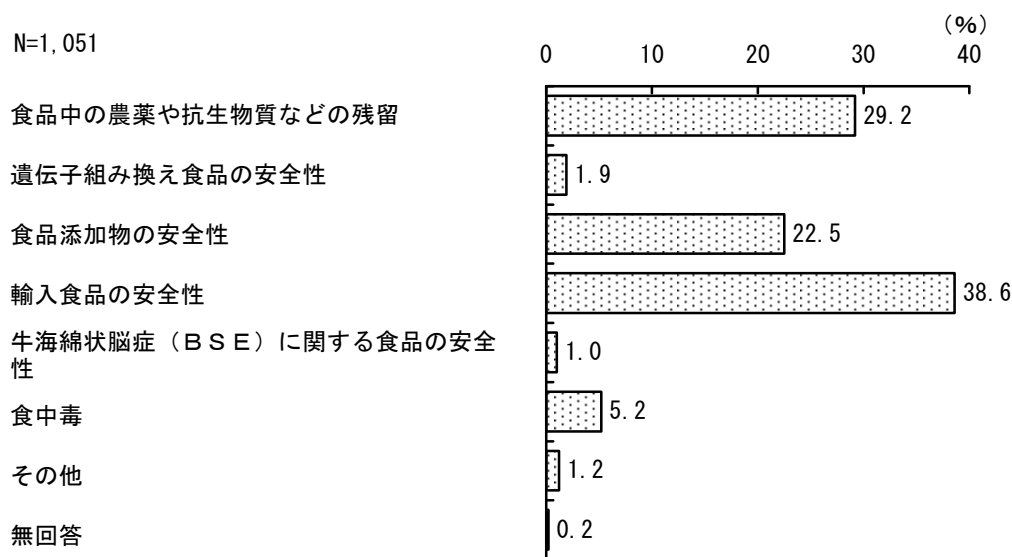
(14) 食に関して不安に感じること

問24 あなたが食に関して不安に感じることはどのようなことですか。次の中から1つだけ選んでください。



【問24で「1. 食品の安全性」と回答した人にお聞きします。】

問24-1 どのようなことに不安を感じますか。次の中から1つだけ選んでください。

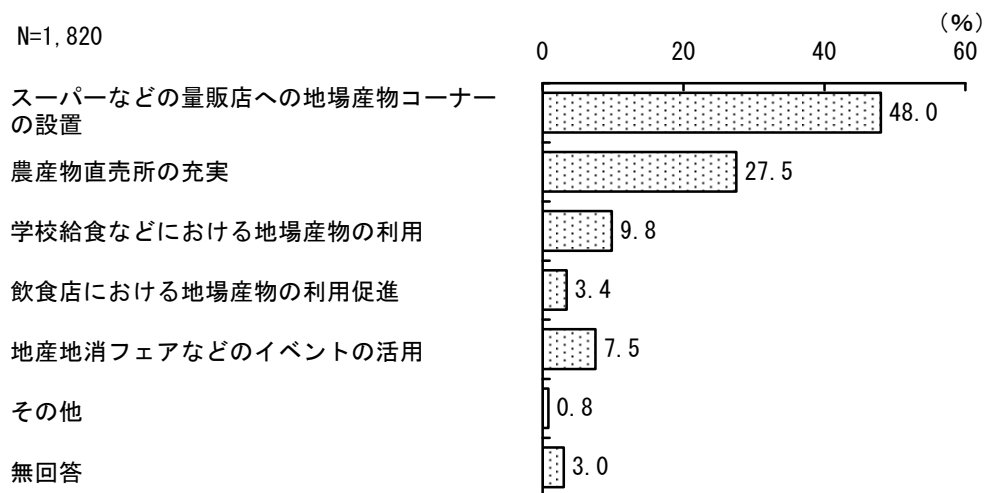


食に関して不安に感じることを尋ねたところ、「特にない」と回答した人が約1割に対し、何らかの不安を感じるという人は約9割と非常に高い。なお、不安に感じることについては「食品の安全性」が57.7%と最も多く約6割を占めている。

また、「食品の安全性」で具体的にどのような不安を感じるか尋ねたところ、「輸入食品の安全性」が38.6%と最も多く、次いで「食品中の農薬や抗生物質などの残留」が29.2%、「食品添加物の安全性」が22.5%などと続いている。

## (15) 地産地消を推進するために効果的な方法

問25 ※地産地消を推進するためには、どのような方法が効果的だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



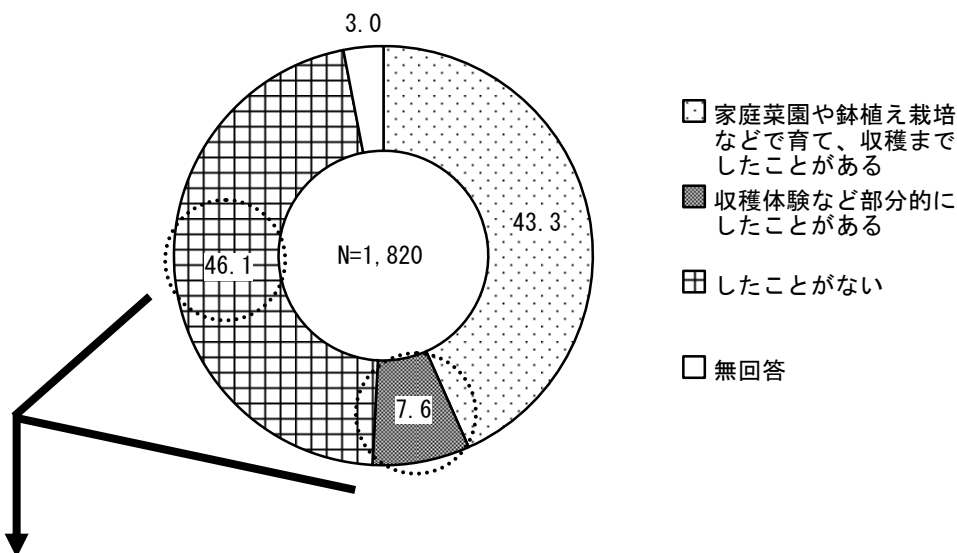
※地産地消とは・・・地場生産－地場消費を略した言葉で、地域で生産されたものを地域で消費することをいいます。食料に対する安全志向の高まりを背景とした、消費者と生産者の相互理解を深める取り組みの一つです。

地産地消を推進するための効果的な方法について尋ねたところ、「スーパーなどの量販店への地場産物コーナーの設置」と回答した人が48.0%と最も多く、次いで「農産物直売所の充実」が27.5%、「学校給食などにおける地場産物の利用」が9.8%などと続いている。

IV. 調査結果

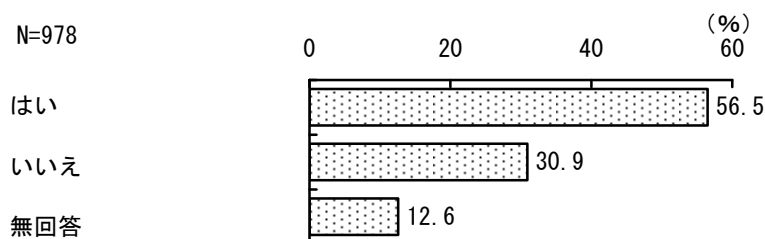
(16) 過去3年間の農業体験の有無

問26 あなたは過去3年間に「農業体験」をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



【問26で「2～3」と回答した人にお聞きします。】

問26-1 家庭菜園や鉢植えなどで育て、収穫までしてみたいと思いますか。



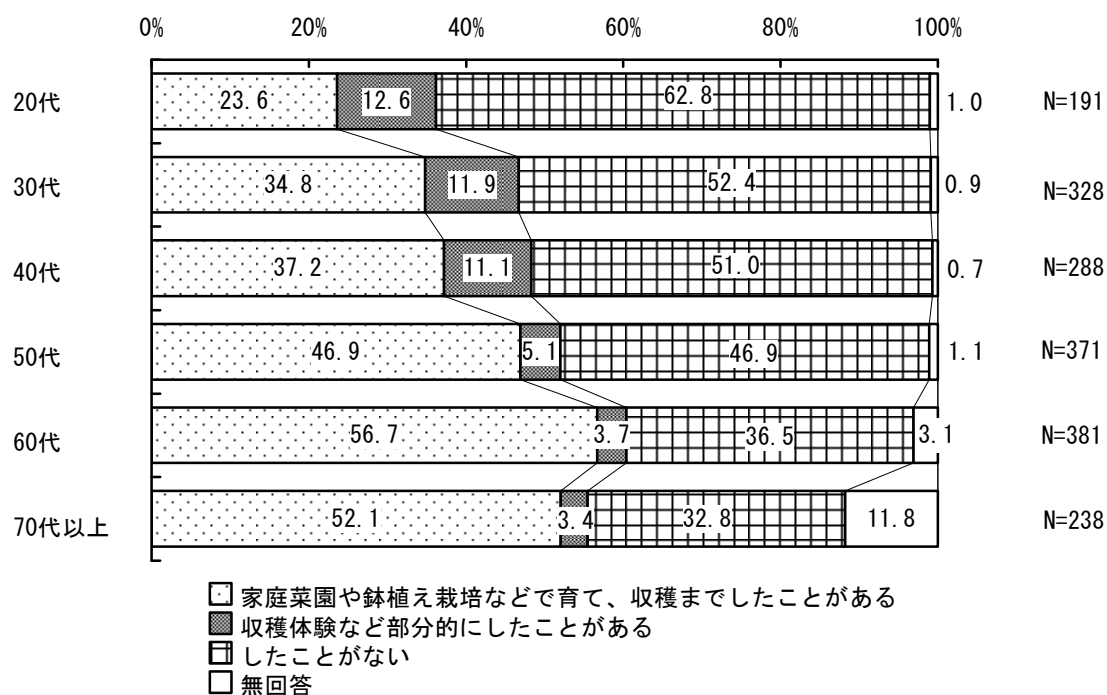
この3年間の農業体験について尋ねたところ、「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て収穫までしたことがある」と回答した人は43.3%で、「したことがない」と回答した人の方が46.1%とやや多く、「収穫体験など部分的にしたことがある」の7.6%と合わせると、自分で育てたものを収穫まで行ったことがないという人が半数以上となっている。

また、「収穫体験など部分的にしたことがある」または「したことがない」と回答した人に、家庭菜園や鉢植えなどで育て収穫までしてみたいかを尋ねたところ、「はい」が56.5%、「いいえ」が30.9%で、してみたいという人の割合の方が高くなっている。



年代別にみると、40代以下では「したことがない」が最も多く、特に20代では6割を超えている。50代では「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て収穫までしたことがある」及び「したことがない」が最も多くなっている。60代以上では家庭菜園や鉢植え栽培などで育て収穫までしたことがある」が最も多く半数を超えている。

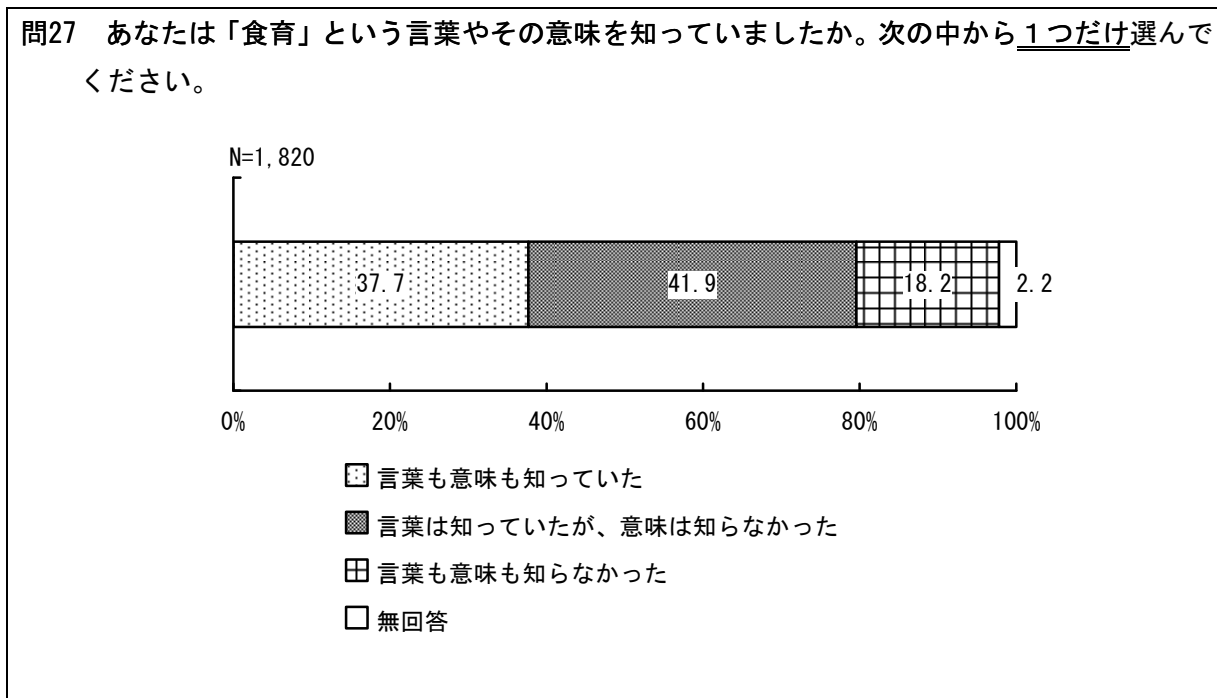
【年代別】問26 農業体験の有無



IV. 調査結果

(17) 食育の認知度

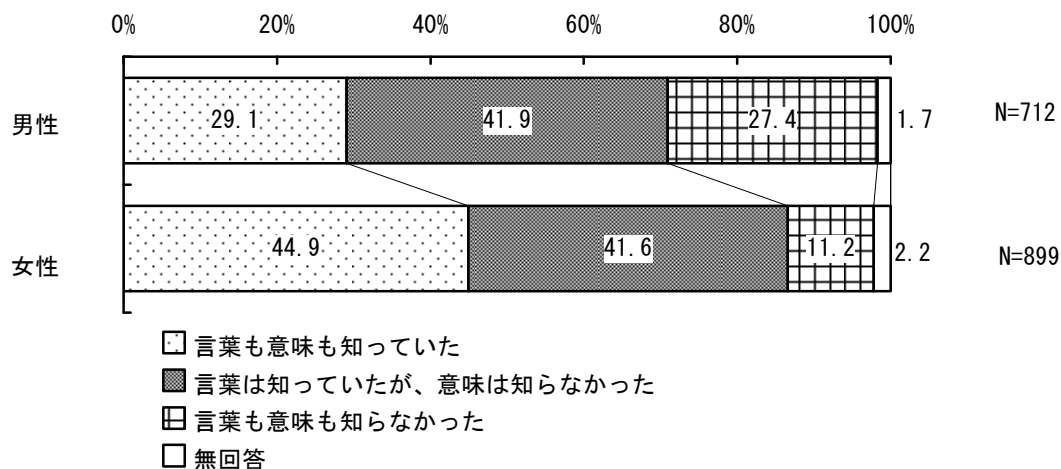
問27 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。次の中から1つだけ選んでください。



食育についてどの程度知っているか尋ねたところ、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答した人が最も多く41.9%で、「言葉も意味も知っていた」と回答した人の37.7%と合わせると約8割の人が食育という言葉を知っており、認知度は高い。

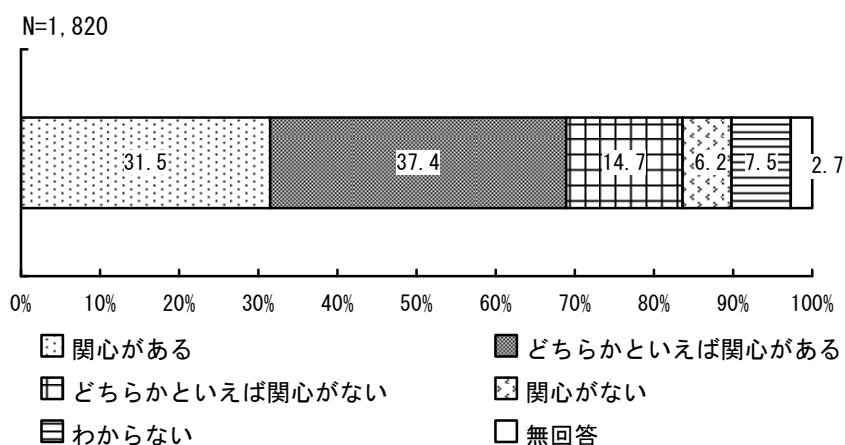
性別にみると、男性では「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が最も多く41.9%、女性では「言葉も意味も知っていた」が最も多く44.9%となっている。女性の方が男性よりも「食育」の認知度は高い。

【性別】



(18) 食育への関心

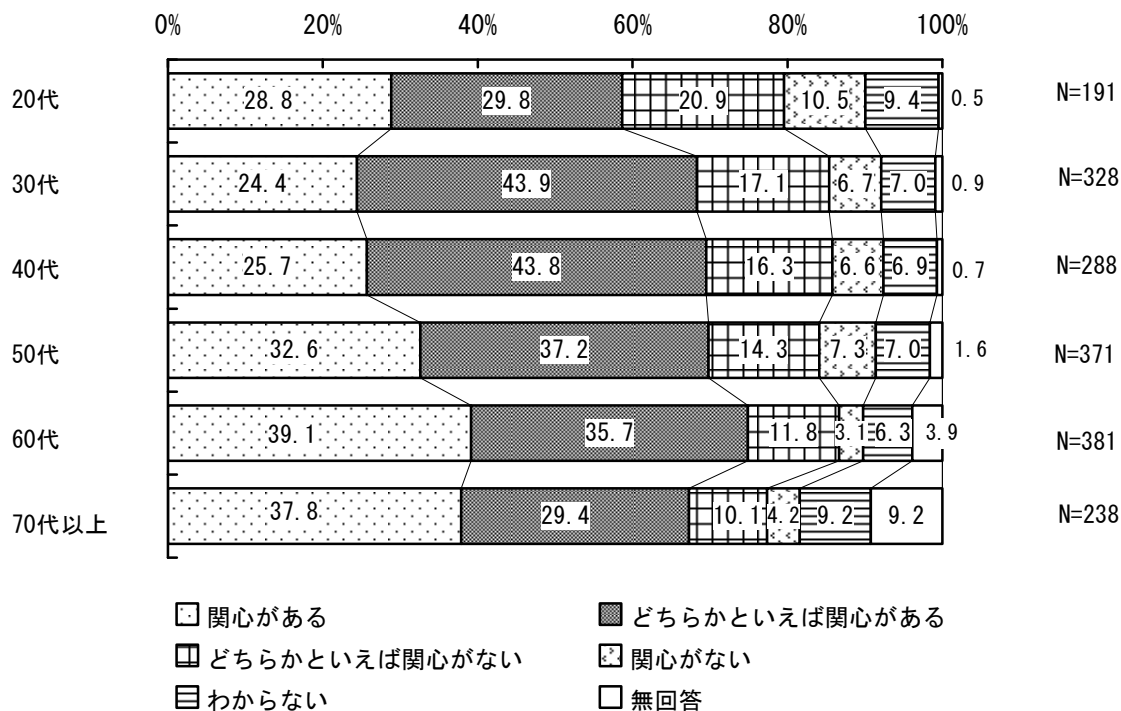
問28 あなたは「食育」に関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。



食育への関心について尋ねたところ、「どちらかといえば関心がある」と回答した人が最も多く37.4%、「関心がある」と回答した人の31.5%と合わせると、約7割の人が関心を持っている。

年代別にみると、50代以下では「どちらかといえば関心がある」が最も多く、60代以上では「関心がある」が最も多くなっている。

【年代別】



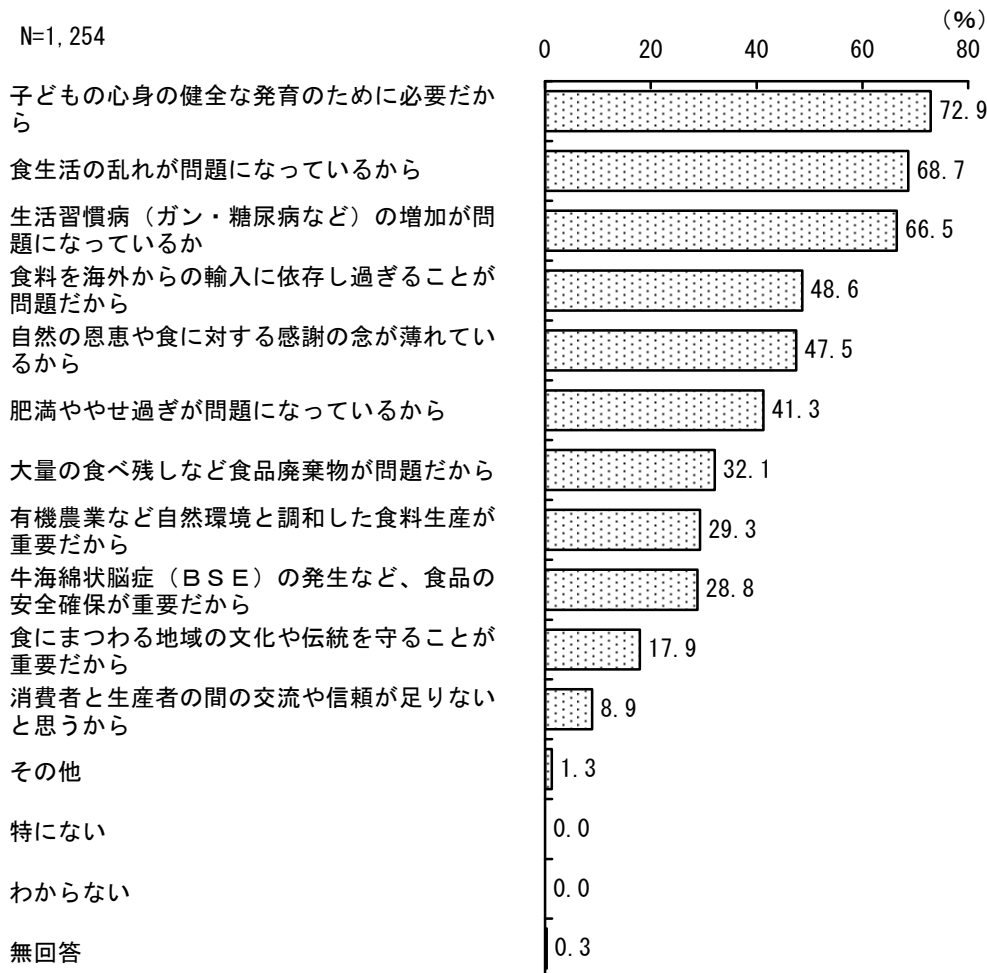
IV. 調査結果

(19) 食育に関心がある理由

【問28で「1～2」と回答した人にお聞きします。】

問28-1 あなたが「食育」に関心がある理由について、次の中から該当するものをすべて選んでください。(M. A)

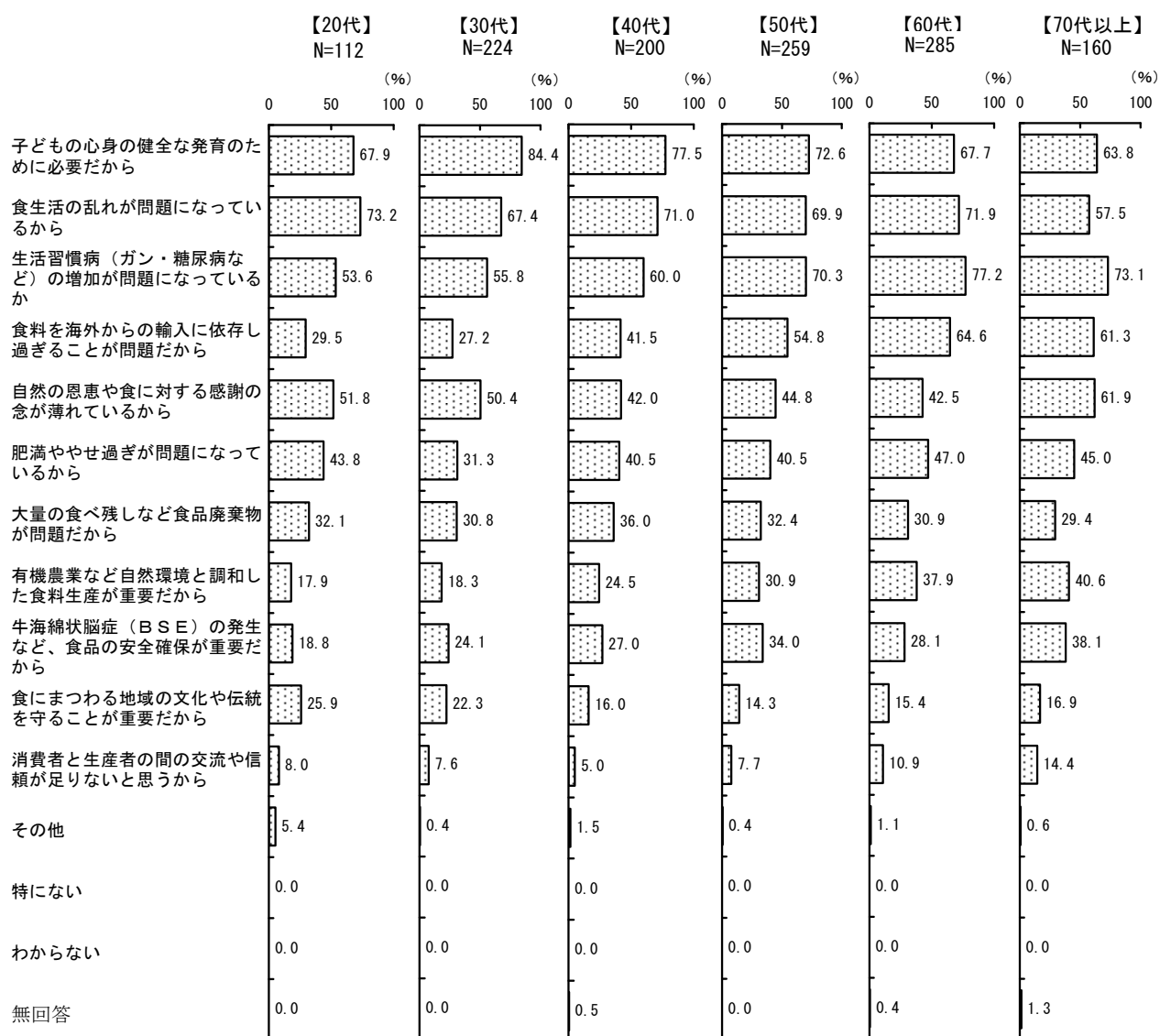
N=1,254



食育に関心がある理由について尋ねたところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が72.9%と最も多く、次いで「食生活の乱れが問題になっているから」が68.7%、「生活習慣病（ガン・糖尿病など）の増加が問題になっているから」が66.5%と僅差で続き、これら上位3項目が特に多くなっている。以下、「食料を海外からの輸入に依存し過ぎることが問題だから」が48.6%、「自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから」が47.5%、「肥満ややせ過ぎが問題になっているから」が41.3%などと続いている。

年代別にみると、20代では「食生活の乱れが問題になっているから」が最も多く、30代～50代では「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が最も多くなっている。また、60代以上では「生活習慣病（ガン・糖尿病など）の増加が問題になっているから」が最も多くなっており、この項目については50代以上で7割と非常に高くなっている。また、「食料を海外からの輸入に依存し過ぎることが問題だから」は、特に60代以上で6割を超えるなど年代が上がるほどに多くなっている。

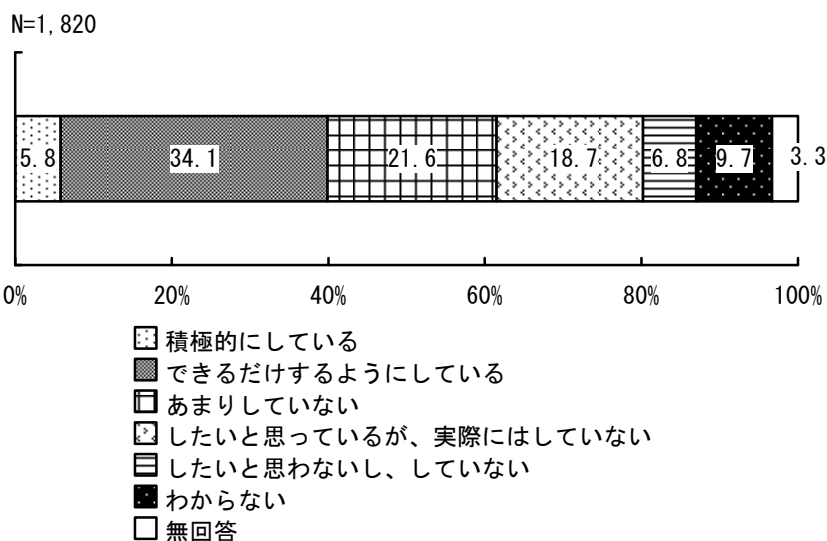
【年代別】



IV. 調査結果

(20) 食育の実践度

問29 あなたは日ごろから、健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。★食育の具体的な活動内容を参照



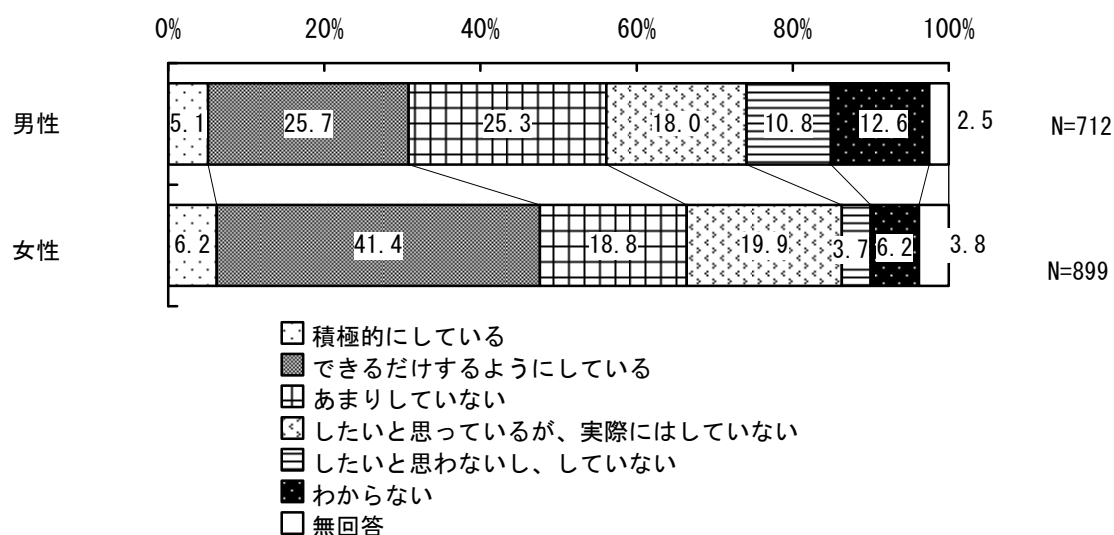
★食育の具体的な活動としては、

- ・ 栄養バランスのとれた食生活の実践
  - ・ より安全な食品の購入
  - ・ 農業生産、加工活動への参加・体験
  - ・ 食に関する伝統行事への参加
  - ・ 食生活の改善に関する勉強会への参加
  - ・ 食にかかわるボランティア活動への参加
  - ・ 食料自給状況に関する理解の向上
- などが挙げられます。

食育に関する活動や行動をしているか尋ねたところ、「できるだけするようにしている」と回答した人が34.1%と最も多く、「積極的にしている」の5.8%と合わせると約4割の人が「食育」を実践している。

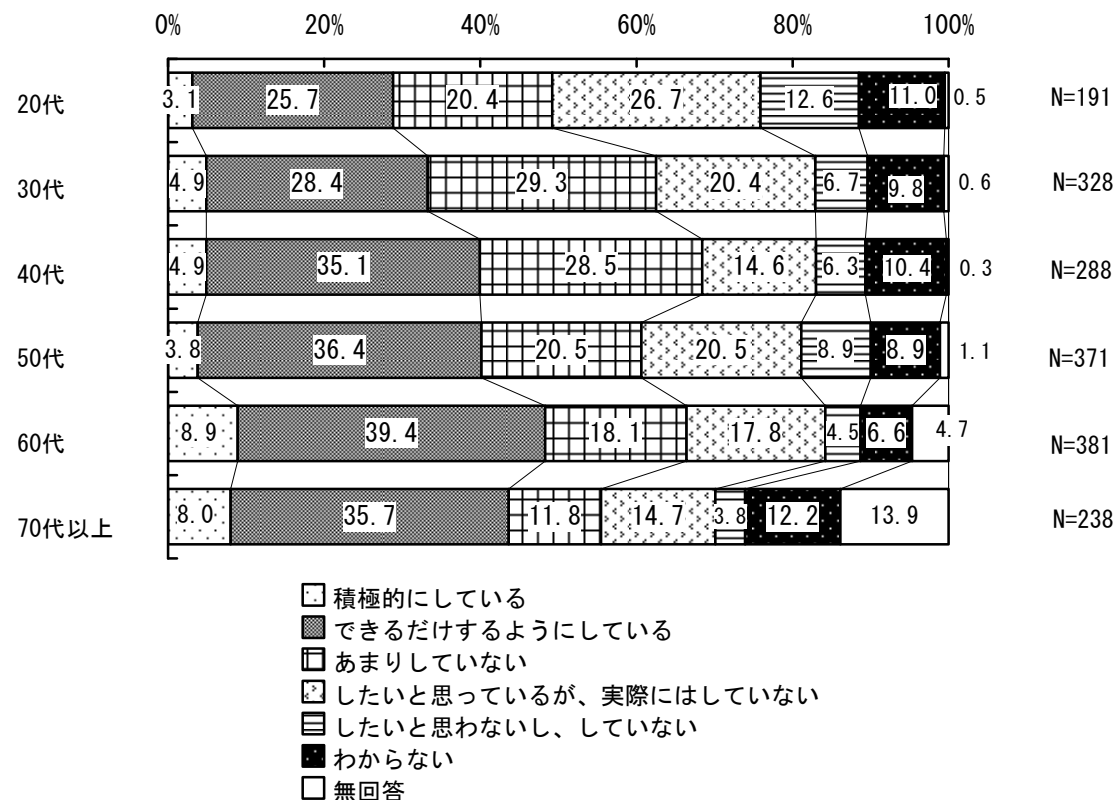
性別にみると、男女ともに「できるだけするようにしている」が最も多くなっているが、男性は25.7%、女性は41.4%と差がみられ、女性の方が男性よりも「食育」を実践している割合が高い傾向にある。

【性別】



年代別にみると、20代では「したいと思っているが、実際にはしていない」が最も多く、30代では「あまりしていない」、40代以上では「できるだけするようにしている」が最も多くなっている。また、20代においては「したいと思わないし、していない」がほかの年代やや多い。

【年代別】

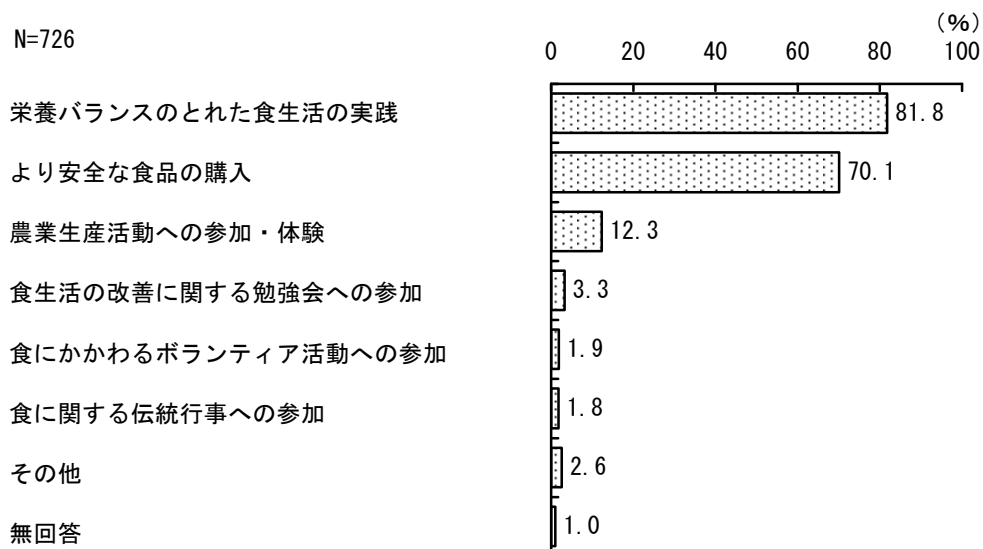


#### IV. 調査結果

##### (21) 具体的な食育に関する活動や行動

【問29で「1～2」を回答した人にお聞きします。】

問29—1 具体的にどのような活動や行動をしていますか。次の中から主なものを2つまで選んでください。(M. A)

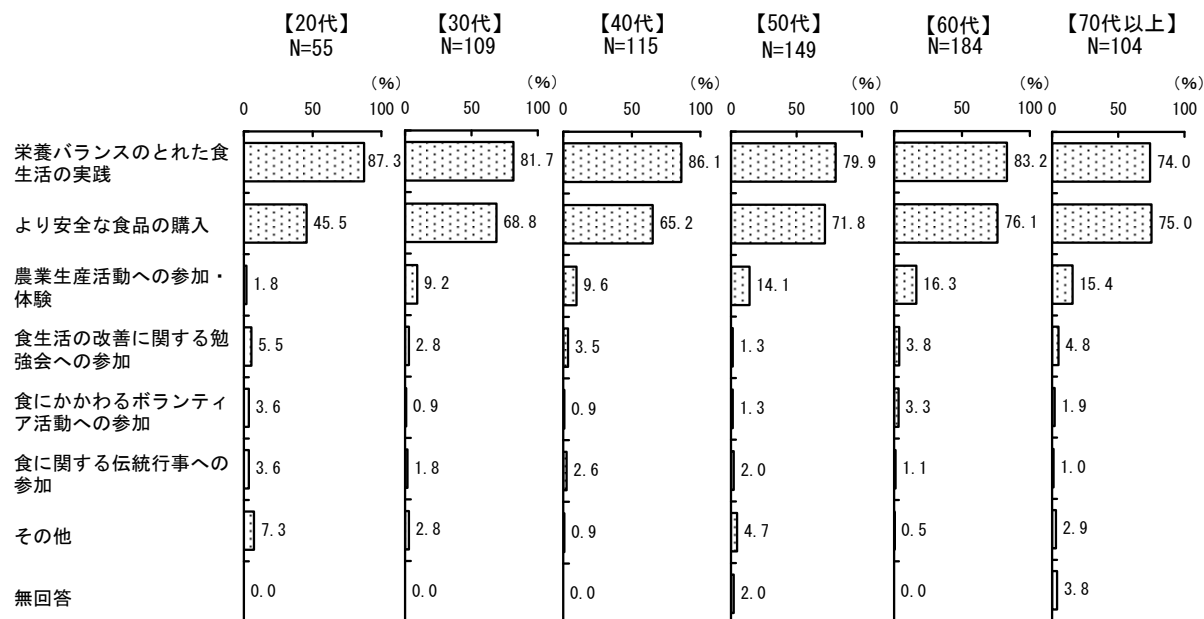


食育に関する具体的な活動や行動について尋ねたところ、「栄養バランスのとれた食生活の実践」が81.8%と最も多く、次いで「より安全な食品の購入」が70.1%と続き、上位2項目の割合が圧倒的に高い。



年代別にみると、60代以下では「栄養バランスのとれた食生活の実践」が最も多く、70代以上では「より安全な食品の購入」が最も多くなっている。また、50代以上では「農業生産活動への参加・体験」がほかの年代よりもやや多くなっている。

【年代別】

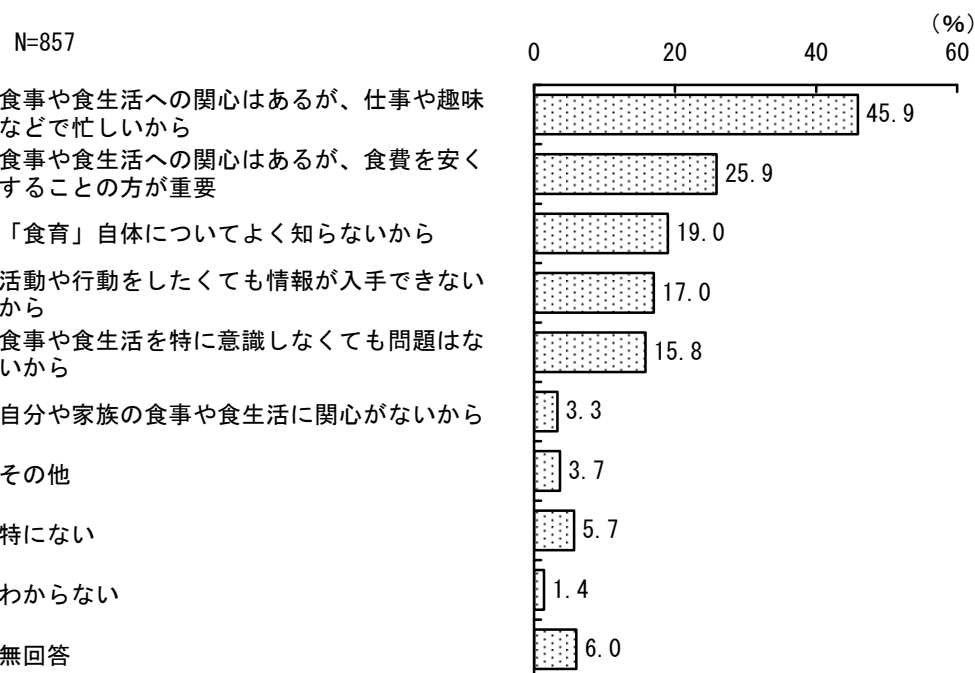


#### IV. 調査結果

##### (22) 食育に関する活動や行動をしていない理由

【問29で「3～5」と回答した人にお聞きします。】

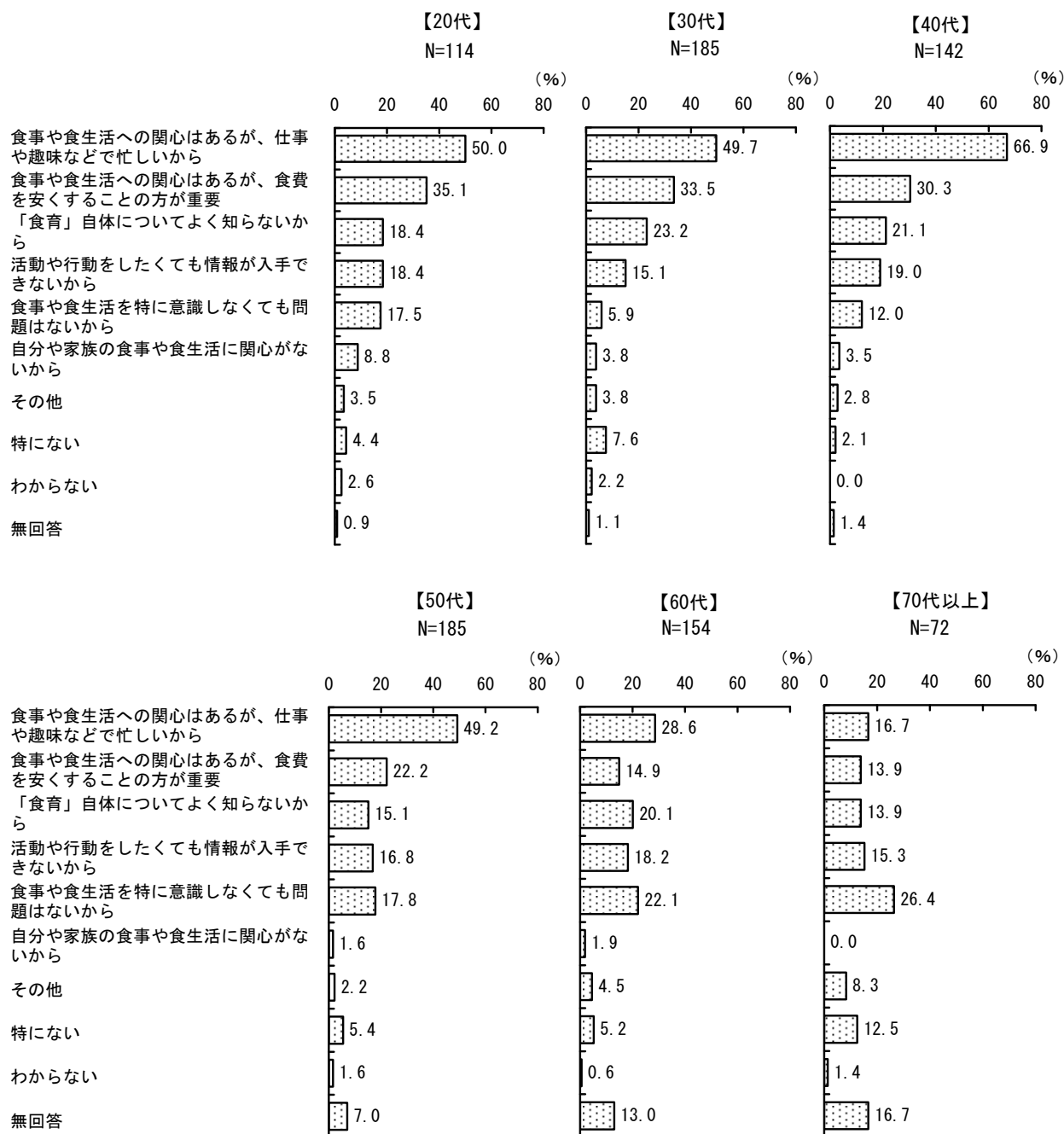
問29-2 あなたが「食育」に関する活動や行動をしていない理由は何ですか。次の中から該当するものをすべて選んでください。(M. A)



食育に関する活動や行動をしない理由について尋ねたところ、「食事や食生活への関心はあるが、仕事や趣味などで忙しいから」が45.9%と最も多く、次いで「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要」が25.9%、「食育」自体についてよく知らないから」が19.0%などと続いている。

年代別にみると、60代以下では「食事や食生活への関心はあるが、仕事や趣味などで忙しいから」が最も多く、70代以上では「食事や食生活に特に意識しなくても問題はないから」が最も多くなっている。また、40代以下では「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要」がほかの年代に比べやや多くなっている。

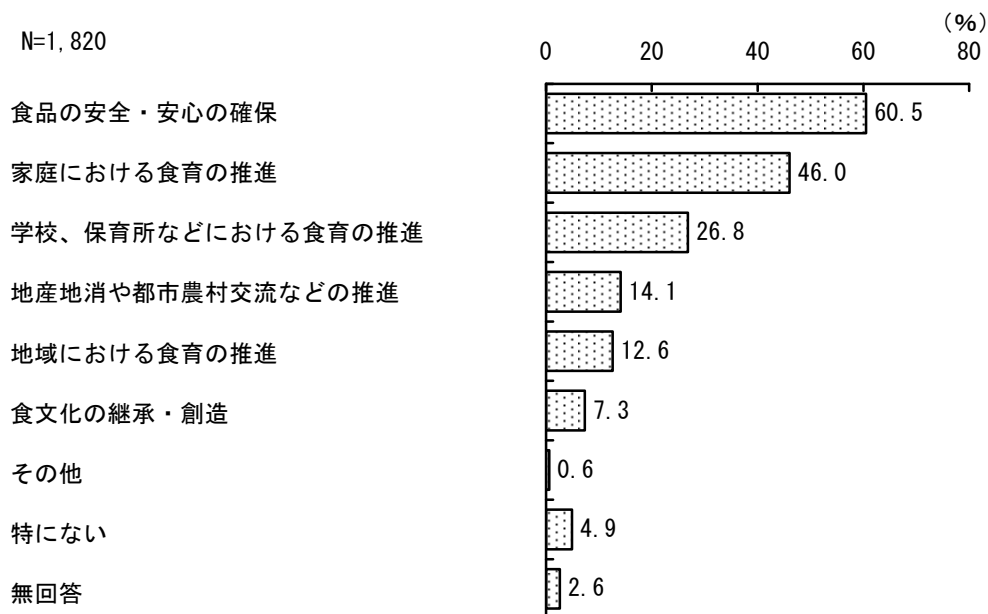
【年代別】



#### IV. 調査結果

##### (23) 富士市における食育について求める取り組み

問30 今後の富士市における「食育」への取り組みについて、あなたが求めるものはどのようなことですか。次の中から主なものを2つまで選んでください。(M. A)



今後の富士市における食育への取り組みに求めるものについて尋ねたところ、「食品の安全・安心の確保」が60.5%と最も多く、次いで「家庭における食育の推進」が46.0%、「学校、保育所などにおける食育の推進」が26.8%などと続いている。

年代別にみると、すべての年代において「食品の安全・安心の確保」が最も多く、年代が上がるほどに多くなっている。また、30代では「学校、保育所などにおける食育の推進」がほかの年代よりもやや多くなっている。

【年代別】

